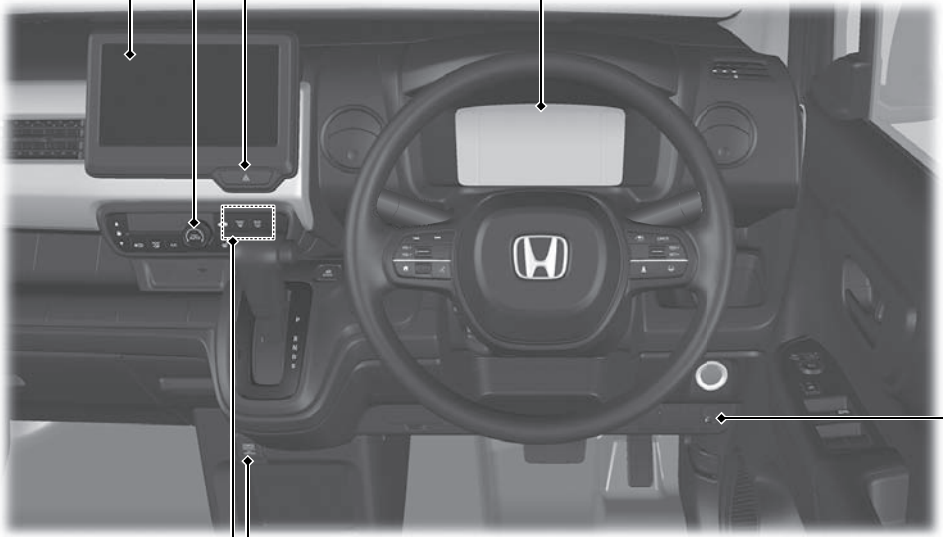
N-WGN
N-WGN Custom

オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



ナビゲーションまたはオーディオ*※

オートエアコン P. 160

非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）

メーター P. 71

警告灯 P. 59

表示灯 P. 66

時計 / 日付 P. 97

マルチインフォメーション
ディスプレイ P. 74

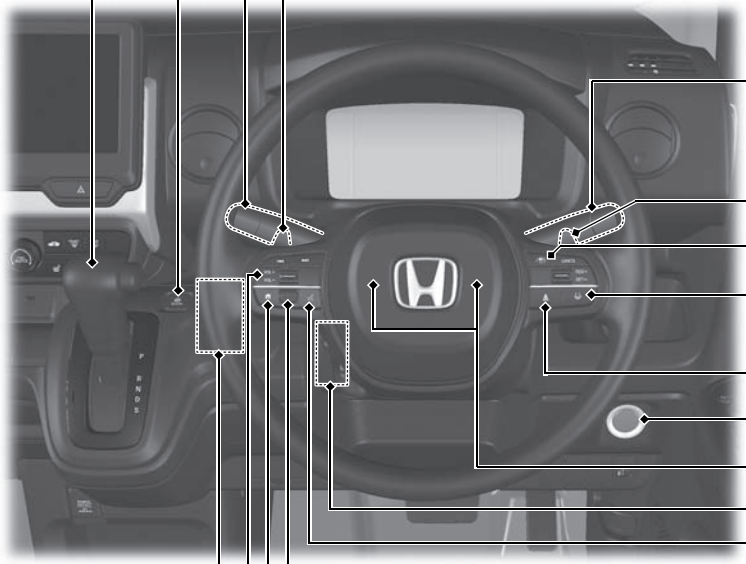
ヘッドライトレベリング
ダイヤル P. 128

アクセサリーソケット P. 156

リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー* スイッチ P. 134

デフロスタースイッチ P. 162

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

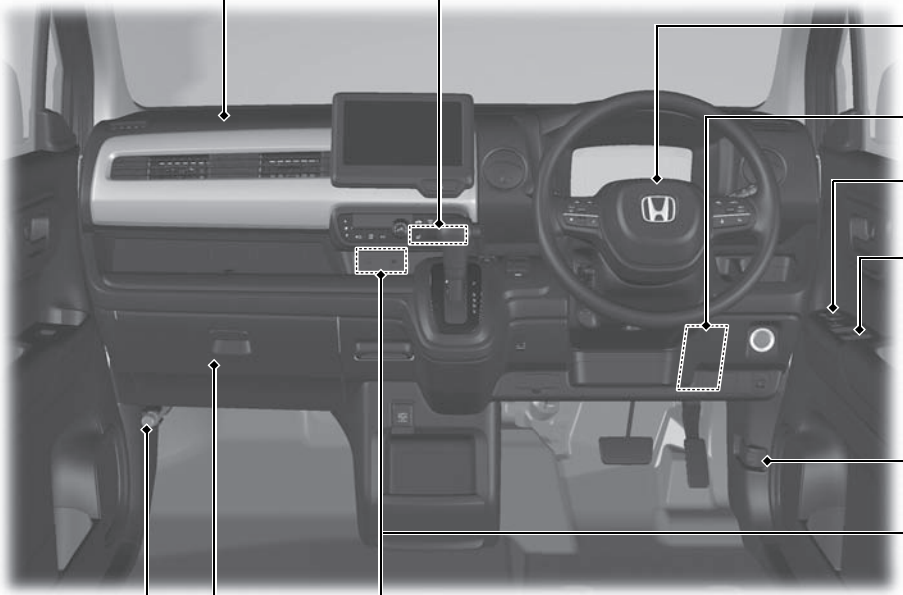


セレクトレバー P. 176
ECON スイッチ P. 180
ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 132
シフトスイッチ(シフトダウン)* P. 179
ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 124, 125
フォグライトスイッチ* P. 126
シフトスイッチ(シフトアップ)* P. 179
スイッチ P. 233
車線維持支援システム(LKAS)スイッチ P. 256
ディスタンススイッチ P. 242
ENGINE START/STOP スイッチ P. 121
ホーンスイッチ (周辺)
ハンドル位置調節レバー P. 135
発話スイッチ※
レフトセレクターホイール P. 75
スイッチ P. 97
オーディオリモートコントロールスイッチ※
パーキングブレーキスイッチ P. 277
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 282

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 32

シートヒータースイッチ P. 158

SRSエアバッグシステム（運転席用） P. 32

室内のヒューズボックス P. 377

ドアミラー調節スイッチ P. 136

パワーウィンドースイッチ P. 119

ボンネット解除ノブ P. 310

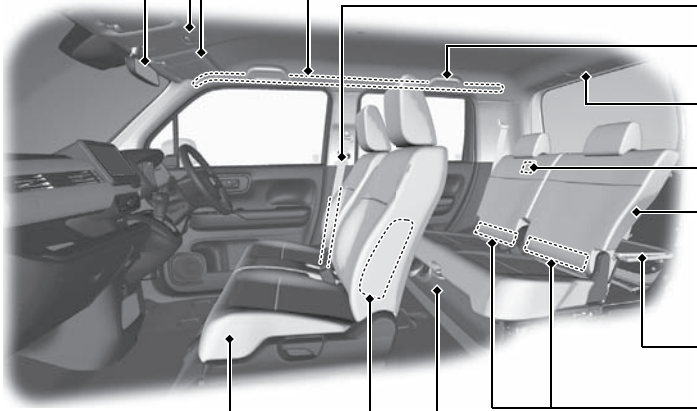
USB ジャック（充電専用） P. 157

USB ジャック※

グローブボックス P. 150

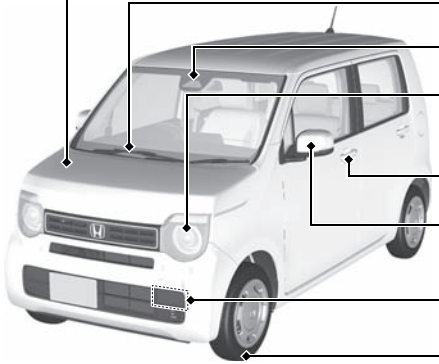
発炎筒 P. 346

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

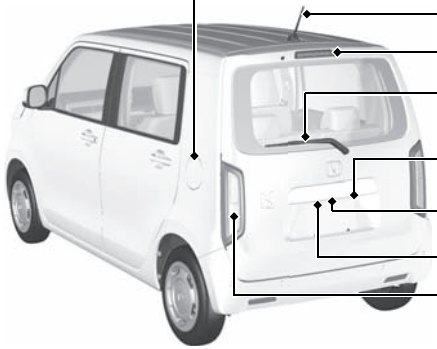


ルームミラー P. 136
室内灯 P. 149, 319
サンバイザー
バニティミラー
サイドカーテンエアバッグシステム P. 37
シートベルト P. 24
グラブレール
室内灯 P. 149, 319
コンビニフック P. 155
リヤシート P. 140
フロアボード P. 151
ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 49
リヤシートアンダートレイ P. 150
サイドエアバッグシステム P. 35
フロントシート P. 138

ビジュアル目次



エンジンルーム内のメンテナンス P. 308, 309
ワイパー P. 132, 320
フロントワイドビューカメラ P. 274
ヘッドライト P. 125, 314
ウィンカー P. 124, 314
ドアの施錠 / 解錠 P. 101
ドアミラー P. 136
ドアミラーウィンカー P. 124
フォグライト* P. 126, 315
タイヤ P. 325, 347

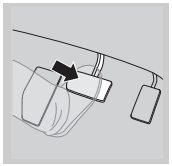
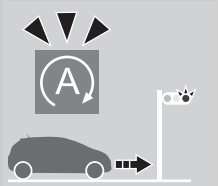
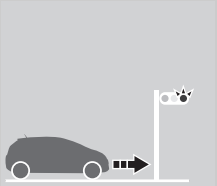
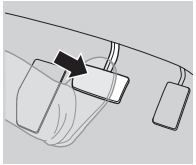
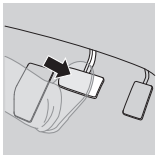
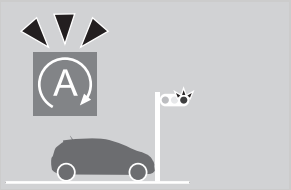
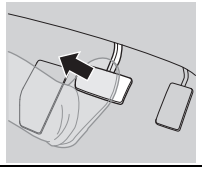
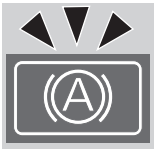
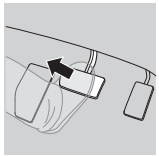
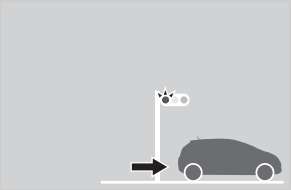
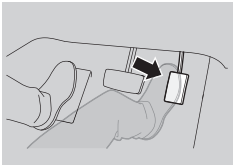


給油のしかた P. 295
アンテナ P. 165
ハイマウントストップランプ P. 318
リヤワイパー P. 133, 323
テールゲートの開閉 P. 115
番号灯 P. 318
リアワイドカメラシステム※ P. 294
制動灯 / 尾灯 P. 316
ウィンカー P. 124, 316
後退灯 P. 316

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。
アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。P. 181

走行状態	オートマチックブレーキホールドシステムが OFF のときの操作 P. 282	操作後のエンジンの状態		オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときの操作 P. 282
減速	ブレーキペダルを踏んだまま停車する直前もしくは停車してブレーキペダルを踏む。	停車する直前の場合： アイドリングストップする。	停車の場合： エンジン作動中	停車してブレーキペダルを踏む。
停車	ブレーキペダルを踏み続ける。	アイドリングストップ中		メーター内のオートマチックブレーキホールド表示灯とアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯しているのを確認してブレーキペダルから足を離す。
発進	ブレーキペダルを離す。	エンジンが自動的に再始動		オートマチックブレーキホールドによりブレーキを保持した場合はアクセルペダルを踏む。

安全なドライブ P. 22

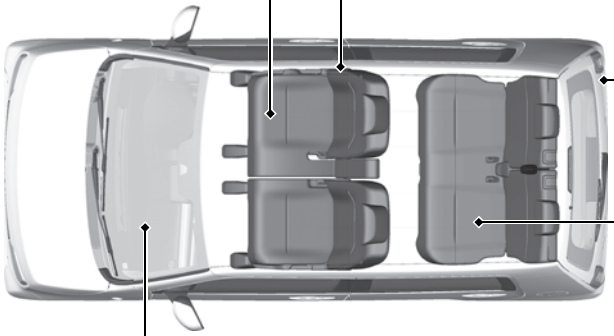


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 23

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 24

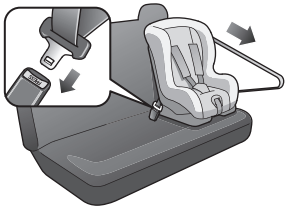


排気ガスについて P. 55

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 P. 42

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

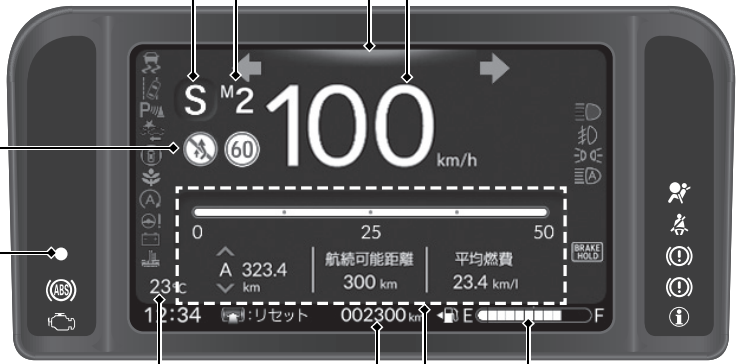


エアバッグ P. 32

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.56

警告灯 P.59 ／表示灯 P.66 ／メーター P.71 ／マルチインフォメーションディスプレイ P.74



シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯* P.67

シフトポジション表示灯 P.67
(トランスミッション警告灯 P.61)

標識認識機能表示 P.72

セキュリティアラームシステム作動表示灯 P.67
(イモビライザーシステム表示灯 P.67)

外気温表示 P.72

アンビエントメーター P.71

スピードメーター P.71

燃料計 P.71

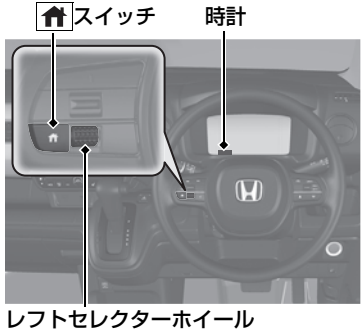
マルチインフォメーションディスプレイ P.74

オドメーター P.71

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作 P. 96

時刻と日付を合わせる P. 97



スイッチを押し、レフトセレクターホイールを操作する。

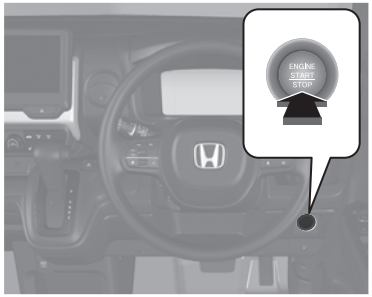
▶ 時計 / 車両設定から時刻を合わせることができます。 P. 97

Honda インターナビシステム装備車

時計と日付は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻、日付合わせは不要です。

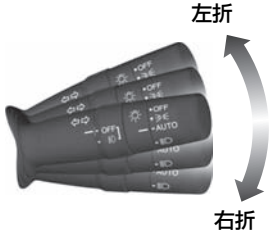
ENGINE START/STOP スイッチ P. 121

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



ウィンカー P. 124

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



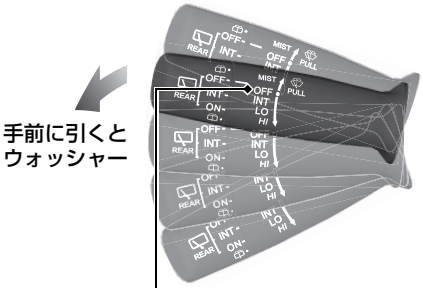
ライト P. 125

ライトスイッチ



ワイパー P. 132

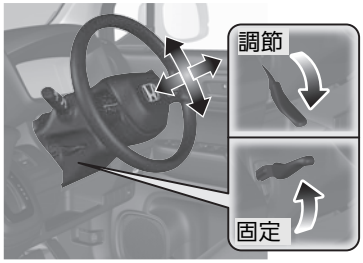
ワイパー/ ウォッシャースイッチ



- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量が多いとき)

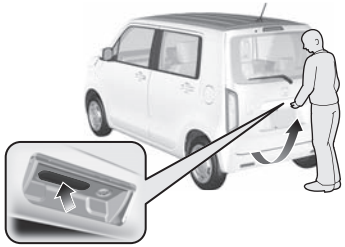
ハンドル位置の調節 P. 135

●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



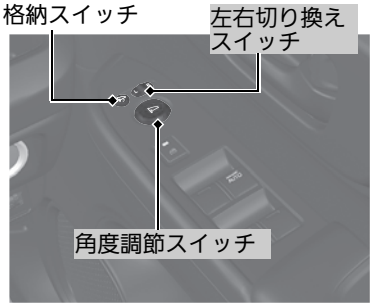
テールゲート P. 115

●施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートのオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。



ドアミラー P. 136

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。

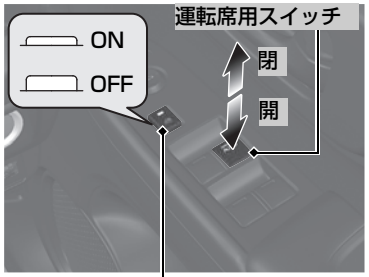


パワーウィンドー P. 119

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

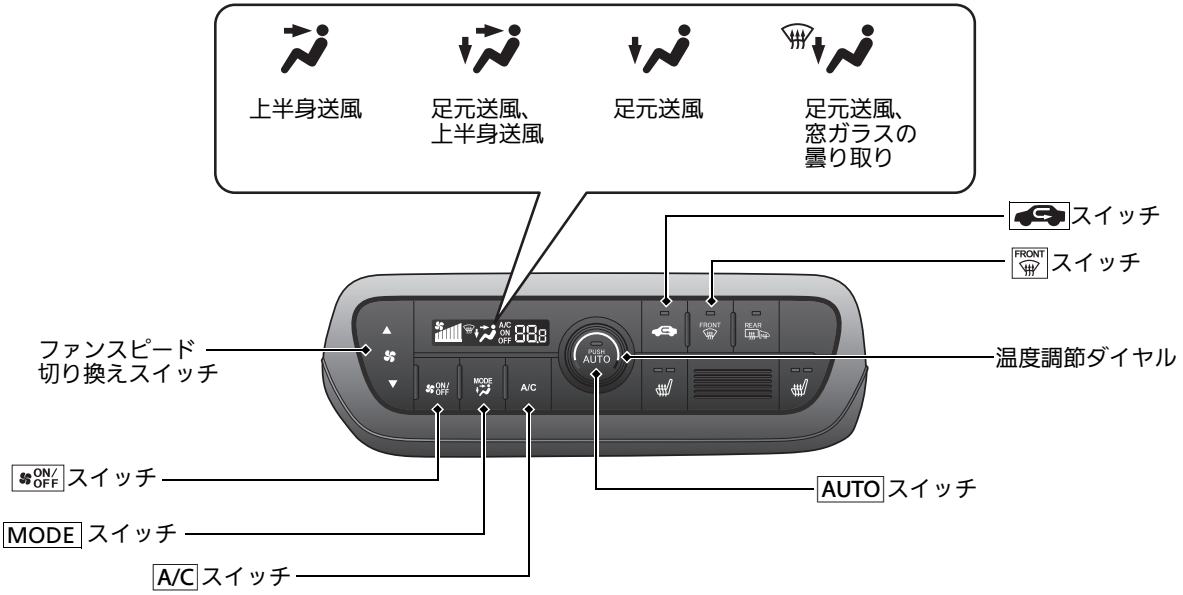
●パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。

●パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、 運転席以外のウィンドーが非作動になります。



エアコン P.159

●AUTOを押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



運転 P.166

無段変速オートマチック車 P.175

●セレクトレバーを[P]に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

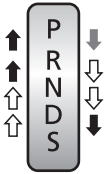
セレクトレバー

セレクトレバーの操作

ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押さず、そのまま操作

ボタンを押して操作





P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

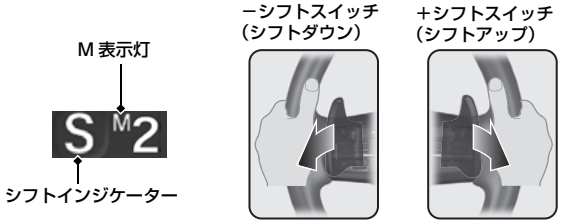
S ドライブ(S)
- 上り坂や下り坂を走行するとき
- 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

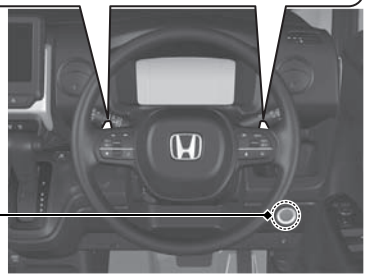
7速マニュアルシフトモード* P.178

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。

セレクトレバーが[S]のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになります。M(7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーが[D]のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。





VSA の ON と OFF P. 187

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、マルチインフォメーションディスプレイの VSA モード設定を使用します。

➔ **VSA モード設定** P. 86

CMBS の ON と OFF

P. 195

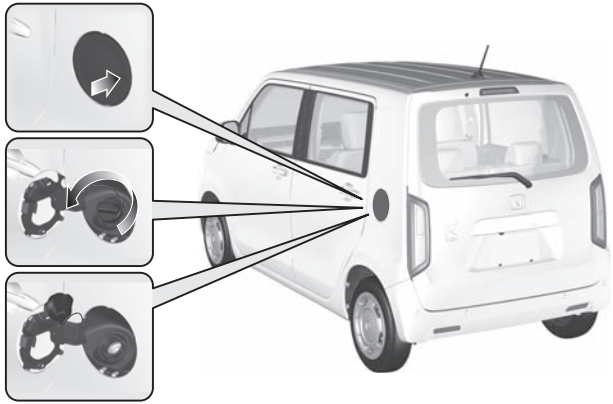
- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- エンジンを始動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS の ON と OFF を切り換えるには、マルチインフォメーションディスプレイの安全支援情報を使用します。

➔ **安全支援情報** P. 83

ガソリンを入れる P. 295

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：
2WD 車 27 リットル
4WD 車 25 リットル

1. 運転席ドアを解錠する。P. 112
2. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離すとリッドが少し浮き上がる。
3. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、キャップを開ける。
4. キャップをホルダーにかける。



Honda SENSING P. 189

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 192

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム P. 202

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。フロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のエンジンの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 213

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 222

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

急アクセル抑制機能*

P. 208

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） P. 230

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム（LKAS） P. 252

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

先行車発進お知らせ機能

P. 263

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 268

走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム P. 129

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

パーキングセンサーシステム P. 290

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

メンテナンス P. 299



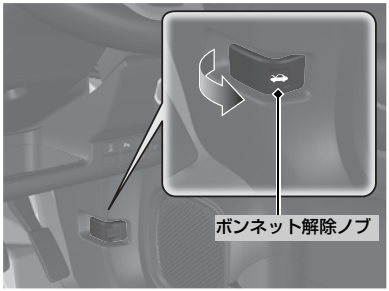
ワイパーブレード P. 320

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

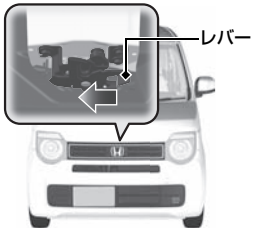
エンジンルーム P. 308, 313, 369

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。

1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



2 ボンネット中央のレバーを左に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



タイヤ P. 325

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト P. 314

●ヘッドライト、番号灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 P. 375

万一の場合には P. 344

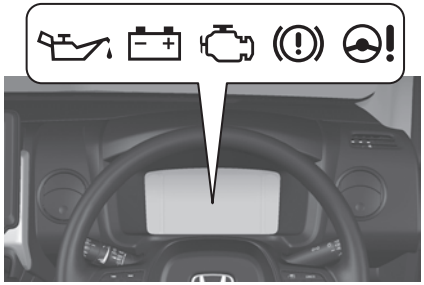
パンクした P. 347

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した P. 371

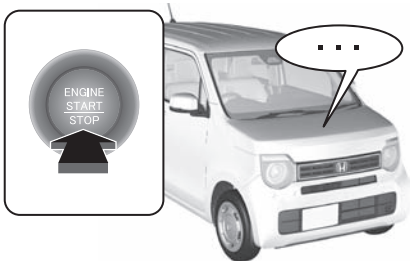
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

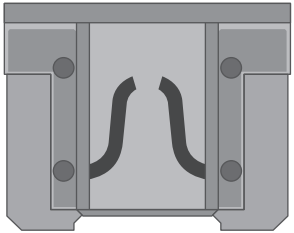
P. 361

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた P. 375

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P. 369

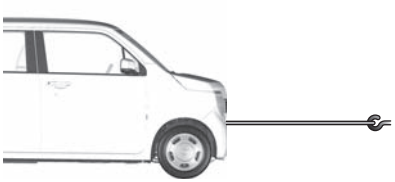
●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 380

●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず四輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。



Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



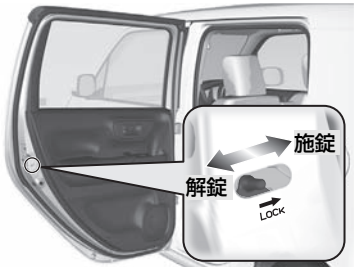
Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P. 285

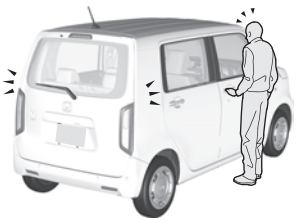
Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➔ 施錠するには（降車時オートドアロック機能） P.107

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションがP、N以外になっていますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません。)。

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバックシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.22

安全なドライブのために 23　シートベルト 24　エアバッグ 32　お子さまの安全 42
排気ガスの危険性 55

計器の見かた P.56

警告灯と表示灯 57　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 71

各部の操作 P.96

時刻 / 日付の設定 97　ドアロック 101　テールゲート 115　セキュリティシステム 117
ウィンドー 119　ハンドルまわりのスイッチ 121　ミラー類 136
シート 138　室内装備品 149　エアコン 159

オーディオ P.164

オーディオ装置 165

運転 P.166

運転の前に 167　運転 169　Honda SENSING 189　ブレーキ 277
駐停車 288　リアワイドカメラシステム 294　給油 295
ターボ車* 298

メンテナンス P.299

メンテナンスの前に 300　オイルメンテナンス表示* 303　エンジンルーム内 308
電球 314　ワイパー 320　タイヤ 325　Honda スマートキー 332
エアコンのお手入れ 335　清掃 337　アクセサリーと改造 343

万一の場合には P.344

工具、発炎筒 345　パンク 347　ジャッキ 359　エンジンが始動しない 361
バッテリーがあがったとき 365　セレクトレバーが動かない 368
オーバーヒート 369　警告灯の点灯 / 点滅 371　ヒューズ 375　けん引 380
フューエルリッドが解錠できない 383　テールゲートが開かない 384

資料 P.385

仕様：N-WGN 386　仕様：N-WGN CUSTOM 388
オープンソースライセンス 390

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 23
シートベルト
シートベルトについて 24
シートベルトの着用 28
シートベルトの点検 30
シートベルトのアンカーポイント 31
エアバッグ
エアバッグの種類 32
SRS エアバッグ 32
サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37
エアバッグシステム警告灯 39
エアバッグのお手入れ 40
衝突後ブレーキシステム
衝突後ブレーキシステムについて 41
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 42
乳幼児の安全 43
大きなお子さまの安全 53
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 55

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.112
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.138
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.138
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.28
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.32
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.42
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]にしているか？
  ▶さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➔ **シフト操作** P.176
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

≫安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイ** P.74

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

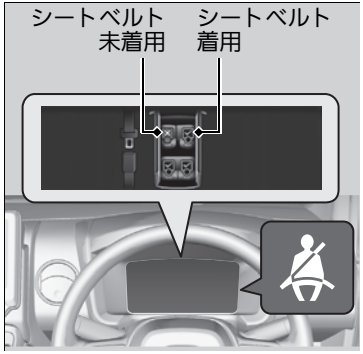
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



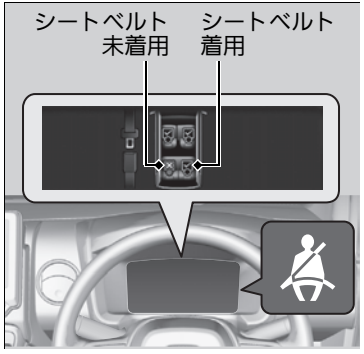
■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも各座席の装着状態が表示されます。

シートベルトリマインダー

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

次ページに続く



■リヤシート

パワーモードをON モードにしたときにリヤシートベルトを着用していないと、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。

パワーモードがON モードのときにリヤシートベルトを外すと、警告灯とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。

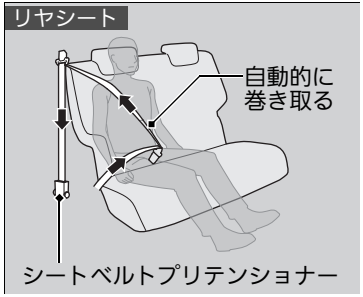
走行中にリヤシートベルトを外すと、ブザー、警告灯、マルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。





シートベルトプリテンショナー

⚠注意

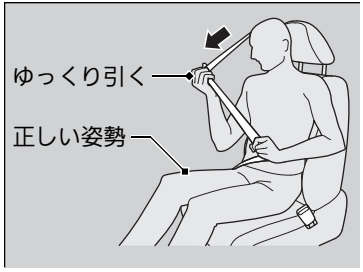
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

シートベルトの着用

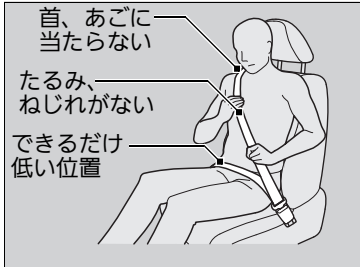
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

➔ **シートベルトについて** P.24
➔ **シートベルトの点検** P.30



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

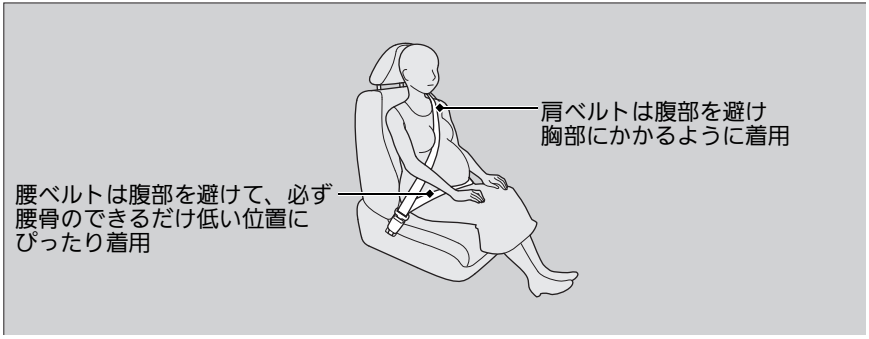
シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

▶妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

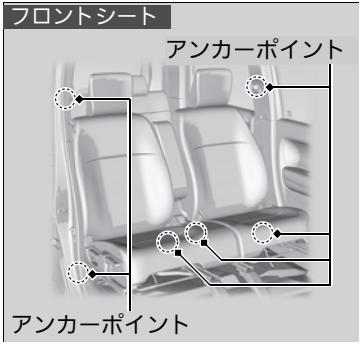
▶シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

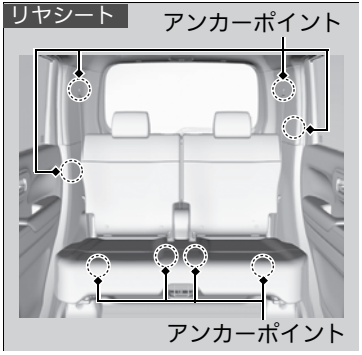
シートベルトのアンカーポイント

フロントシート



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシート



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

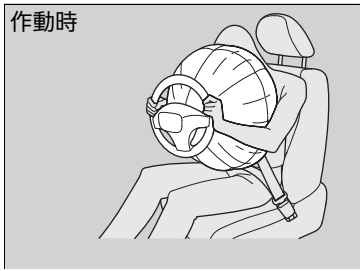
⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。
➔ **車両データの記録** P.20

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

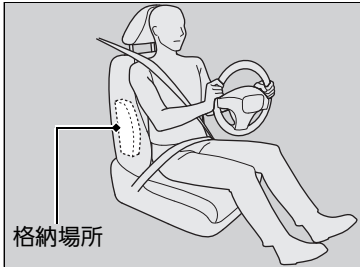
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

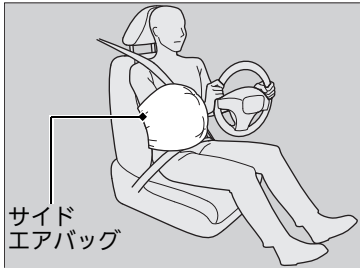
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

▩サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

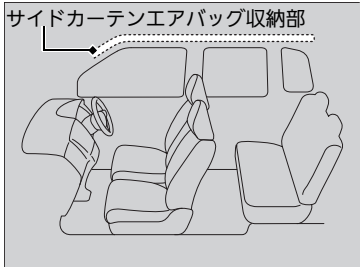
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

▩サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

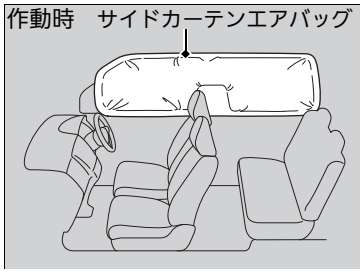
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

次ページに続く

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

作動条件 P.36

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

▶サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

≫エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

衝突後ブレーキシステムについて

エアバッグシステムが衝突を検知して作動したとき、衝突後ブレーキシステムがブレーキをかけるとともに駆動力を抑制させ、二次衝突による被害を軽減します。

■衝突後ブレーキシステムの作動条件

走行中に前方向または横方向からの衝突により、エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが作動したときに衝突後ブレーキシステムが作動します。
ただし、システムを構成する部品が破損している場合は作動しません。

■衝突後ブレーキシステムの解除条件

衝突後ブレーキシステムが作動したとき、次のいずれかの条件でシステムが解除されます。

- 車両が停車したとき
- アクセルペダルを離したあとに踏み込んだとき

»衝突後ブレーキシステムについて

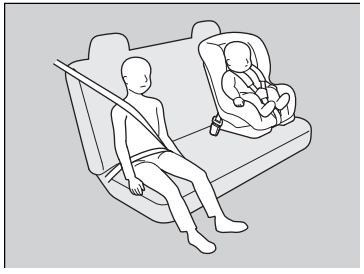
このシステムの作動で必ずしも二次衝突の被害を軽減できるとは限りません。
事故の状況によって変わります。

衝突が発生した場合は、周囲の状況を確認し、適切に車両を操作して停車させて下さい。

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。
➔ **エンジンの始動** P.169

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

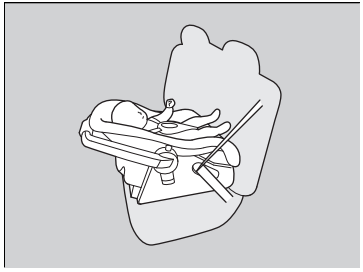
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

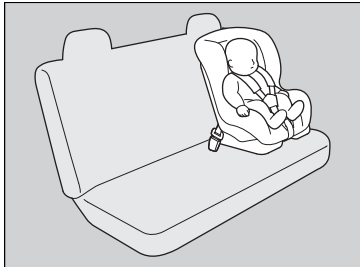
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

次ページに続く

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

≫幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

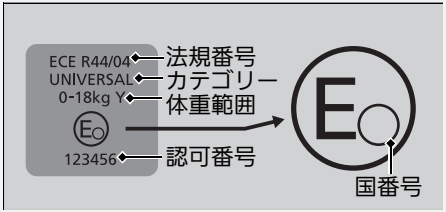
次ページに続く

チャイルドシートの選びかた

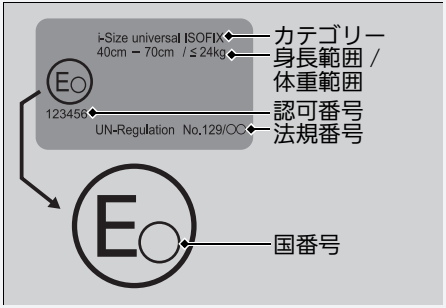
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
i-Size	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能では無い着座位置にも取り付けることができます。

シート位置番号	シートの位置		
	❶	❷	❸
	助手席※1	後席(左側)※1	後席(右側)※1
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	B3	B3	B3

※1 ：汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能では無い着座位置にも取り付けることができます。

次ページに続く

シート位置別チャイルドシート情報

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート

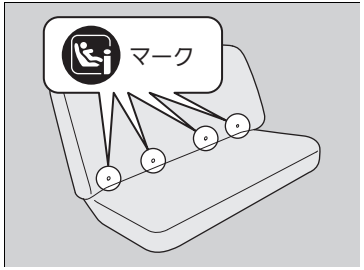
適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size（後向き）
身長 71cm 以上 かつ月齢 15ヶ月以上ー 身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

▨推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

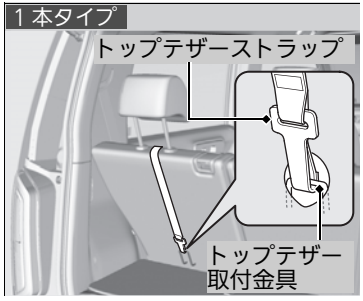
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

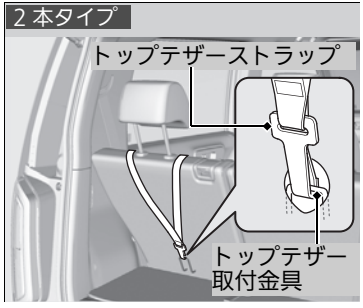
次ページに続く



1 本タイプ



2 本タイプ



トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

4. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

≫ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

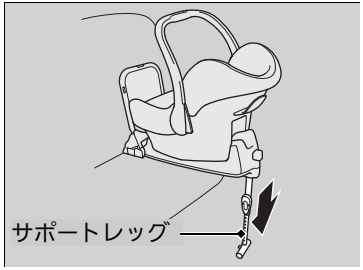
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



サポートレッグ付きチャイルドシート

3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

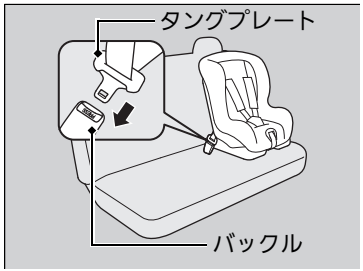
▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後位置を調整してください。

▶ スライドレールやカバーにサポートレッグが接地しないことを確認してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

次ページに続く

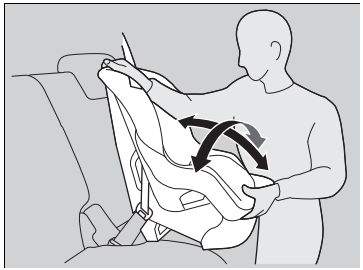
■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。

2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

▶▶シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

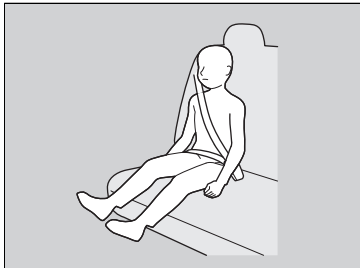
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

➔ **やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合** P.54

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

次ページに続く

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

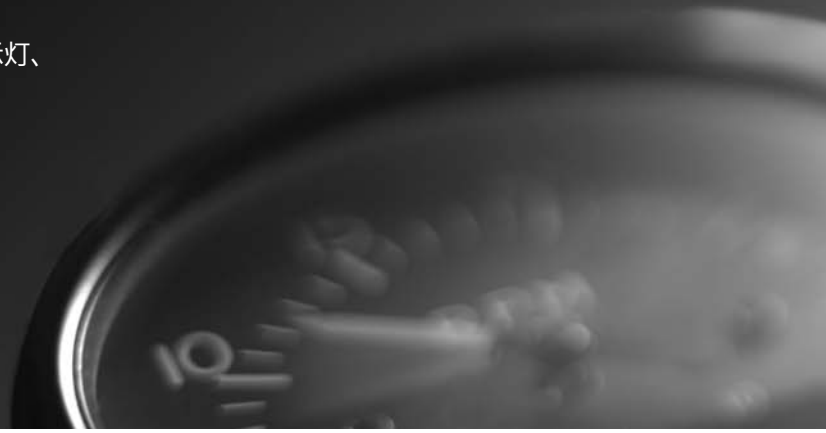
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯 57
警告灯 59
表示灯 66
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ
メーター..... 71
マルチインフォメーションディスプレイ ... 74

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。
点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従いHonda 販売店に連絡するなどして対処してください。

- ※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.59
- ※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ) P.60
- ※1 PGM-FI 警告灯 P.60
- ※1 充電警告灯 P.60
- シートベルト非着用警告灯 P.60
- トランスミッション警告灯 P.61
- 燃料残量警告灯(オレンジ) P.61
- ※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 P.61
- ※1 エアバッグシステム警告灯 P.61
- ※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 P.62
- VSA OFF 警告灯 P.62
- ※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.62
- パーキングセンサー警告灯 P.63
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯 P.66
- ライト点灯表示灯 P.66
- ハイビーム表示灯 P.66
- ※1 オートハイビーム表示灯 P.66
- フォグライト点灯表示灯* P.66
- ※1 低水温表示灯 P.66
- 急アクセル抑制機能表示灯* P.66
- シフトポジション表示灯 P.67
- シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯* P.67
- ECON モード表示灯 P.68
- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 P.68
- ※1 オートマチックブレーキホールド表示灯 P.68
- インフォメーション表示灯 P.68
- クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン) P.69

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

Ⓐ※1	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	P.62
Ⓐ	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	P.68
※1	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	P.63
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.69
※1	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	P.63
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.69
※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	P.63
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	P.69
※1	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	P.63
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	P.69
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	P.64
※1	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.64
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	P.70
○	イモビライザーシステム表示灯	P.67
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.67

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

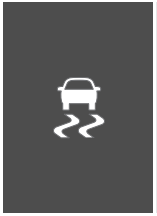
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードがアクセサリーモードまたは OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した / 点滅した** P.373
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した / 点滅した** P.373
		• 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• パーキングブレーキが故障して作動しません。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した / 点滅した** P.373

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➔ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.372
	充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➔ **充電警告灯が点灯した** P.372
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードが ON モードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 • 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.25

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	燃料残量警告灯(オレンジ)	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4.0 リットル(2WD 車)、3.7 リットル(4WD 車)になったときです。
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 **➡ ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.285
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• VSA が作動しているときは点滅	—
		• VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、発進補助ブレーキ機能、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.186
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.186
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➔ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.374
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	パーキングセンサー警告灯	• パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	➲ **パーキングセンサーシステム** P.290
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➲ **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.64
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➲ **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.64

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	➲ **路外逸脱抑制機能** P.213
	安全支援情報警告灯（オレンジ）	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS が異常のときに点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
		• パーキングセンサーが異常のときに点灯	• パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➲ **パーキングセンサーシステム** P.290
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報 警告灯 (オレンジ)	• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• ソナーセンサーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	• 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **ソナーセンサー** P.276 ➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.202

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡ **電球の交換** P.314
		• 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.287
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➡ **ライトの使いかた** P.125
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯	—
	オートハイビーム表示灯	• オートハイビームの作動条件がそろったときに点灯	➡ **オートハイビーム** P.129
	フォグライト点灯表示灯*	• フォグライトを点灯させると点灯	➡ **フォグライト*** P.126
	急アクセル抑制機能表示灯*	• 急アクセル抑制機能が ON のときに点灯	➡ **急アクセル抑制機能*** P.208
	低水温表示灯	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ セキュリティアラームシステム P.117
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➡ シフト操作 P.176
	シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯*	• シフトポジションが S で、7 速マニュアルシフトモードのとき M 表示灯が点灯 • 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	➡ 7 速マニュアルシフトモードとは P.178

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➔ **アイドリングストップシステム** P.181
	ECON モード表示灯	• ECON モードが ON のときに点灯	➔ **ECON スイッチ** P.180 ➔ **アイドリングストップシステムの ON/OFF** P.182
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.282
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.282
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージは警告が解除されるか、⌂スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときに⌂を押し、「警告メッセージ」を選択すると、メッセージを再表示させることができます。 ➔ **表示の切り換えかた** P.74

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	• 渋滞追従機能付ACCが待機中のときにホワイトで点灯 • 渋滞追従機能付ACCが作動中で先行車を検知していないとホワイト / グリーンで点灯 • 渋滞追従機能付ACCが作動中で先行車を検知しているとグリーンで点灯	**渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.230
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	• LKAS が待機中のときにホワイトで点灯 • LKAS が作動するとグリーンで点灯	**車線維持支援システム(LKAS)** P.252
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	**クルーズモードへの切換え** P.247
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	• CMBS を OFF にしているときに点灯	**安全支援情報** P.83
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	• 路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	**安全支援情報** P.83

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報表示灯（グリーン / グレー）	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS、パーキングセンサー警報がONのときにグリーンで点灯 • いずれかがONのときにグリーン / グレーで点灯 • すべてがOFFのときにグレーで点灯	**衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.192 **踏み間違い衝突軽減システム** P.202 **歩行者事故低減ステアリング** P.222 **路外逸脱抑制機能** P.213 **パーキングセンサーシステム** P.290

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

≫燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

少量給油(約 5L 以下)を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

≫オドメーター

マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。
➔ **表示の切り換えかた** P.74

■アンビエントメーター

運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

≫アンビエントメーター

クルーズコントロール、もしくは渋滞追従機能付 ACC および LKAS の状態を表示しているときは、アンビエントメーターは表示されません。
➔ **メーターの表示** P.191

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。
補正するには、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定を使用します。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

■標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➔ **標識認識機能** P.268

▶外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が 3 ℃以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■時計

時刻を表示します。

■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)の現在の状態を表示します。

➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.230

➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.252

≫時計

時計表示(24h/12h)* を変えたり時刻調整* をすることができます。

➡ **時刻 / 日付の設定** P.97

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

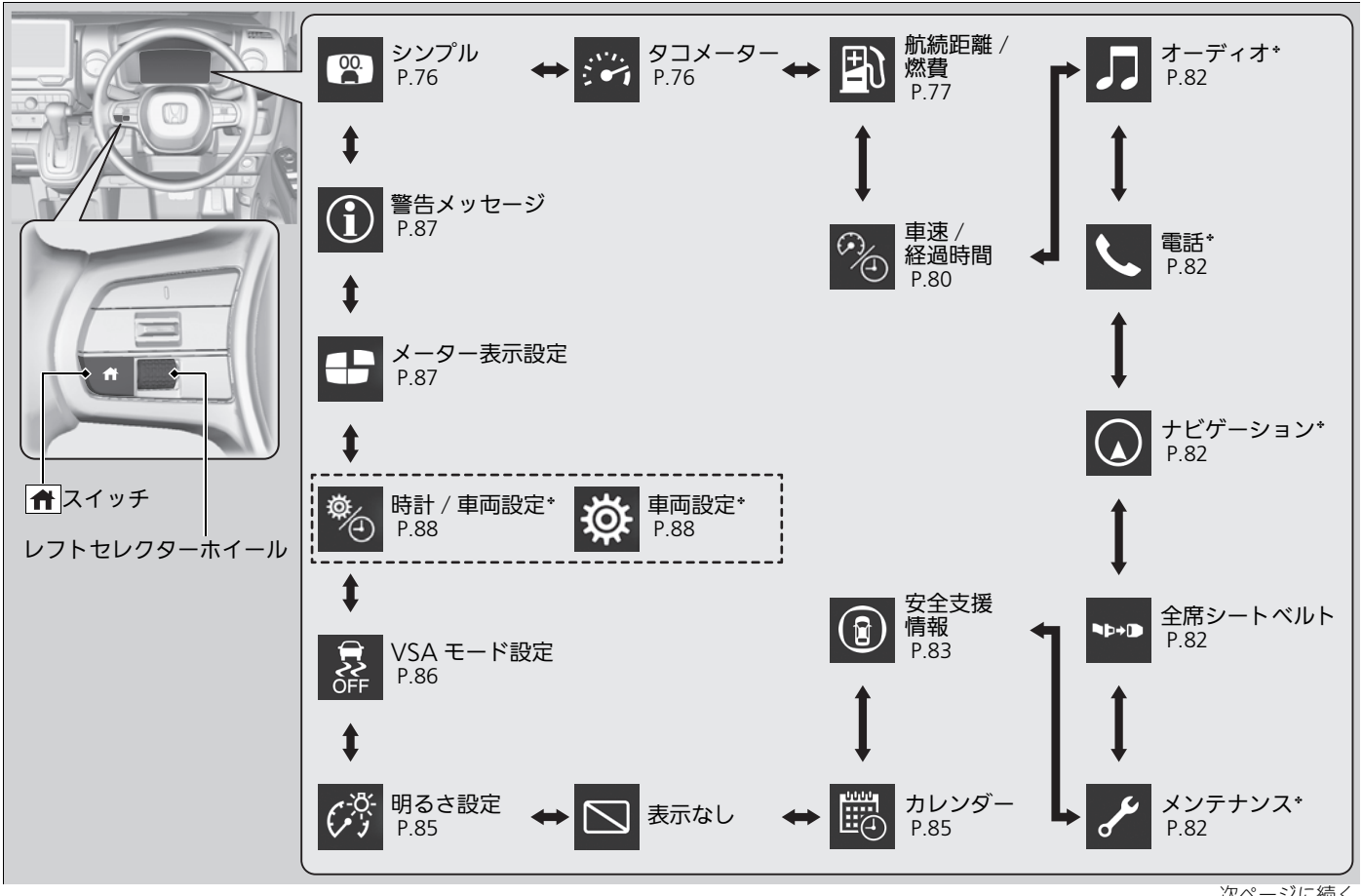
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

➔ **「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された** P.371
➔ **オーバーヒート** P.369

■表示の切り換えかた

スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセレクターホイールを押して決定してください。



次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

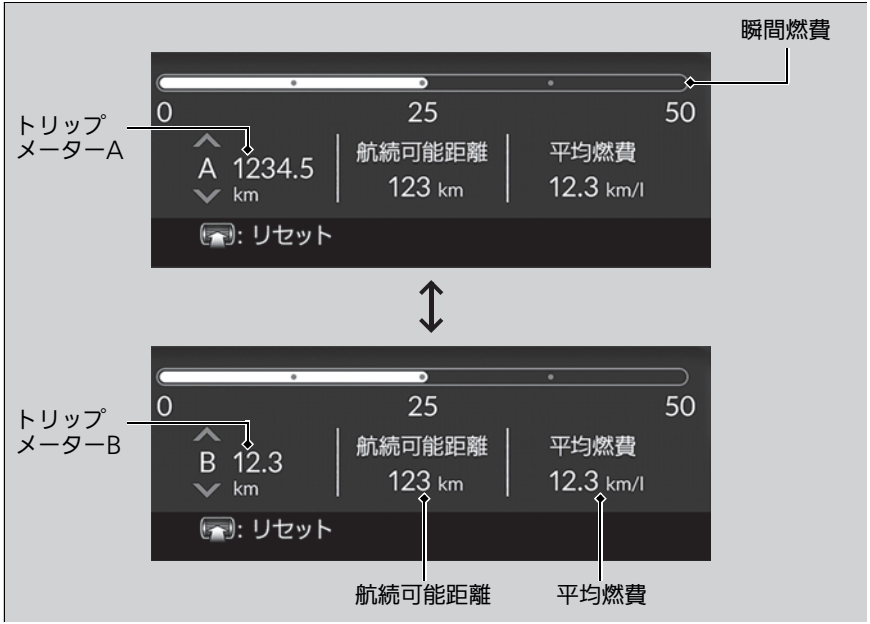
タコメーター

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションがRのときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

■航続距離 / 燃費 / トリップメーター

レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



次ページに続く

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
時計*/ 車両設定 P.88

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

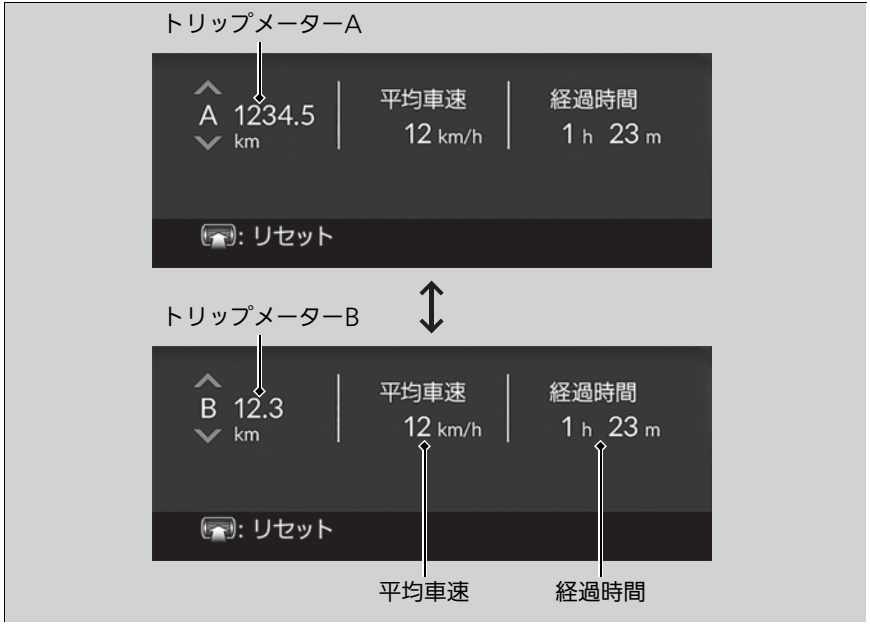
航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

次ページに続く

■車速 / 経過時間 / トリップメーター

レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



■トリップメーター

➔ トリップメーター P.78

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

経過時間表示

経過時間表示は999時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■オーディオ*

各種音楽メディアの表示を行います。

■電話*

ハンズフリー電話の表示を行います。

■ナビゲーション*

■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

■全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。

➔ **シートベルトリマインダー** P.25

■メンテナンス*

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。

➔ **オイルメンテナンス表示*** P.303

■ナビゲーション*

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

安全支援情報

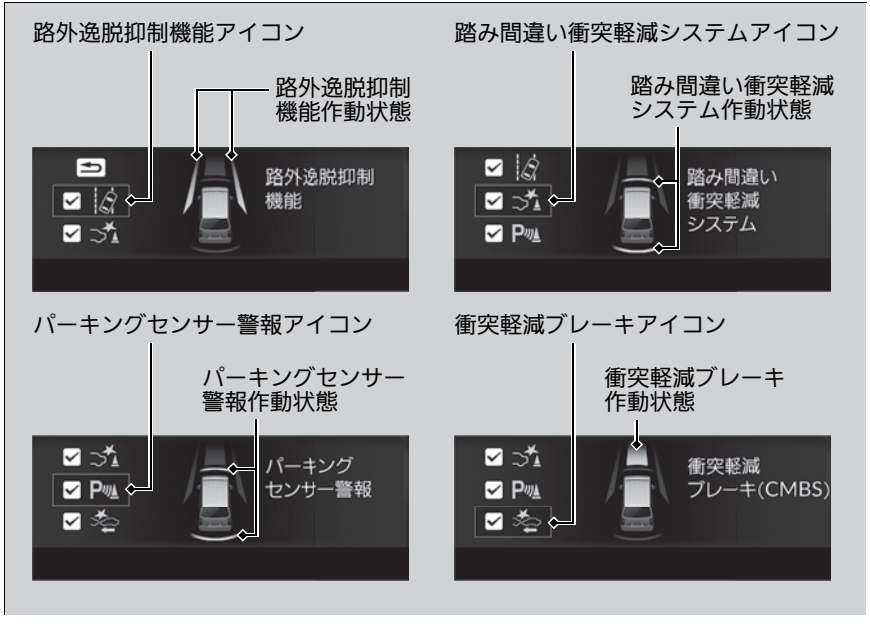
オレンジで表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押してON/OFF を切り換えます。

➔ **路外逸脱抑制機能** P.213
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.192
➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.202
➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.222
➔ **パーキングセンサーシステム** P.290

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

次ページに続く



安全支援情報

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

- **路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)** P.63
- **路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯** P.64
- **路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)** P.69
- **衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)** P.63
- **衝突軽減ブレー キ(CMBS)表示灯(グレー)** P.69
- **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.64
- **安全支援情報 表示灯 (グリーン / グレー)** P.70

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

時計*/ 車両設定 P.88

パーキングセンサー警報アイコンがグリーンのときでも「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後方のパーキングセンサー警報は作動しません。

時計*/ 車両設定 P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カレンダー

日付、時刻を表示します。

➡ **時刻 / 日付の設定** P.97

⩙カレンダー

カレンダーの背景はランダムに表示します。
背景の ON/OFF を選択することができます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

誕生日や記念日を設定することができます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

設定した日付にパワーモードをONモードにするとメッセージを表示します。

■明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

レフトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
明るくする：レフトセレクターホイールを上に回す
暗くする：レフトセレクターホイールを下に回す

レフトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

⩙明るさ設定

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ VSA モード設定

VSA の ON/OFF を選択することができます。



レフトセレクターホイールを回して「TCS 制限モード」を選択し、押して ON と OFF を切り換えます。

➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.186

■メーター表示設定

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されますので、レフトセレクターホイールを回す。
2. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。



3. レフトセレクターホイールを押して決定する。
   ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

メーター表示設定

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

設定変更するときはシフトポジションを[P]にしてください。

■警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

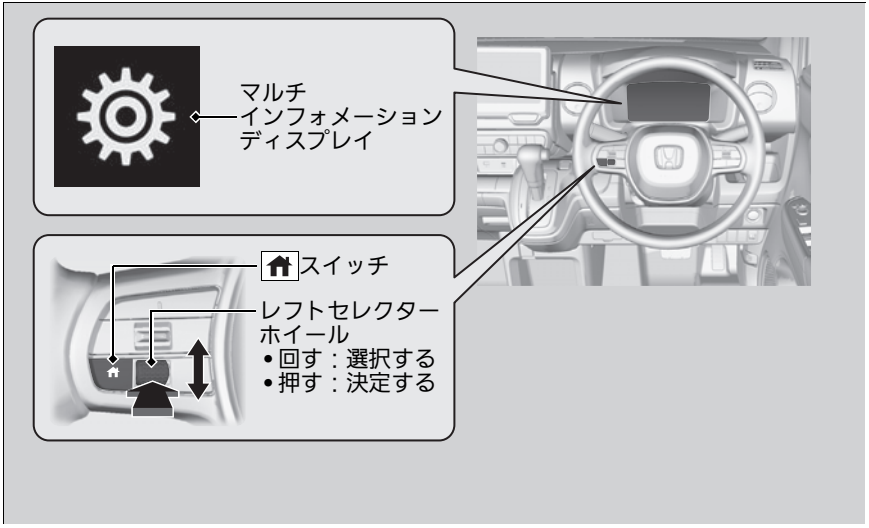
警告メッセージ

複数のメッセージがある場合は、レフトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

次ページに続く

■時計*/ 車両設定

パワーモードがONモードでシフトポジションがPのときに、スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、を選択します。レフトセレクターホイールを押したあと、レフトセレクターホイールを回すと、設定を変更することのできる「グループ」画面に切り換わります。



▶▶時計*/ 車両設定

設定項目 P.89
カスタマイズ設定の例 P.92

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■設定項目

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせて設定を変更することができます。

項目		選択できる設定内容
時計設定✤	日付調整✤	年(2020 ～ 2200)、月(1 ～ 12)、日(01 ～ 31)
	時刻調整✤	時間(1 ～ 12)※1/(0 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示✤	24h、12h※1、非表示
運転支援システム設定	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離	遠め、標準※1、近め
	ACC 先行車検知音	有り、無し※1
	先行車発進お知らせ設定	標準※1、早め、OFF
	路外逸脱抑制機能設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※1、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音	ON、OFF※1
	標識認識機能表示	ON※1、OFF
	標識認識機能速度超過お知らせ	ON※1、OFF
	標識認識機能速度超過量	+0km/h※1、+5km/h、+10km/h、+15km/h
	リアパーキングセンサー警報設定	ON※1、OFF

※1 ：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

項目		選択できる設定内容
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃ ※1 ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ ※1
	TRIP B 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ ※1
	アラーム音量 ※2	大、中 ※1、小
	アンビエントメーター照明色変化設定 ※2	ON ※1、OFF
	アイドリングストップ状態表示 ※2	ON ※1、OFF
	交差点案内表示✤ ※2	ON ※1、OFF
	リアシートリマインダー ※2	ON ※1、OFF
	タイヤ角度モニター ※2	ON ※1、OFF
	カレンダー背景 ※2	ON ※1、OFF
	誕生日設定 1 ※2	月(–– ※1、1 ～ 12)、日(–– ※1、01 ～ 31)
	誕生日設定 2 ※2	月(–– ※1、1 ～ 12)、日(–– ※1、01 ～ 31)
	記念日設定 1 ※2	月(–– ※1、1 ～ 12)、日(–– ※1、01 ～ 31)
	記念日設定 2 ※2	月(–– ※1、1 ～ 12)、日(–– ※1、01 ～ 31)
	記念日設定 3 ※2	月(–– ※1、1 ～ 12)、日(–– ※1、01 ～ 31)

※1：工場出荷時の設定

※2：Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

項目		選択できる設定内容
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量※2	大※1、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー※2	作動※1、非作動
ライティング設定	オートハイビーム	ON※1、OFF
	インテリアライト点灯時間※2	60 秒、30 秒※1、15 秒
	ワンタッチターンシグナル※2	ON※1、OFF
ドア設定	降車時オートドアロック※2	作動、非作動※1
	キーレスアンサーバック※2	作動※1、非作動
	オートリトラミラー格納※2	キーレス連動※1、手動のみ
メンテナンスリセット✤		キャンセル、リセット
初期化設定		中止、実行

※1 ：工場出荷時の設定

※2 ：Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「満タン給油時」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. [⌂]スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、⚙が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。



2. レフトセレクターホイールを回す。

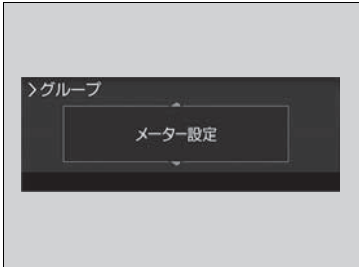
▶「グループ」画面に切り換わりますので、レフトセレクターホイールを回し、「メーター設定」を選択します。

≫時計*/ 車両設定

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにする
- シフトポジションを [P] 以外にする

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



3. レフトセレクターホイールを押す。
▶「メニュー」画面に切り換わります。



4. レフトセレクターホイールを回し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「満タン給油時」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が表選択できます。



5. 「満タン給油時」が選択されていることを確認し、レフトセレクターホイールを押す。
▶「メニュー」画面に戻ります。

次ページに続く



6. 「戻る」が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。
7. **手順6**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

■タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを D または S にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 R にしたとき

タイヤ角度モニター

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

表示中に ホーム スイッチを押すと、違う表示に変わり再表示できません。

➡ **表示の切り換えかた** P.74

いずれかの表示条件を満たすと再度表示されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻 / 日付の設定 97
ドアの施錠と解錠
- キー 101
- Honda スマートキーの微弱電波 103
- 車外でのドアの施錠 / 解錠 104
- 車内での施錠 / 解錠 112
- チャイルドプルーフ 113
- 衝撃感知ドアロック解除システム 114

テールゲート 115
セキュリティシステム
- イモビライザーシステム 117
- セキュリティアラームシステム 117

ウィンドーの開閉 119
ハンドルまわりのスイッチ操作
- ENGINE START/STOP スイッチ 121
- 方向指示器（ウィンカースイッチ） 124
- ライトの使いかた 125
- ヘッドライトレベリングダイヤル 128
- オートハイビーム 129
- ワイパー/ ウォッシャー 132
- リヤデフロスター／ヒーテッドドアミラー* スイッチ 134
- ハンドルの調節 135

ミラー類の調節 136
シートの調節
- フロントシート 138
- リヤシート 140
- リフレッシュモード 144
- ヘッドレスト 146
- アームレスト 148

室内装備品
- 室内灯 149
- 収納装備 150
- その他の室内装備品 156

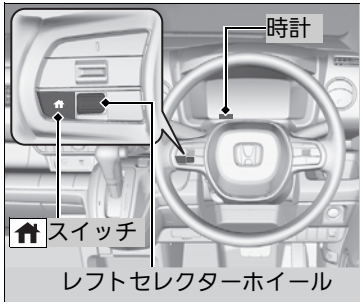
エアコン
- エアコンの吹き出し口 159
- オートエアコンの使いかた 160
- オートエアコンのセンサー 163

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻 / 日付を合わせる

時計はメーターに表示されます。



パワーモードがON モードでシフトポジションが P のときに、スイッチを押します。

レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

»時刻 / 日付の設定

Honda インターナビシステム装備車

時計と日付は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻、日付合わせは不要です。

次ページに続く

■日付の調整



1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。



3. レフトセレクターホイールで「日付調整」を表示させ、決定する。
▶「年」の調整ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「年」が設定され、「月」の調整ができます。
5. **手順4**と同様の操作で「月」、「日」の調整をする。

■時刻の調整



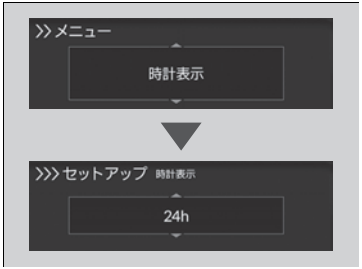
1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。



3. レフトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
▶「時」の調整ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「分」が設定されます。

次ページに続く

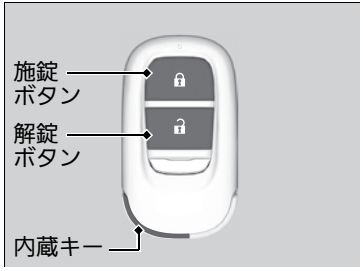
■時計表示の選択



1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセレクターホイールで「時計表示」を表示させ、決定する。
   ▶時計表示設定ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の項目を表示させ、決定する。
   ▶「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り替わります。
   ▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

キー

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

➡ **イモビライザーシステム** P.117

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

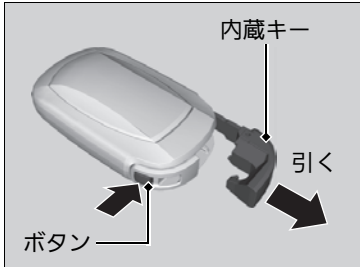
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■内蔵キー

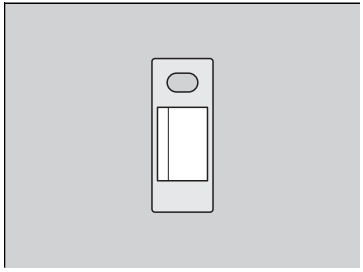


Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.362

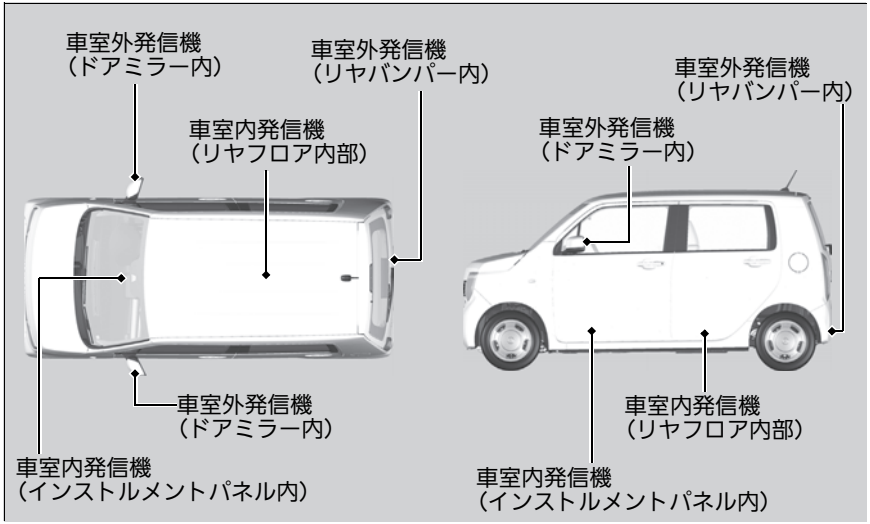
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠/解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Hondaスマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▨Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

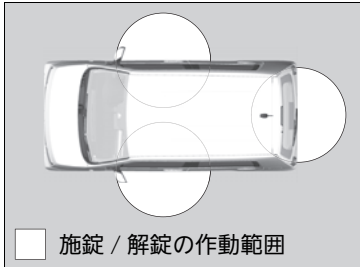
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケーターが2回点滅し、電波の受信が停止します。
Hondaスマートキーのいずれかのボタンを1回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートのオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
室内灯 P.149

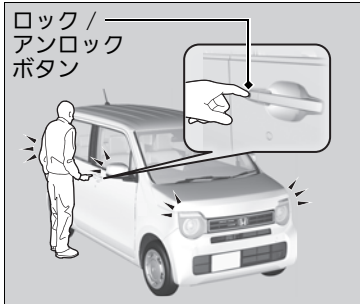
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

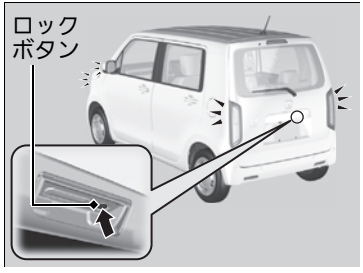
Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

ドア、テールゲートが開いているときは、Hondaスマートキーシステムで施錠できません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロック / アンロックボタン、テールゲートのオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。





■施錠するには

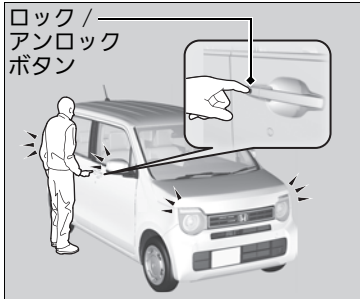
運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。

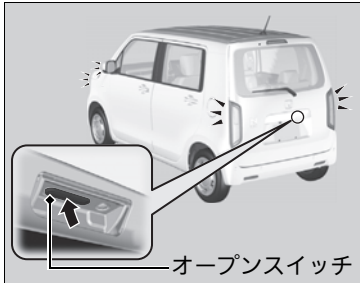
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- テールゲートのオープンスイッチを押した直後はテールゲートが開かないことがあります。テールゲートのオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートのオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

次ページに続く





■解錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

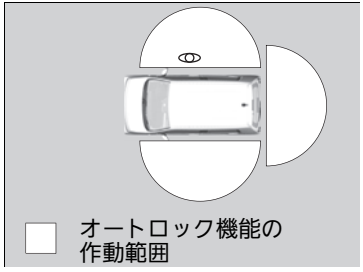
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

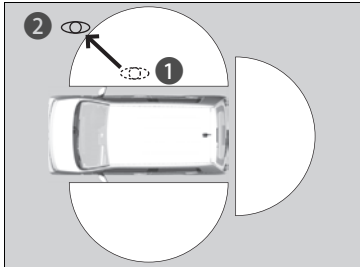
カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

時計*/ 車両設定 P.88

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートのオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。
Honda スマートキーを携帯し、降車してドア、テールゲートを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。
➡ **時計*/ 車両設定** P.88

オートロック機能を使用する時は、車内に残ってる人がいないことを確認し、車から離れてください。

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
▶ 警告ブザーは鳴りません。
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ 警告ブザーが鳴ります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. 運転席ドアのノブを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、テールゲート、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

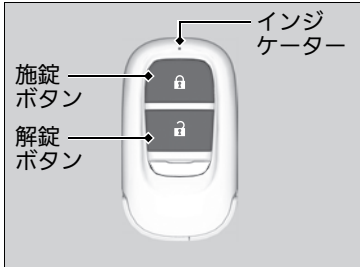
オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

意図しないタイミングでオートロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。
乗車しているときは、ENGINE START/STOP スイッチを押し、車両を ON モードにしてください。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目：

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内)：

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。



■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➔ **電池交換のしかた** P.333

マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスアンサーバック機能の設定を変更することが可能です。
➔ **時計*/ 車両設定** P.88

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は、内蔵キーを使用してください。

➔ **電池交換のしかた** P.333



キーを確実に差し込んで、回します。

≫キーを差し込んでの施錠 / 解錠

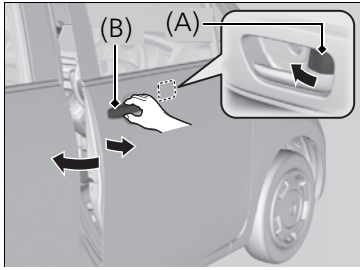
運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠/解錠されます。

セキュリティーアラームシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠してドアを開けると警報装置が作動します。

➔ **セキュリティアラームシステム** P.117

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ (A) を押し込み、外側のドアハンドル (B) を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じこみ防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

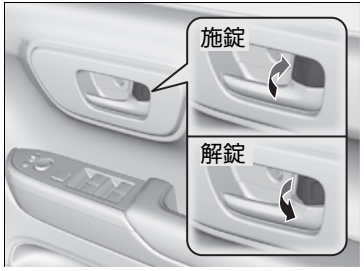
» キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

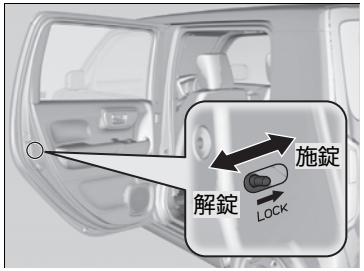
ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

»チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  ➔ **一酸化炭素について** P.55

»テールゲート開閉時の注意

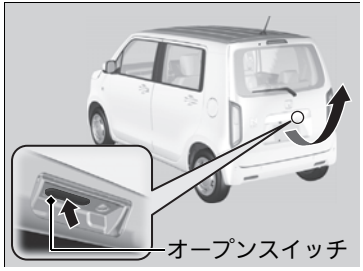
⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

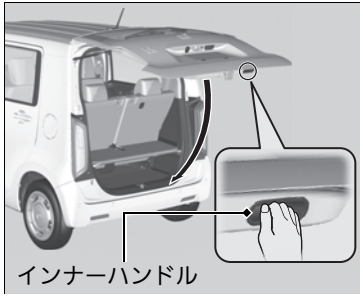
テールゲートの開閉



解錠されているときに、テールゲートのオープンスイッチを押して引き上げます。

施錠されているときにHondaスマートキーを携帯してテールゲートのオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

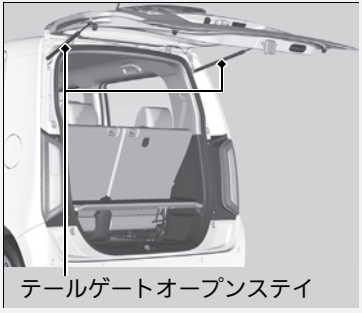
Hondaスマートキーシステムでの施錠 / 解錠
P.104



テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートオープンステイに荷物などが接触しないように注意してください。



テールゲートの開閉

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートのオープンスイッチでテールゲートを解錠することができます。

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとエンジンの始動は出来ないシステムです。

ENGINE START/STOP を押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードがOFFモードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約15秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティアラームシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠してドアを開けるとセキュリティシステムが作動します。

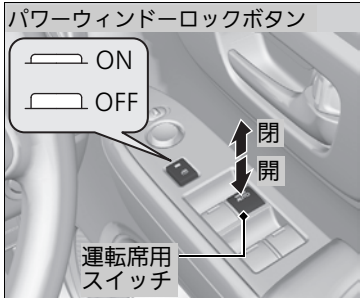
パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

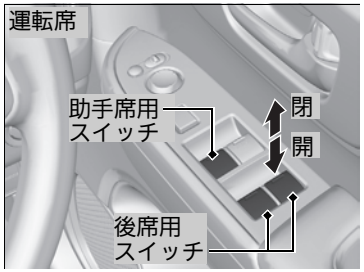
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

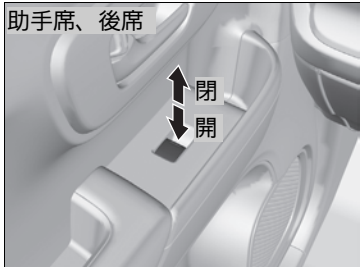
お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉





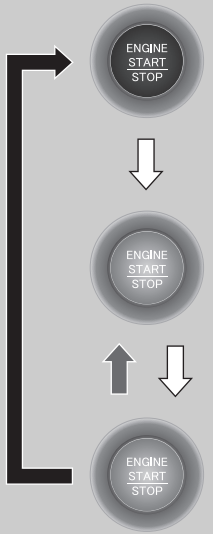
開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- ハンドルがロックされ、すべての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- スイッチが赤色で点滅
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色で点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

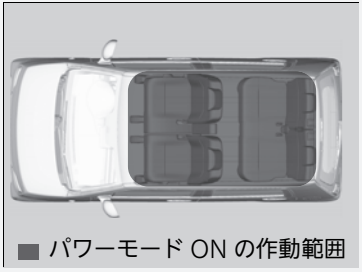
⇨ スイッチを押す

⇨ セレクトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

➡ セレクトレバーが P のときに、スイッチを押す

ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。



■ パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーの電池が消耗した状態で ENGINE START/STOP を押してもエンジンが始動しない場合があります。そのときは、下記ページを参照ください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.362

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

ENGINE START/STOP スイッチ

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。
ハンドルロックが解除されます。

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

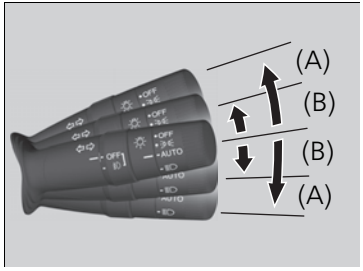
窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■(A)：方向指示器

右左折のときなどに、進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■(B)：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が 3 回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

≫方向指示器(ウィンカースイッチ)

ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

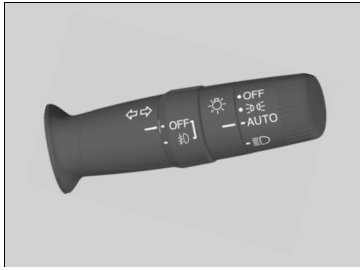
➔ **表示灯** P.66

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ライトの使いかた

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードがON モードのとき、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを にします。

車幅灯の点灯：

車幅灯が点灯するまでライトスイッチを にして放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中にライトスイッチを に切り替えるとヘッドライトは消灯します。走行を開始するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを にしたあと、 AUTO にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

シフトポジションが P もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、消灯するまでライトスイッチを OFF にして放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

次ページに続く

ライトの使いかた

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.66

ヘッドライト・車幅灯

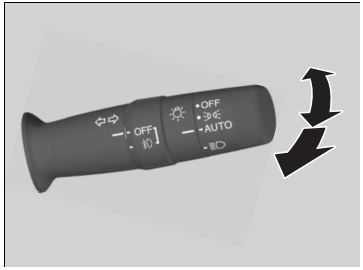
車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを にしたままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

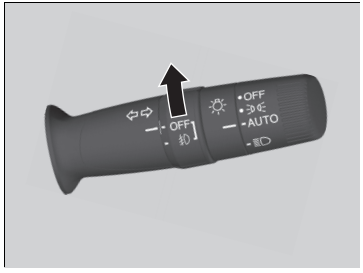


■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

▶レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

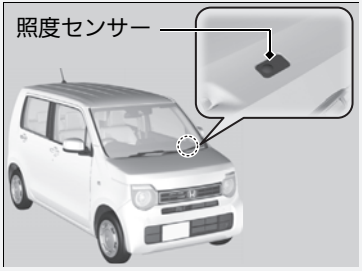
■フォグライト*



ライトスイッチが OFF 以外のとき(AUTO のときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

▩ヘッドライト・車幅灯

照度センサーは図の位置にあります。センサーの上にものを置かないでください。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

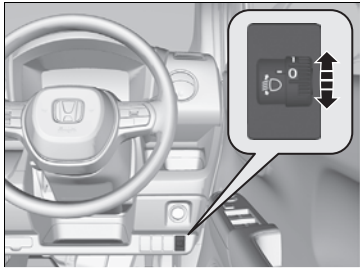
■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

ヘッドライトレベリングダイヤル



パワーモードがONモードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
光軸の調節はダイヤルを回して行います。
ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	1
4名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

▶ヘッドライトレベリングダイヤル

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを0の位置に戻してから行ってください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■オートハイビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Dに回したあと、AUTOに戻す

≫オートハイビームの使いかた

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

➡ 時計*/ 車両設定 P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム	ロービーム
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がいない • 前方に街灯などの光が少ない	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡D に回した後、AUTO に戻す。

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを≡D に回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを AUTO に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ハイビーム / ロービームの自動切り換え

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

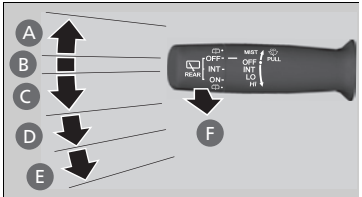
- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



- A MIST：（レバーを操作している間作動）
- B OFF：停止
- C INT：間欠（雨量が少ないとき）
- D LO：低速（普通の雨量のとき）
- E HI：高速（雨量が多いとき）
- F ウォッシャー

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

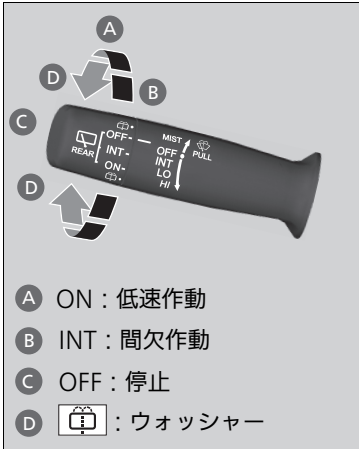
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ ON：低速作動
Ⓑ INT：間欠作動
Ⓒ OFF：停止
Ⓓ ：ウォッシャー

パワーモードがON モードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速) HI(高速)	連続作動

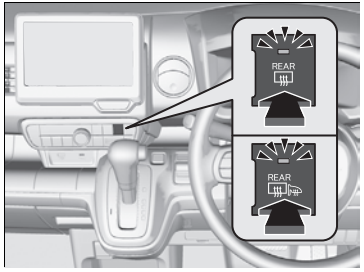
» ワイパー/ ウォッシャー

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

リヤデフロスター／ヒーテッドドアミラー* スイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラー* を暖め、曇りをとることができます。

リヤデフロスター／ヒーテッドドアミラー* スイッチ

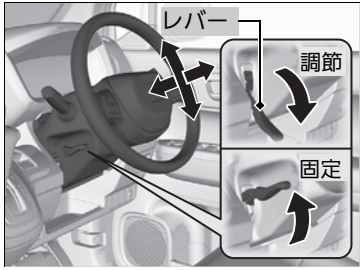
この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。

2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

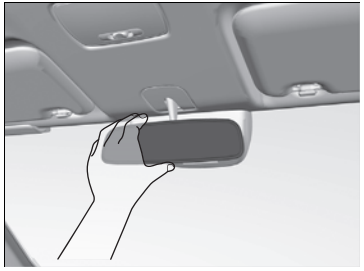
ハンドルの調節

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

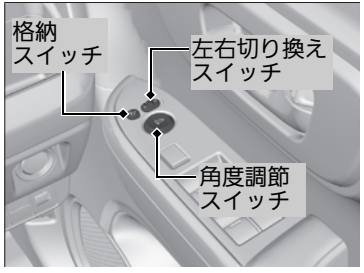
ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロック / アンロックボタンやテールゲートのロックボタンを押して施錠する。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロック / アンロックボタンやテールゲートのオープンスイッチを押して解錠する。
- パワーモードを ON モードにする。

»オートリトラミラー

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。

➔ **時計*/ 車両設定** P.88

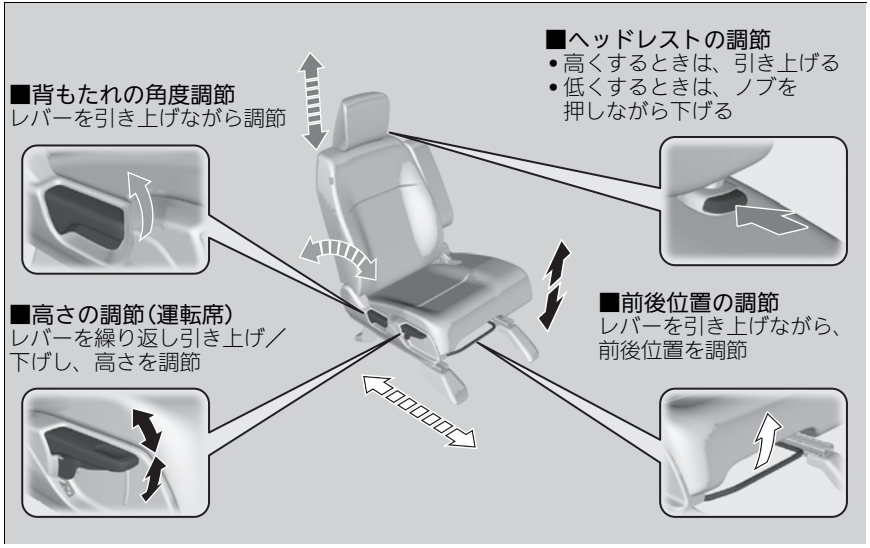
格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた



⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

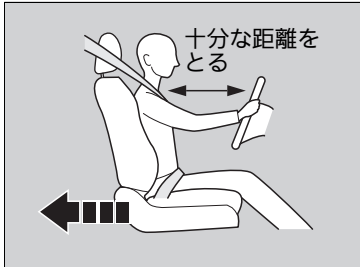
シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

■フロントシートの調節

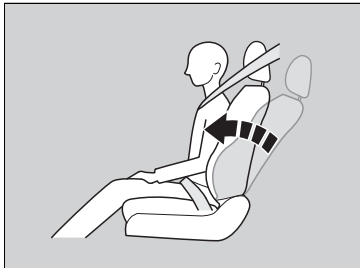


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

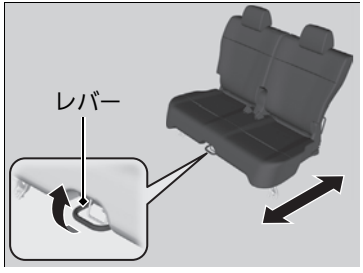
⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

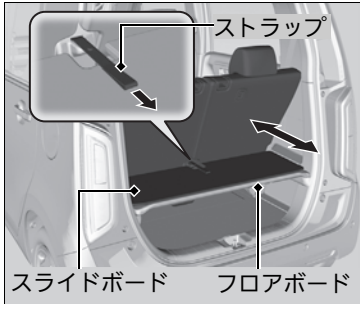
■リヤシートの調節



■シート位置の調節

前から調節する場合：

リヤシートの中央前にあるレバーを引き上げながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。



後から調節する場合：

リヤシートバックのストラップを引きながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。

スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

リヤシート

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

リヤシートの調節

⚠注意

スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

スライドボードで指や手をはさまないようにご注意ください。

荷物が倒れたり、はさまれたりすることがあるのでご注意ください。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。



■背もたれの調節

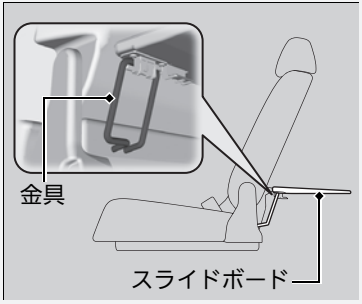
レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

▶ 左右別々に調節することができます。

リヤシートの調節

リヤシートの位置を調節するときはスライドボードがリヤシート後部の金具に確実に取り付けられているか確認してください。

スライドボードが金具に固定されていない場合、スライドボードが落下するおそれがあります。



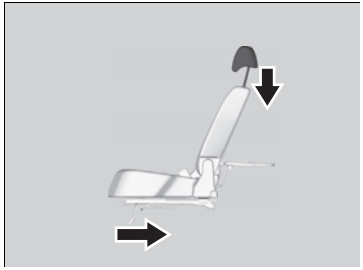
アドバイス

スライドボードが破損するおそれがありますので、スライドボードの上には、合計で 50kg 以上のものを載せないでください。

次ページに続く

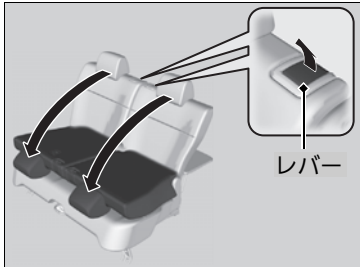
■背もたれの倒しかた

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側づつ独立して行えます。



■倒しかた

1. ヘッドレストを下げる。
2. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
➡ **リヤシートの調節** P.140



3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定する。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

▶背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにものが入ったままリヤシートを格納するとき

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。

■リアシートリマインダー

後席の荷物などの置き忘れおよび同乗者を載せていることを、降車前に運転者へお知らせする機能です。



■作動条件

- 後席ドアを開閉してからパワーモードをON モードにしたとき
- パワーモードがON モードのときに後席ドアを開閉したとき

上記の条件をどちらか満たしパワーモードを OFF モードにすると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

リアシートリマインダー

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

後席ドアを開閉した後、10 分以内にパワーモードをON モードにしなかった場合は作動しません。

このシステムは後席の同乗者や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に同乗者や荷物がある可能性をお知らせします。

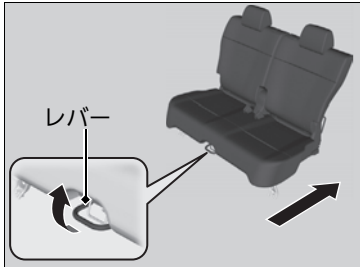
リアシートリマインダーが作動しないように設定することができます。

時計*/ 車両設定 P.88

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リフレッシュモード

フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートから足を伸ばして座れる状態にできます。



1. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
2. リヤシートの背もたれが後ろに固定されていることを確認する。
3. フロントシートのヘッドレストを引き上げ、ノブを押したままヘッドレストを外す。

リフレッシュモード

⚠注意

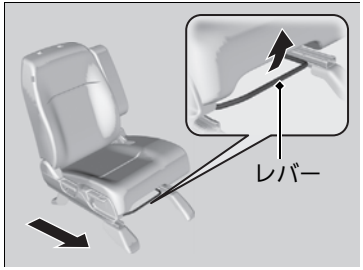
フロントシートを倒したままの状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートを倒したままの状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。
シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

アームレストは収納する。
つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。



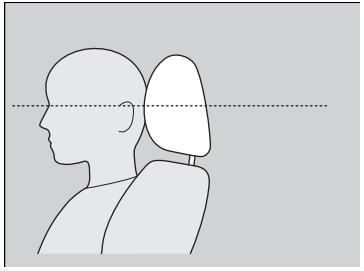
4. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。

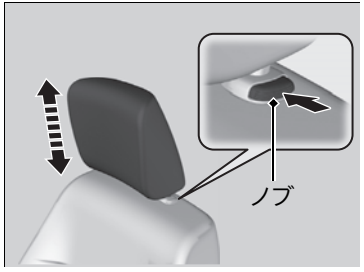


5. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。
6. レバーを引き上げながらフロントシートを後方いっぱいに動かす。

ヘッドレスト

■フロントシートのヘッドレストの調節





後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

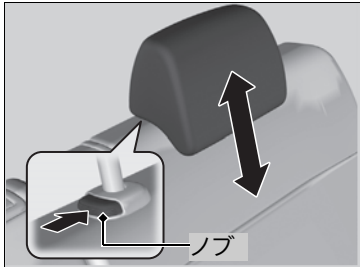
▶ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

リヤシートヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



アームレスト

■フロントシートアームレストの操作



前に倒して使います。

»アームレスト

⚠警告

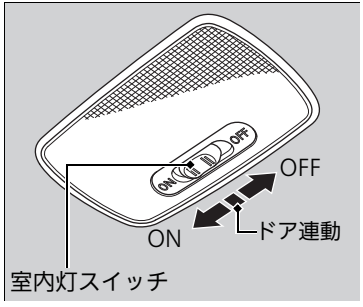
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。
➔ **時計*/ 車両設定** P.88

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

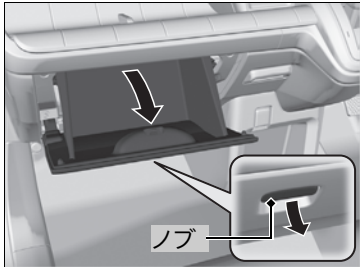
バッテリーが上がるおそれがあるため、エンジンが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 30 分後に室内灯は消灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

収納装備

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■リヤシートアンダートレイ



グローブボックス

⚠警告

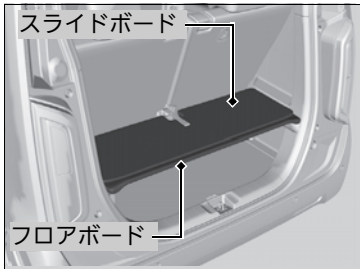
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

リヤシートアンダートレイ

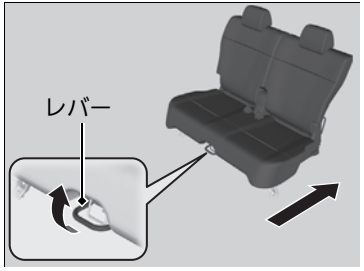
⚠注意

シートアンダートレイ以外のシートの下にものを置かない。
物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

■フロアボード



フロアボードを外してカーゴスペースを広くできます。フロアボードはリヤシートの背面に固定することもできます。



■フロアボードを固定するときは

1. リヤシートを後方いっぱいの位置まで動かします。

≫フロアボード

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

アドバイス

フロアボードが破損するおそれがありますので、フロアボードの上には、合計で50kg以上のものを載せないでください。

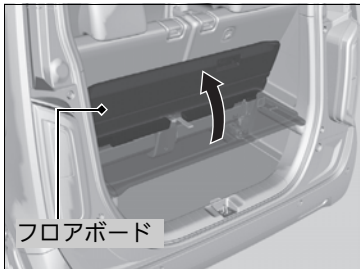
フロアボードの上に荷物などを載せるときは、左右両端の溝がカーゴスペースの側面にはまっているか確認してください。

フロアボードをリヤシートの背面に固定しているときは、背もたれを左右別々に調節できなくなる場合があります。その場合はリヤシートからフロアボードを取り外してください。

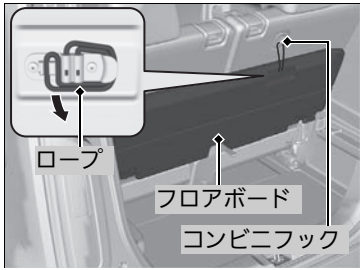
次ページに続く

2. 後席右側のコンビニフックを手前に倒します。

➡ **コンビニフック** P.155



3. フロアボードを起こします。



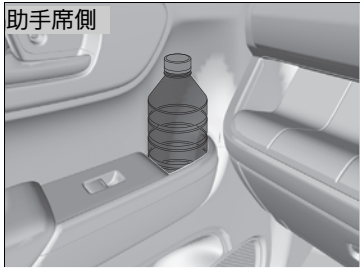
4. フロアボードの裏面に付いているロープをコンビニフックにかけます。

■ドリンクホルダー

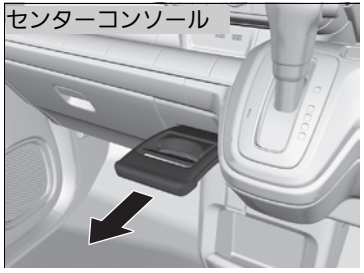
運転席側



助手席側



センターコンソール



■フロントシート用ドリンクホルダー

センターコンソールドリンクホルダーは、引き出して使います。

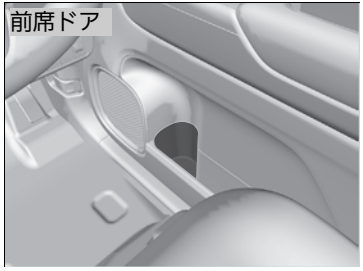
次ページに続く

ドリンクホルダー

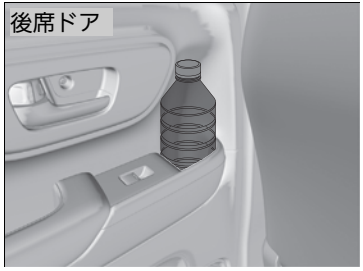
⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



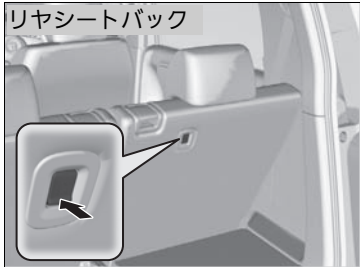
前席ドアにあるドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。



■リヤシート用ドリンクホルダー

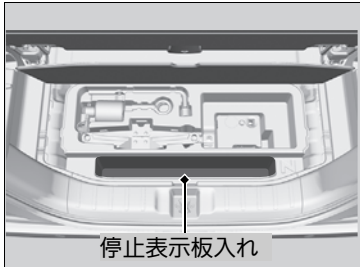
後席ドアにあるドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

■コンビニフック



フックを手前に倒して使います。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

■停止表示板入れ



カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

≫コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

≫停止表示板入れ

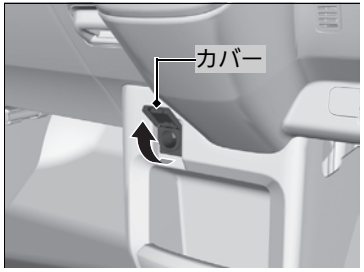
収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ …454mm 以下
- 高さ …121mm 以下
- 幅 …49mm 以下

その他の室内装備品

■アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。



■フロントコンソール

カバーを開けて使います。

≫その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

≫アクセサリーソケット

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。

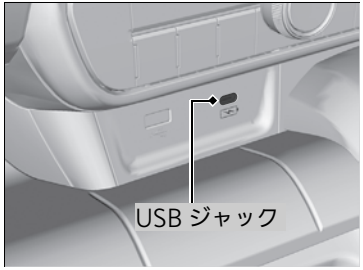
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■充電専用 USB ジャック



充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック (3.0A) に接続します。

充電専用 USB ジャック

接続した機器を車内に放置しないでください。

接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。

USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

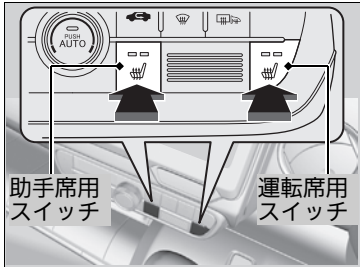
データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

次ページに続く

■フロントシートヒーター



パワーモードがON モードのときに使用できます。



スイッチを押すたびに設定が切り換わります。
1 回目 - 高：インジケーターが 2 個点灯
2 回目 - 低：インジケーターが 1 個点灯
3 回目 -OFF：インジケーターが消灯

パワーモードを一度OFFモードにしてから再度ON モードにしても、シートヒーターは前回と同じ設定で復帰します。

▨フロントシートヒーター

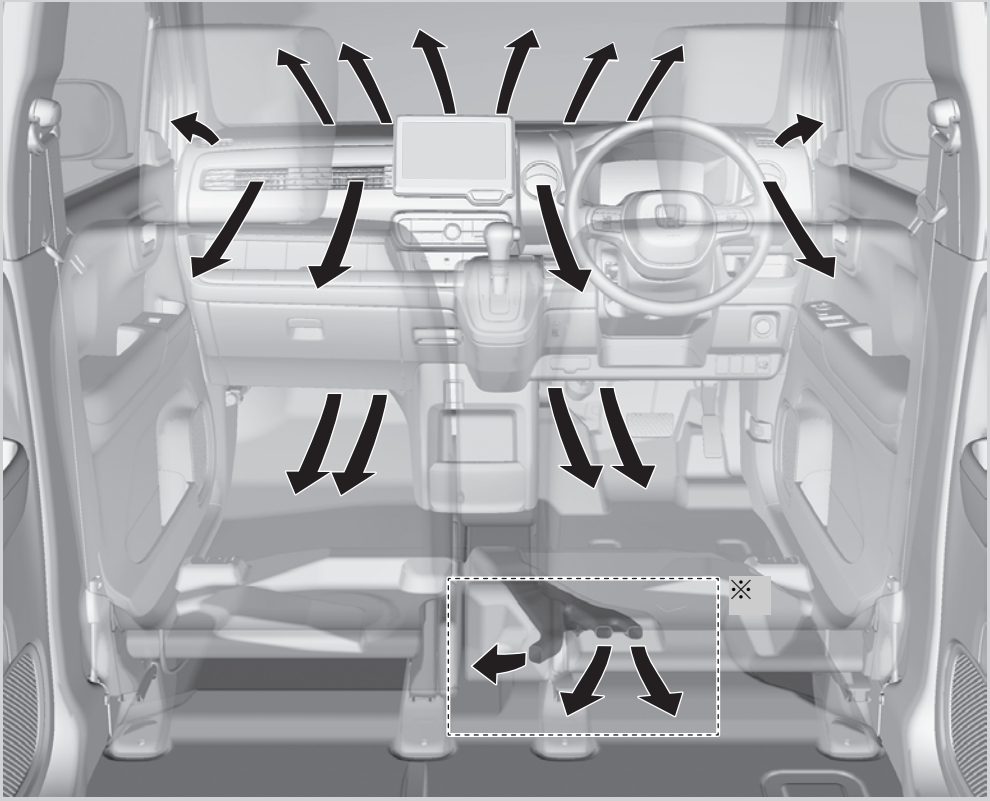
⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

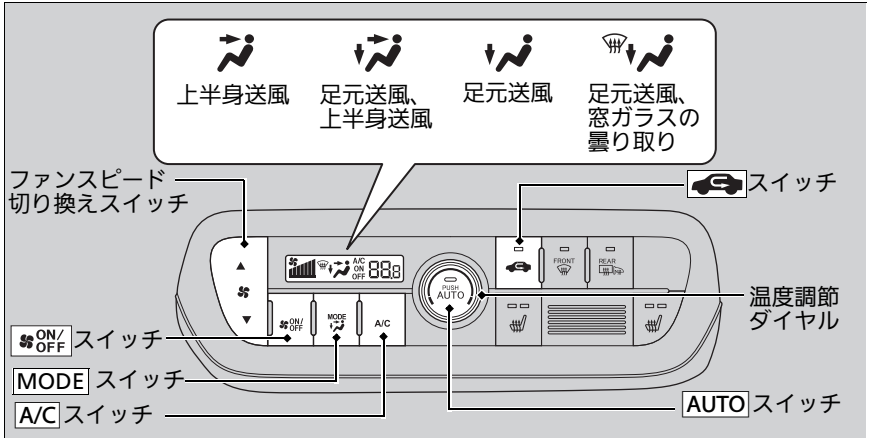
この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。
バッテリーの容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

エアコンの吹き出し口



※：4WD 車

オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。
このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

アイドリングストップ中は、冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。冷暖房機能を停止させたくないときは、ECON スイッチを押して ECON モードを OFF にしてください。アイドリングストップ機能が OFF になります。

アイドリングストップシステムの ON/OFF
P.182

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

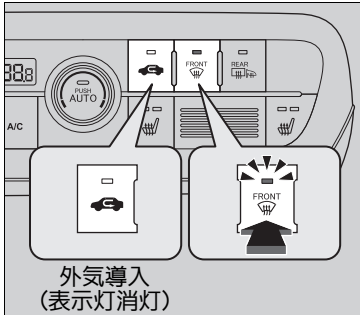
AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。
AUTO でない時、暖房中に A/C を押して A/C ON にすると除湿暖房となります。

»オートエアコンの使いかた

パワーモードをONモードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、Honda スマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。

次ページに続く

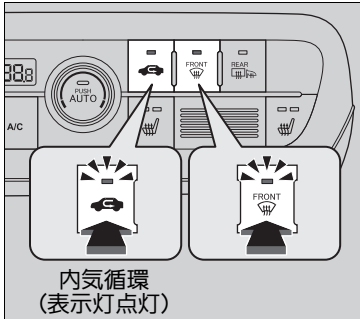
■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



外気導入
(表示灯消灯)

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



内気循環
(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を押す。

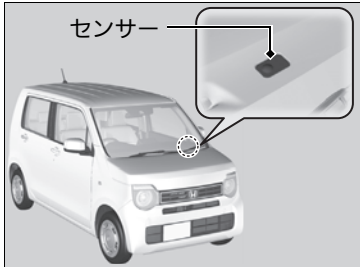
▶前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

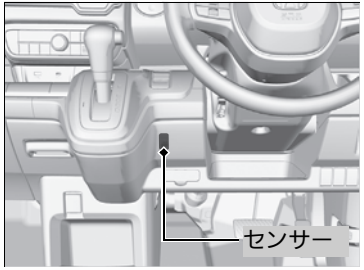
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップ中にFRONTを押すと、エンジンが自動的に再始動します。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ

この車両はメーカーオプションのオーディオを装備していません。
この車両で利用可能なオーディオについては、Honda 販売店にご相談ください。

オーディオ装置
アンテナ..... 165

アンテナ

■マイクロアンテナ*



マイクロアンテナは格納、取り外しができます。
ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

アンテナ

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。
アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。
- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に..... 167
運転操作
エンジンの始動..... 169
走行時の注意点..... 172
無段変速オートマチックについて..... 175
シフト操作..... 176
ECON スイッチ..... 180
アイドリングストップシステム..... 181
VSA(ビークルスタビリティアシスト)... 186
アジャイルハンドリングアシスト..... 187
4WD(四輪駆動機構)*..... 188
Honda SENSING..... 189
各機能を作動させるためのスイッチと表示..... 190
衝突軽減ブレーキ(CMBS)..... 192
踏み間違い衝突軽減システム..... 202
急アクセル抑制機能*..... 208
路外逸脱抑制機能..... 213
歩行者事故低減ステアリング..... 222
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)..... 230
車線維持支援システム(LKAS)..... 252
先行車発進お知らせ機能..... 263
標識認識機能..... 268
フロントワイドビューカメラ..... 274
ソナーセンサー..... 276
ブレーキ操作
ブレーキシステム..... 277
ABS(アンチロックブレーキシステム)... 285
電子制御ブレーキアシスト..... 286
エマージェンシーストップシグナル... 287
駐停車操作
駐車する..... 288
パーキングセンサーシステム..... 290
リアワイドカメラシステム..... 294
給油
指定燃料について..... 295
給油のしかた..... 295
ターボ車* について
取り扱い..... 298

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.325
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.112
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.138
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.136
  ➔ **ハンドルの調節** P.135
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.28
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.59

エンジンの始動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約 30 秒間点灯します。

エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

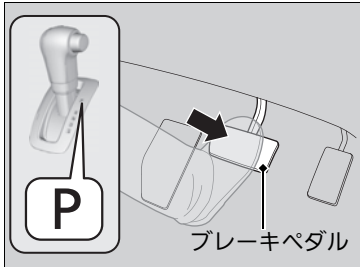
⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

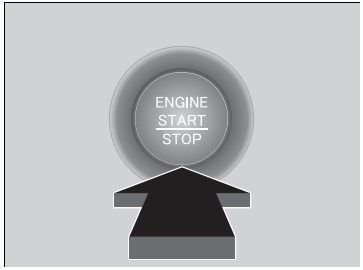
寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。
エンジンがかからない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

次ページに続く



2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。



3. アクセルペダルを踏まずに、ENGINE START/STOP を押す。

エンジンの始動

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.117

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。
➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.362
Honda スマートキーが強い電波を受けていると、エンジンが起動しないことがあります。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを[D]にする。
▶ 後退する場合は[R]にします。
2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
電子制御パーキングブレーキ P.277

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。
1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを[P]にする。
2. [ENGINE START/STOP]を押す。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

次ページに続く

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

無段変速オートマチックについて

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトポジションがP N以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■キックダウン

シフトポジションがD Sで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

S ドライブ(S)
- 上り坂や下り坂を走行するとき
- 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

シフト操作

シフトポジションがPの以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

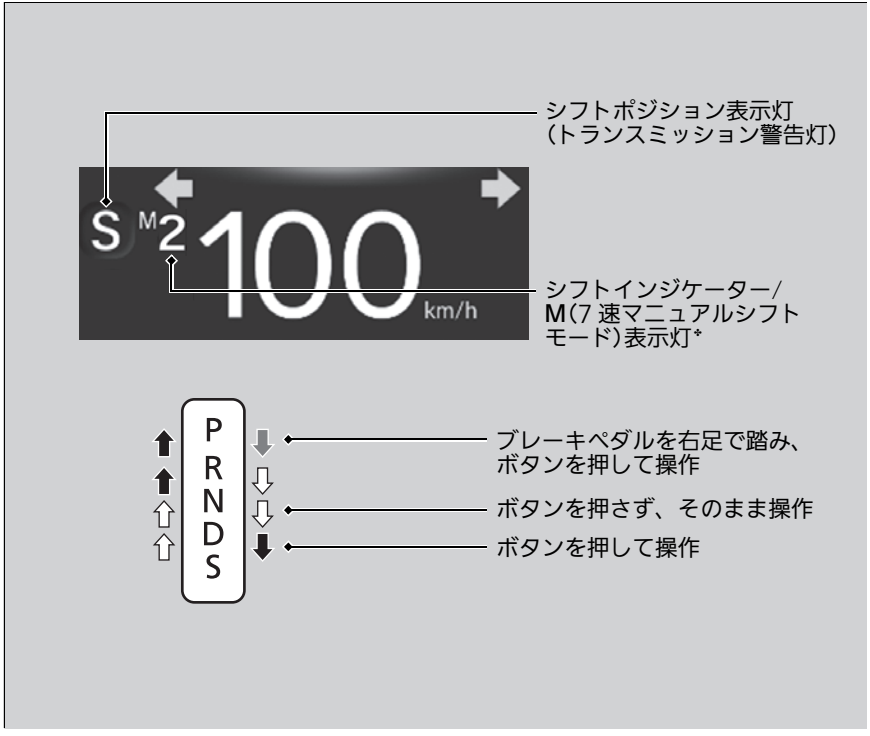
Rのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーがRに入っていることを知らせます。

Nのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■セレクトレバーの操作

シフトポジションは、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



✤:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

≫セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。
先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り換わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションがDのとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

定速走行の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除され、シフトインジケーターが消灯します。また、＋のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。

カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■シフトポジションがSのとき

7速マニュアルシフトモードとなり、**M**表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。

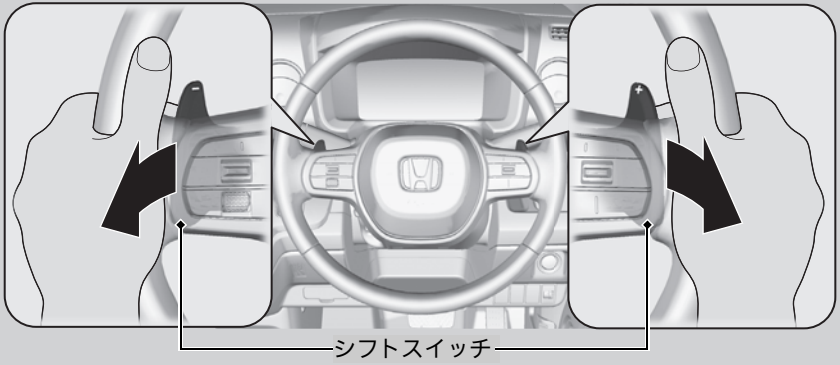
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。

モードを解除する場合は、セレクトレバーをSからDに動かすか、＋のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、**M** 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。
発進は 1 速でのみ行うことができます。



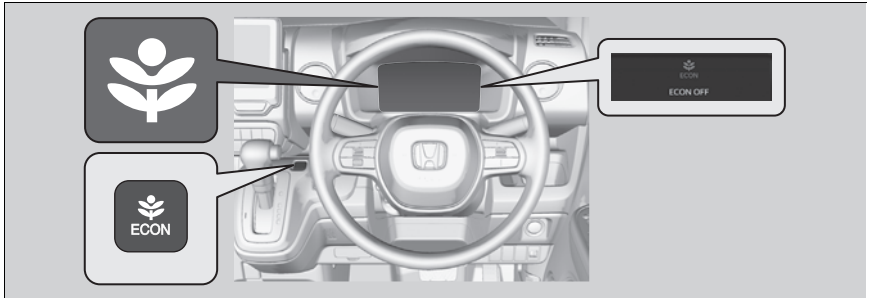
7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジンを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

ECON スイッチ



パワーモードをONモードにしたときは、常にECON モードがONになり、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。
ECON スイッチを押すと、アイドリングストップシステムの作動が停止し、メーター内の ECON モード表示灯が消灯します。
エンジン、オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

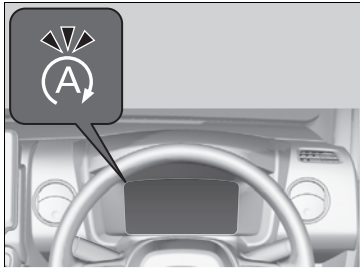
▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムは作動停止状態になります。このときアイドリングストップ表示灯(グリーン)は消灯します。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車する直前もしくは停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



アイドリングストップシステムの作動は、車両の状態や環境により影響を受けることがあります。

➔ **アイドリングストップをする** P.183, 184

表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

➔ **警告灯** P.59
➔ **表示灯** P.66

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

➔ **カスタマイズ設定の例** P.92

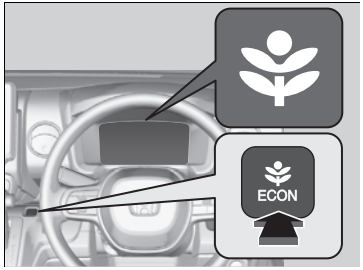
アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は指定されたバッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

➔ **仕様** P.386, 388

次ページに続く

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。ECONモード表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

»アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

■アイドリングストップをする

停車する直前もしくは停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。
アイドリングストップ中シフトポジションを素早く[P]にした場合、ブレーキペダルを離してもアイドリングストップは継続します。
▶ ブレーキペダルを踏むと、エンジンが自動的に再始動します。

■アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジンが十分に暖まっていないとき、または冷却水の水温が高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
  ▶ 坂道を走行しているとき
- シフトポジションを[D]以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
  ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- ECON モードが OFF のとき
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のとき
- 外気温がー 20 ℃以下または 40 ℃以上でエアコンを使用しているとき
- エアコンの風量が多いとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- [FRONT]が ON のとき

アイドリングストップをする

オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときは、シフトポジションが[D]で走行中にブレーキペダルをしっかり踏んで車両を完全に停止させると、アイドリングストップします。

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。
ボンネットを開けたときは、
[ENGINE START/STOP]でエンジンを再始動させてください。
➔ **エンジンの始動** P.169

アイドリングストップ中に、
[ENGINE START/STOP]を押すと自動で再始動しなくなります。
その場合は、通常のエンジンの始動操作をしてください。
➔ **エンジンの始動** P.169

渋滞追従機能付 ACC が作動していると、ブレーキを操作せずに停車しアイドリングストップ状態になる場合があります。
このような場合は、シフトポジションを[D]以外にするとエンジンが再始動します。

次ページに続く

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコン風量が多いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

■エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

- オートマチックブレーキホールドシステムがONで停止した場合はアクセルペダルを踏みます。
  ➡ **オートマチックブレーキホールド** P.282
- 坂道でシフトポジションを[D]または[N]から[P]に操作したとき。

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件 ※1

- ECON スイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- シフトポジションを[R]、[S]にしたとき、または[N]から[D]に操作したとき
  ▶ アイドリングストップ中シフトポジションを[P]にした場合、アイドリングストップは継続します。
  この場合、ブレーキペダルを踏むとエンジンは再始動します。
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- [FRONT] を押したとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- 渋滞追従機能付 ACC の機能で自動停止後、追従走行または定速走行を再開させたとき

■発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりにくくします。

エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

ブレーキペダルの踏み込み方がゆるいときに、停車直前に減速時アイドリングストップから再始動することがありますが再びブレーキペダルを踏み込むとアイドリングストップすることがあります。

ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件 ※1

※1：オートマチックブレーキホールドによるブレーキ保持中はアイドリングストップシステムが作動しているときにブレーキペダルを離すことができます。
ただし、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF したとき、またはオートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したときにはエンジンが自動的に再始動します。
➡ **オートマチックブレーキホールド** P.282

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ➡ P.285

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.286

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、OFFでVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。
新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSAをOFFにしたままでの走行は、お勧めしません。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にすることができます。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

➔ **表示の切り換えかた** P.74
➔ **VSA モード設定** P.86

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にONになります。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

4WD(四輪駆動機構)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ(CMBS) ➔P.192
- 踏み間違い衝突軽減システム ➔P.202
- 急アクセル抑制機能* ➔P.208
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.213
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.222
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.263
- 標識認識機能 ➔P.268
- オートハイビーム ➔P.129
- パーキングセンサーシステム ➔P.290

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) ➔P.230
- 車線維持支援システム(LKAS) ➔P.252

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING

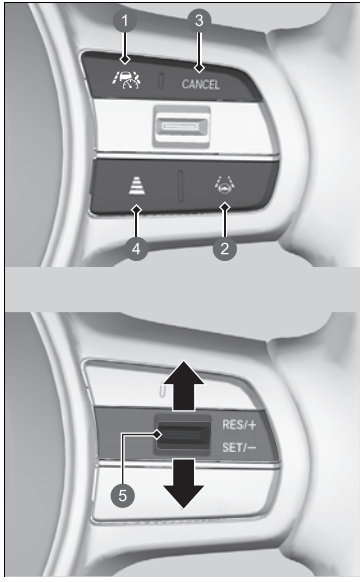
⚠警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



❶ スイッチ
以下機能の待機状態の設定を行います。
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)
- 車線維持支援システム(LKAS)

❷ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の作動中に LKAS の作動と解除の設定を行います。

❸ CANCEL スイッチ
以下機能の解除を行います。
- 渋滞追従機能付 ACC
- LKAS

❹ ディスタンススイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❺ RES/+ スイッチ / SET/− スイッチ
- 渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
- LKAS の作動と復帰を行います。

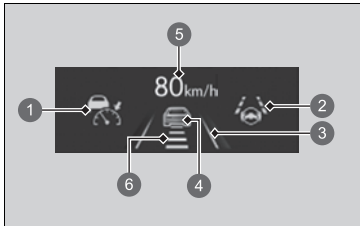
Honda SENSING

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■メーターの表示

渋滞追従機能付 ACC、LKAS の現在の状態を表示します。



❶渋滞追従機能付 ACC の作動状態
- グリーン、ホワイト / グリーン：作動中
  ▶先行車を検知していないとき、ホワイト / グリーンで表示
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❷LKAS の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❸LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態
- オレンジの線：
  点灯した側の車線逸脱を検知

❹渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態

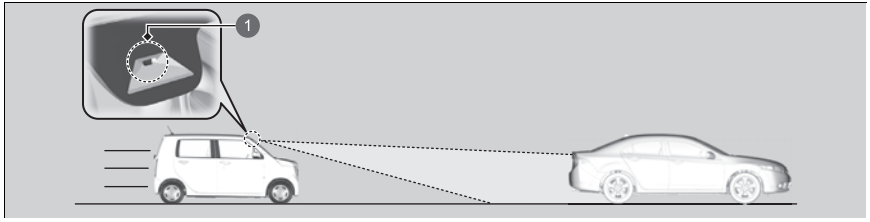
❺渋滞追従機能付 ACC の設定車速

❻渋滞追従機能付 ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ
▶ フロントガラスの上部にカメラを装備。

自車の車速が約 5km/h 以上になるとカメラが前方の車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

▶衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

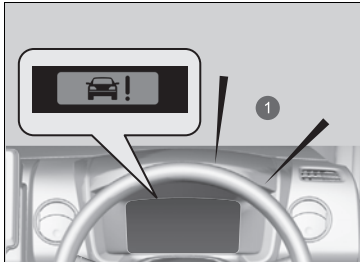
周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告音による警告が発生します。

❶ 警告音

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
時計*/ 車両設定 P.88

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

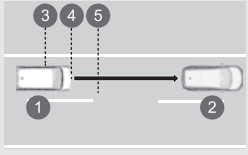
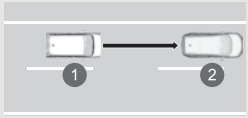
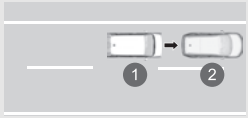
アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➡ **時計*/ 車両設定** P.88	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

❶ 自車
❷ 車両
❸ 遠め
❹ 標準
❺ 近め

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた P.74

安全支援情報 P.83

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

エンジン始動後、約15秒の間はCMBSは作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次ページに続く

■ CMBS の条件と制限

次のような場合、カメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

»衝突軽減ブレーキ(CMBS)

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

次ページに続く

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両（タンクローリーなど）が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※1 をしながら、前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき

※1：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

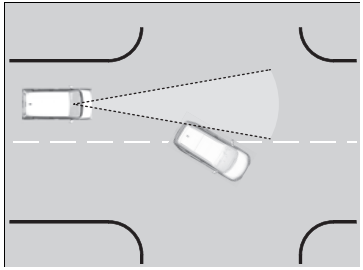
次ページに続く

■衝突の可能性が高くない場合の作動について

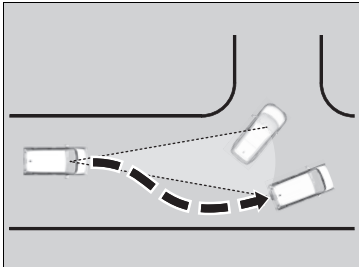
衝突の可能性が高くなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

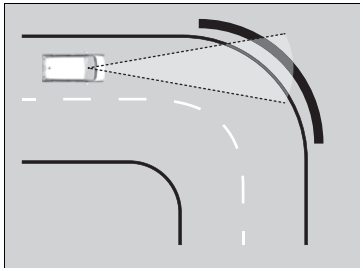
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



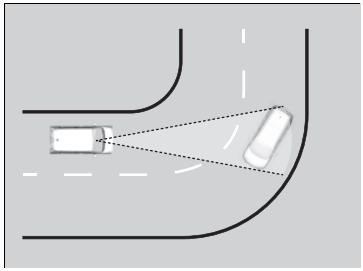
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合



- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。
フロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のエンジンの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

≫踏み間違い衝突軽減システム

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

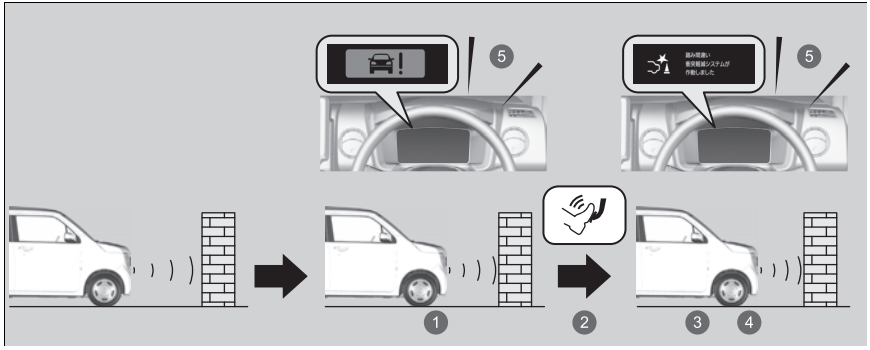
踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

■システムの作動

■近距離衝突軽減ブレーキ

約 2km/h ～約 10km/h で走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

➡ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.291

踏み間違い衝突軽減システム

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **ソナーセンサー** P.276

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを P にしてください。

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

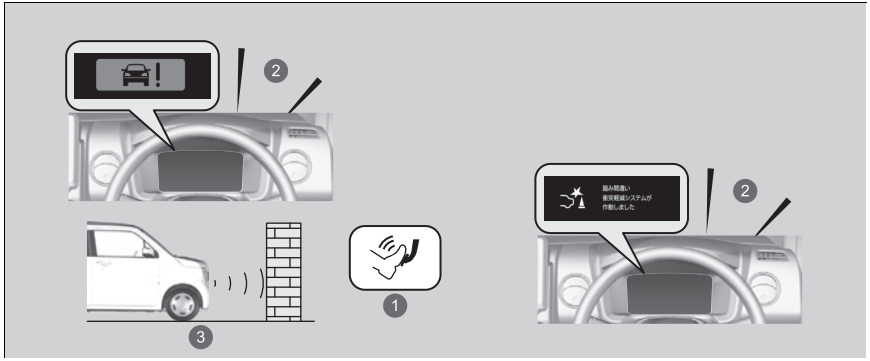
リアセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

➡ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.291

次ページに続く

■誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約 10 km /h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにエンジンの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み
❷ 警告音
❸ エンジン始動の出力を抑制

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
前進：急な坂道やシフトポジションが、[P]、[R]、[N]のとき
後退：

- 急な坂道やシフトポジションが[R]以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしているとき

➡ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.291

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.74

➔ **安全支援情報** P.83

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

次ページに続く

■作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

■踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

▶作動解除の条件

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。
作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。
（例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する）
ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

■ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例
- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■その他システムが正しく作動しない事例
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能*

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

▶急アクセル抑制機能*

⚠警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

急アクセル抑制機能はHonda販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。
設定についてはHonda販売店にご相談ください。

急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
同時持ち込みをすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。
起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムを作動させるには



急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

▶ エンジンを始動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

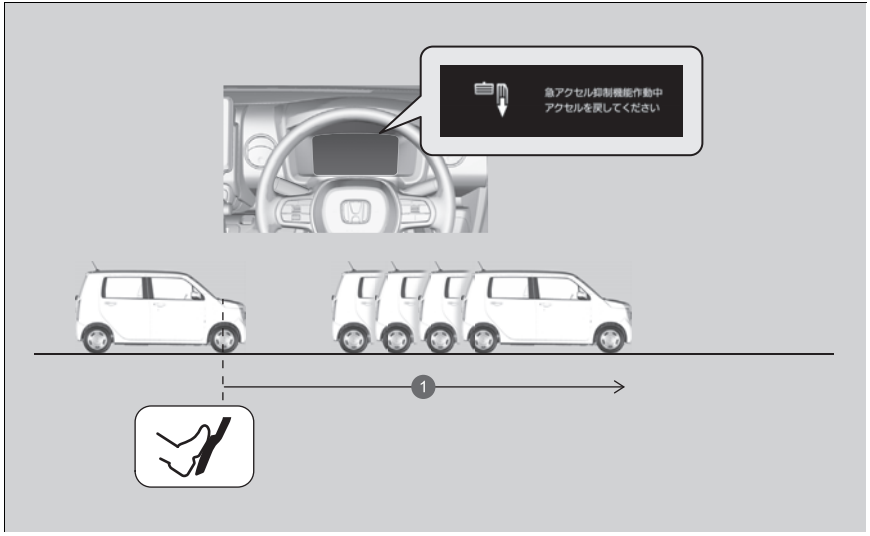
システムを作動させるには

電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

次ページに続く

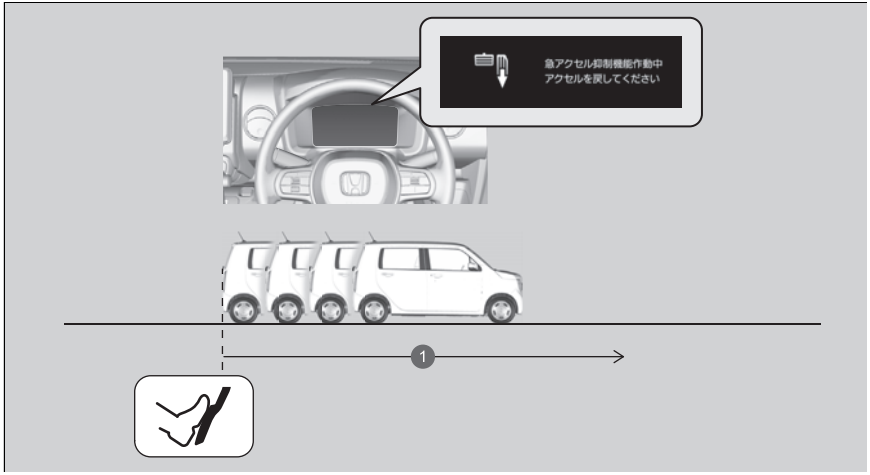
■システムの作動

車速が約 30km/ h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



❶ 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



❶ 一定の速度まで徐々に加速

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
  ▶ オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- 上り坂を走行しているとき

次ページに続く

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき

■急アクセル抑制機能の条件と制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。
また、加速したい場合に作動することがあります。

■道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■自車の状態

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■その他

- 惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

≫路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

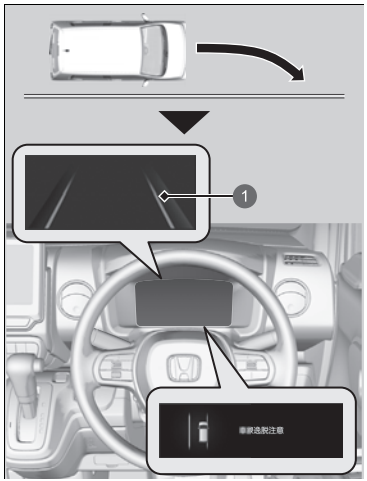
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

次ページに続く

■システムの作動



❶ 車線表示(オレンジ)

このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

路外逸脱抑制機能

エンジン始動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

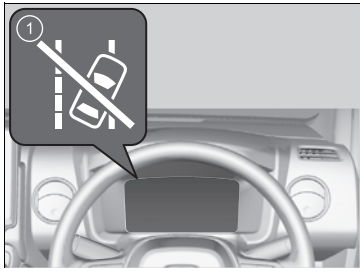
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントワイドビューカメラ P.274

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.218

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

車線維持支援システム (LKAS) を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

時計*/ 車両設定 P.88



次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)の場合
  車速が約 60km/h ～ 120km/h のとき
  ▶ 対向車両が走行している場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

警告灯 P.59

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.74

➡ **安全支援情報** P.83

エンジン始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定を変更することができます。

時計*/ 車両設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例
- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

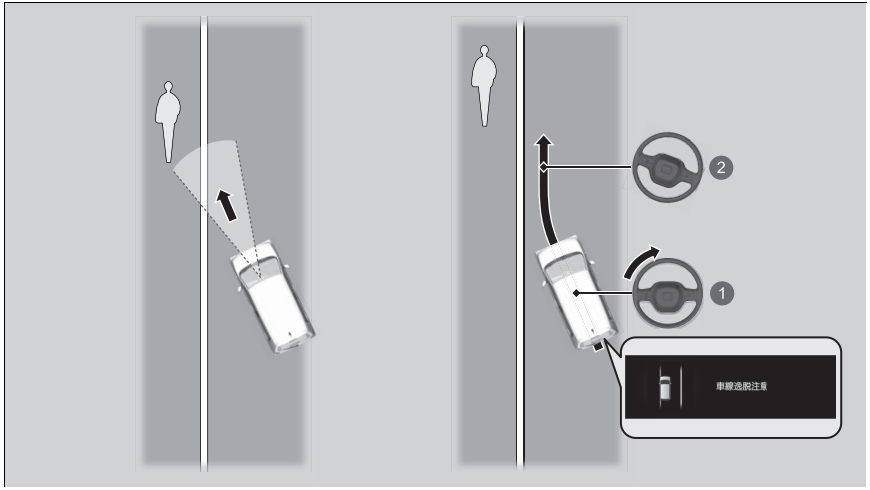
■その他、作動できない事例
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。
路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

≫歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

エンジン始動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.226

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

次ページに続く

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムの ON と OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能がONのときに作動します。マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.74

➡ **安全支援情報** P.83

エンジン始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

カスタマイズ機能で路外逸脱抑制機能の設定を「操舵アシストなし警報のみ」にした場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）

渋滞追従機能付 ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。
渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付 ACC システムは、シフトポジションがD、Sのときに使用することができます。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

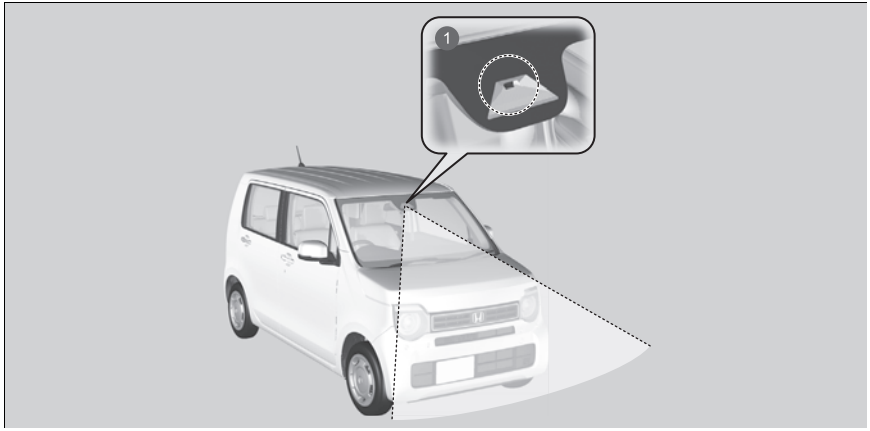
渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。



❶ フロントガラス上部にフロントワイドビューカメラを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

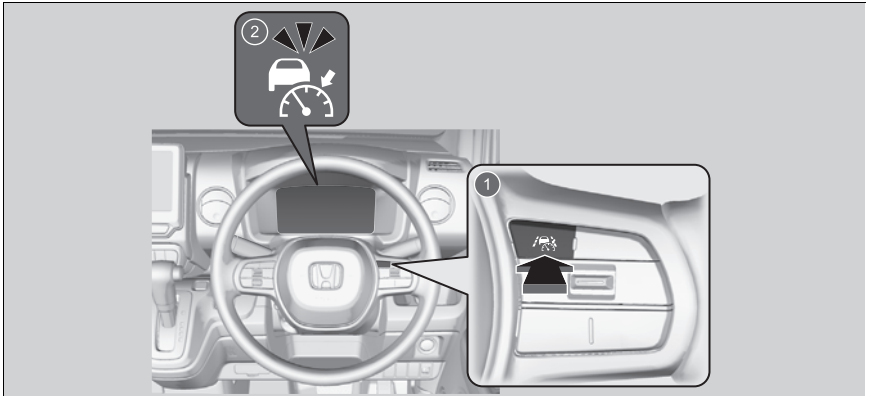
渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

使用上の注意：
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

次ページに続く

■システムを作動させるには

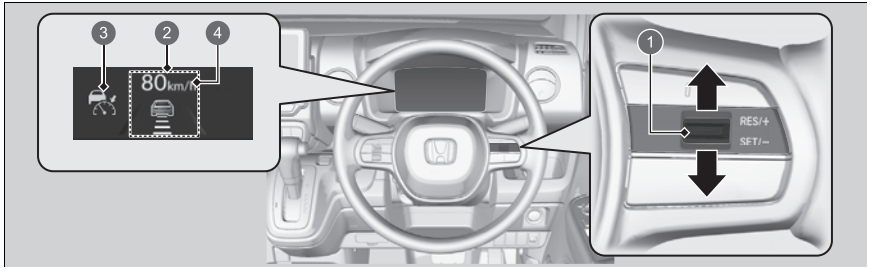


❶ ハンドルの スイッチを押す

❷ メーター内に (ホワイト)が点灯し、渋滞追従機能付 ACC が待機状態になります。

▶ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が待機状態になります。

■車速をセットするには



❶ RES/+/SET/- スイッチ
❷ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❸ (グリーン)
❹ 設定車速(ホワイト)

ブレーキペダルを操作していないときに RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

▶ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が作動します。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

車速をセットするには

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

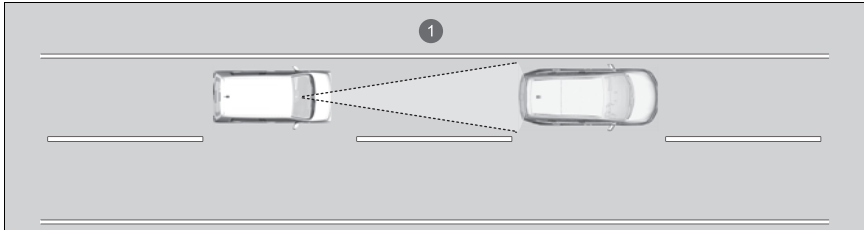
- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

次ページに続く

■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

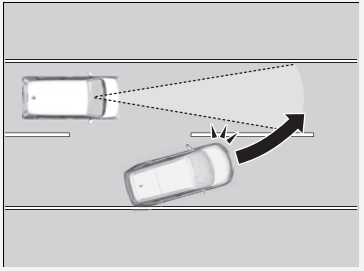
渋滞追従機能付 ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



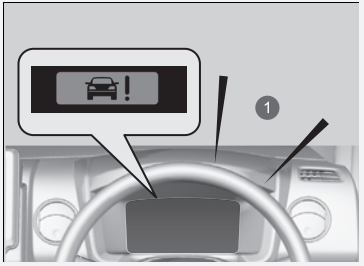
❶ 渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m

▶渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



❶ 警告音



❶ メーターに車のアイコンが表示されます。

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.88

制限：

安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.238
➡ **車間距離を設定するには** P.242

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■先行車がいないとき



先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、設定した車速を超えてしまう場合があります。

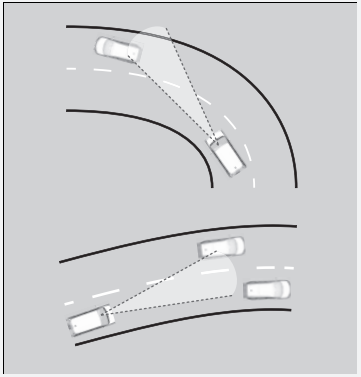
❶ メーターに実線の車のアイコンが表示されます

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

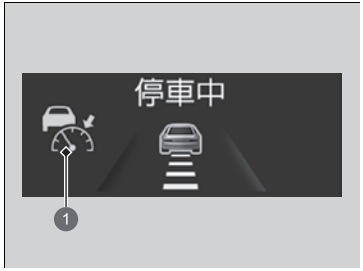
≫渋滞追従機能付 ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車が減速して停車するとき



❶ (グリーン)

先行車が停車すると、自車も自動で停車します。メーターにメッセージが表示されます。

先行車の動きに合わせて RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

▶先行車がいなくなったあとはアクセルペダルを踏むと発進します。

次ページに続く

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

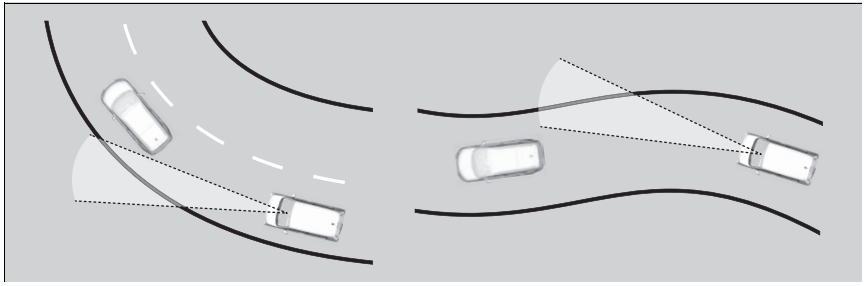
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

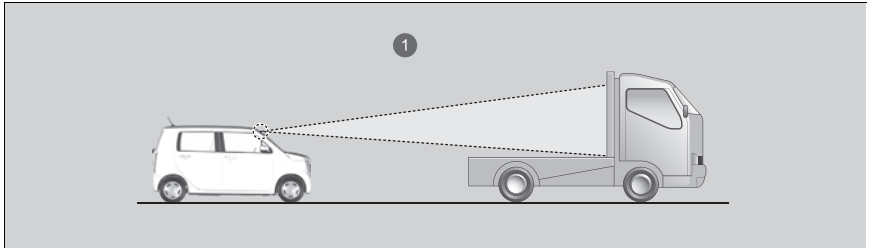
■前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

次ページに続く

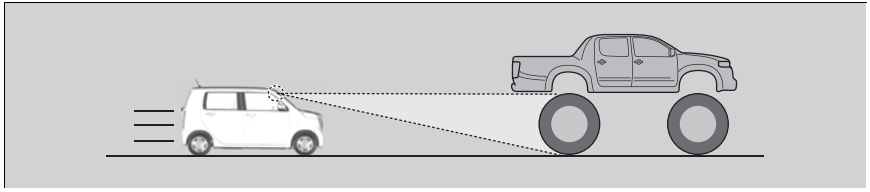
■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



❶ トラックの上部を検知

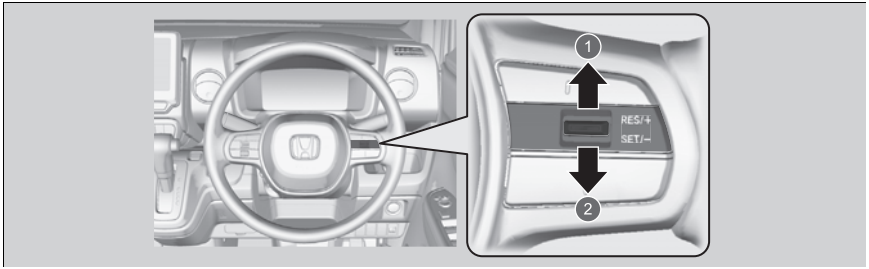
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■設定車速を調整するには

手元の RES/+/SET/- スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



❶ RES/+ 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

❷ SET/- 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

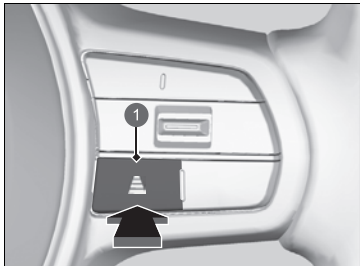
設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、RES/+/SET/- スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

次ページに続く

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

❶ ディスタンススイッチ

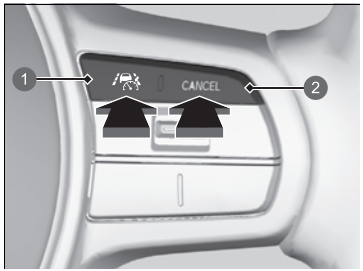
車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 27m	約 33m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

次ページに続く

■解除するには



❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。このとき同時に車線維持支援システム（LKAS）が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内のがホワイトになります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の（グリーン）が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の（グリーン）が（ホワイト）になります。

▶解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。 RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

また、（ホワイト）が表示され、解除前の設定車速（グレー）の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

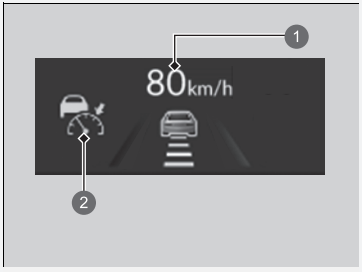
- スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、衝突軽減ブレーキ（CMBS）、踏み間違い衝突軽減システム、または衝突後ブレーキシステムや急アクセル抑制機能* が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき

解除するには



❶ 解除前の設定車速（グレー）
❷ （ホワイト）

加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどに渋滞追従機能付ACCが自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に渋滞追従機能付 ACC をセットできない場合があります。



次ページに続く

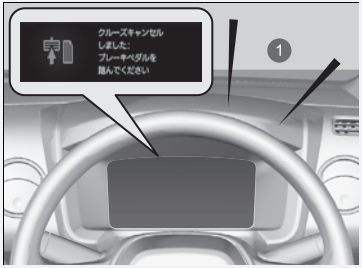
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

≫解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



❶ 警告音

すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■クルーズモードへの切換え



❶ 渋滞追従機能付 ACC ON
❷ クルーズモード ON
❸ (ホワイト)
❹ (ホワイト)
❺ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。

同時に、メーター内の(ホワイト)が(ホワイト)に変わります。

再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

クルーズモードへの切換え

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- スイッチが OFF のとき

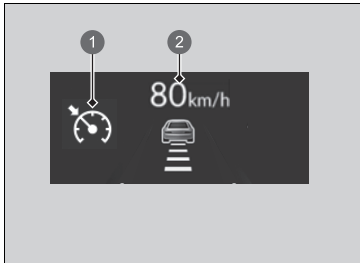
クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

次ページに続く

■車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、 RES/+/SET- スイッチを上か下に押します。

RES/+/SET- スイッチを上か下に押して離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに(グリーン)と設定車速が表示されます。

❶ (グリーン)
❷ 設定車速

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

■車速を調節するには

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

次ページに続く

■解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

▶解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

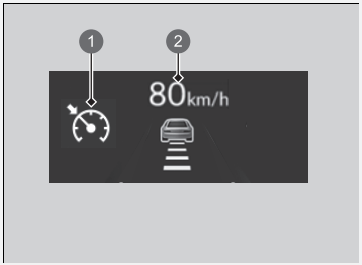
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。 RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、 RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
- スイッチで OFF 操作をしたとき

解除するには



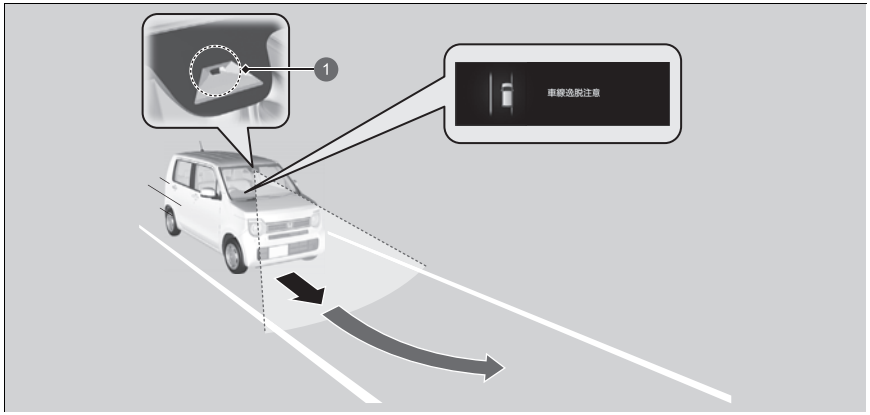
❶ (ホワイト)
❷ 解除前の設定車速(グレー)

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)作動中に方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

≫車線維持支援システム(LKAS)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

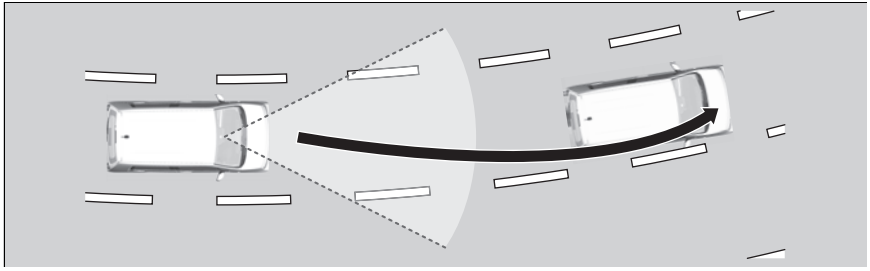
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.274

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

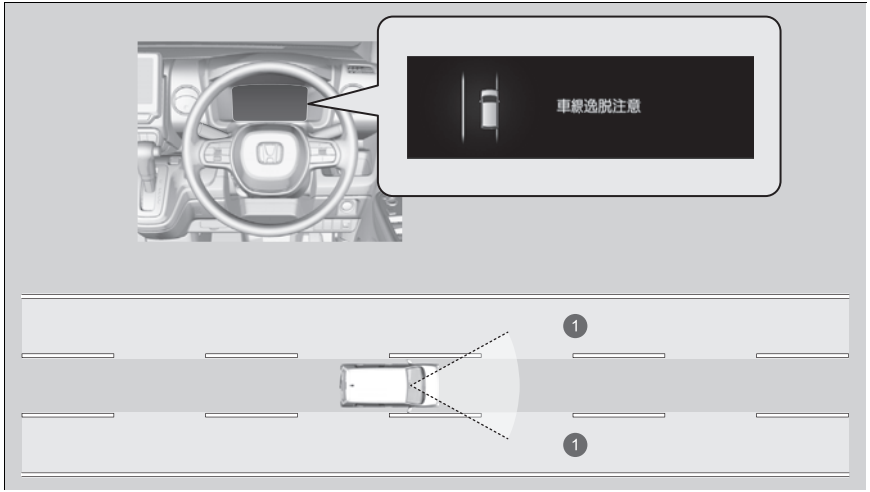
➡ **LKAS の条件と制限** P.259

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

次ページに続く

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 警報エリア

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、渋滞追従機能付 ACC が作動しているときに以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS を作動させるには

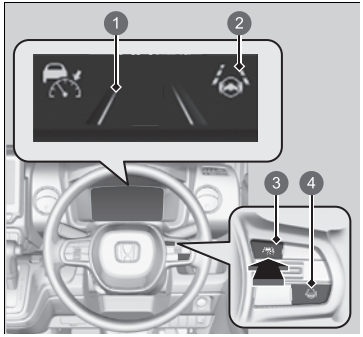
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

➡ **LKAS の条件と制限** P.259

次ページに続く

■システムの作動方法



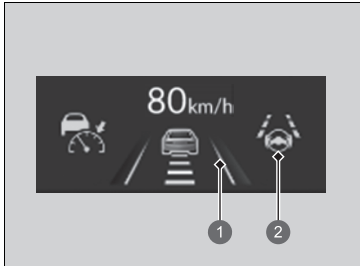
❶ 車線表示（ホワイト）
❷ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト）
❸ スイッチ
❹ スイッチ

1. スイッチを押す。
▶ メーターに（ホワイト）とともに車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト）が点灯し、システムが待機状態になります。
車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト）が消灯している場合はスイッチを押すと点灯し待機状態になります。
▶ カメラが両側の白線（黄線）を検知すると、メーターに車線表示（ホワイト）が点灯します。
▶ このとき渋滞追従機能付 ACC が待機状態になります。

2. RES/+/SET/- スイッチを上か下に押す。
▶ システムが作動可能状態のときに RES/+/SET/- スイッチを押すと、制御を開始します。
▶ このとき渋滞追従機能付 ACC が作動します。

LKAS を作動させるには

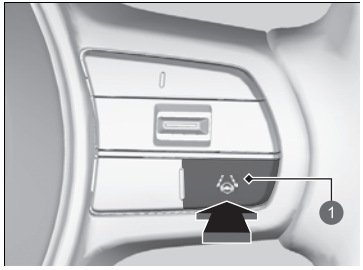
システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない



❶ 車線表示（グリーン）
❷ LKAS 表示灯（グリーン）

3. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、メーターの車線表示とLKAS表示灯がグリーンに切り替わり、LKAS の制御を開始します。

■解除するには



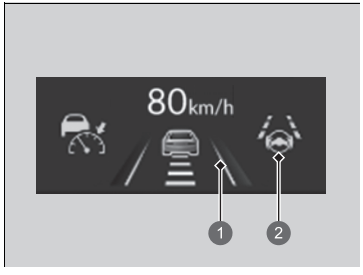
❶ スイッチ

スイッチを押すと、LKASが解除されます。

次ページに続く

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターの車線表示と LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



❶ 車線表示（ホワイト）
❷ LKAS 表示灯（ホワイト）

- 車速が 50km/h 以下になったとき
  ▶車速が50km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- ABS、VSA が作動しているとき
- 渋滞追従機能付ACCが作動していないとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

LKAS が自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

時計*/ 車両設定 P.88

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

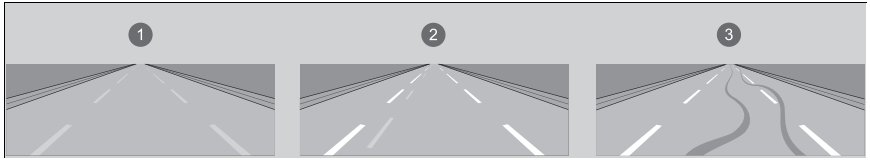
■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

次ページに続く

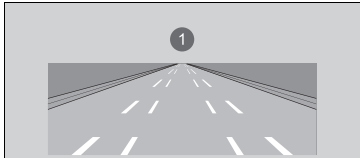
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



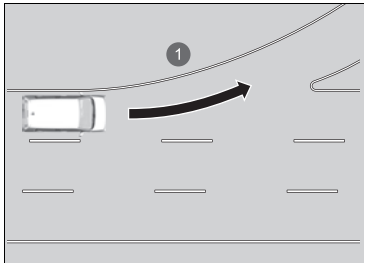
❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

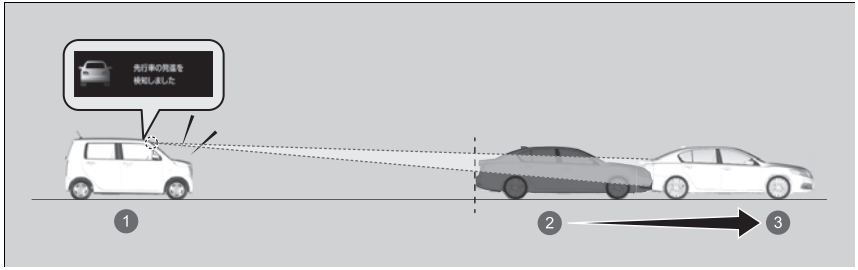
次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



❶ 停止
❷ 先行車停止
❸ 先行車発進

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

次ページに続く

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがD、Sの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているまたは渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動中で停車している。

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。
➔ **時計*/ 車両設定** P.88

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

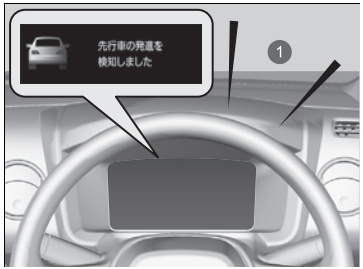
≫先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。
➔ **時計*/ 車両設定** P.88

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。
➔ **警告灯** P.59

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

❶ 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

■その他、カメラが正しく検知できない事例
- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

■その他、作動できない事例
- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

▶▶標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

エンジン始動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.274

標識認識機能表示は、ON/OFF の設定を変更することができます。
➔ **時計*/ 車両設定** P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

標識認識機能

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

時計*/ 車両設定 P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

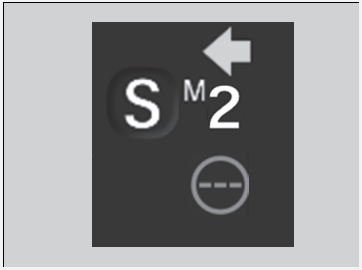
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

▶標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はメーターに⊖が表示されます。
⊖のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識 (終了を示す補助標識など)

次ページに続く

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■メーターの表示

同時に2つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例

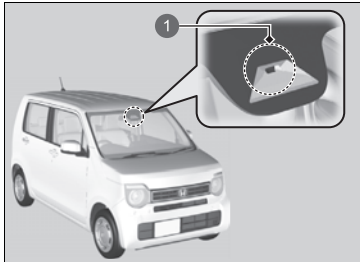


左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

メーターの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

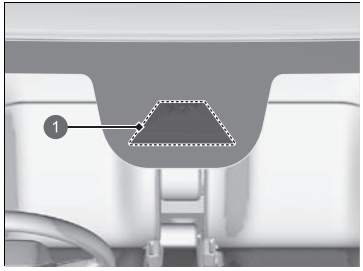
フロントワイドビューカメラ



❶ フロントワイドビューカメラ

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントワイドビューカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.337

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合はHonda 販売店にご相談ください。
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

フロントワイドビューカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとフロントワイドビューカメラ周辺の温度を下げてください。

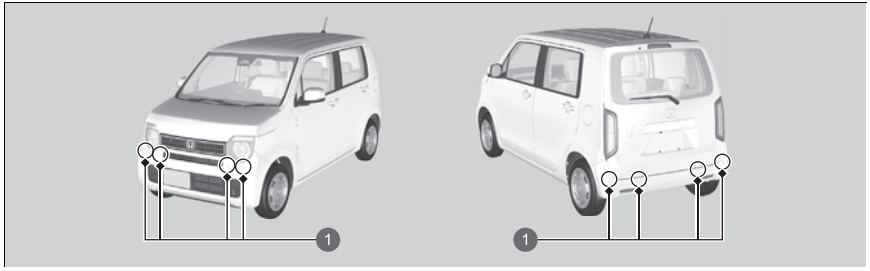
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

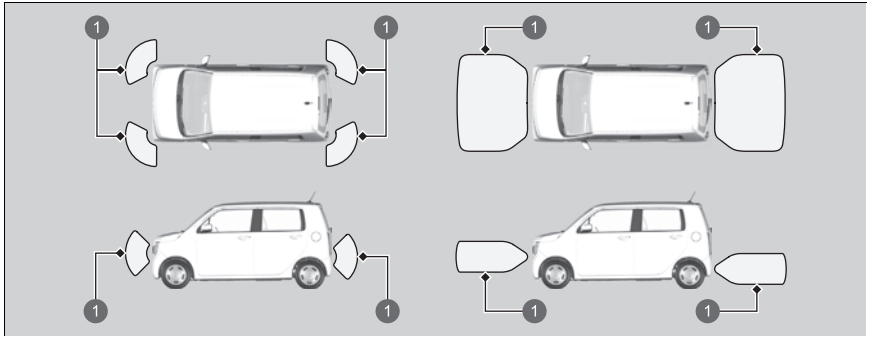
ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーは、フロントバンパー、フロントグリルとリヤバンパーに設置されています。



❶ ソナーセンサー



❶ センサーの検知範囲

ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーおよびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。

≫電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➡ **バッテリーがあがったとき** P.365

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10分以上渋滞追従機能付ACCまたはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- アイドリングストップ中を除き、渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

次ページに続く



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき：
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。
パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➲ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.280

≫電子制御パーキングブレーキ

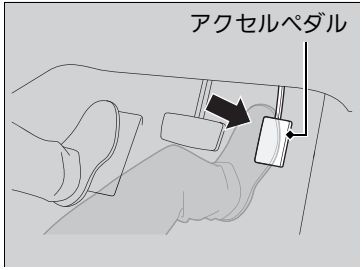
パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。
- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。
- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンが始動しているとき
- シフトポジションが P 、 N 以外のとき

次ページに続く

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードがONモードのときに以下の操作で ON と OFF を切り換えることができます。

1. セレクトレバーを[P]に入れる。

2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。

3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。

4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
▶ 自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
▶ 自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的に OFF することもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。

2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
▶ 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
▶ 渋滞追従機能付 ACC およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

≫自動作動機能を ON/OFF するには

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.286

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.285

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

エンジン始動直後や標高が高いときなど特定の条件下でブレーキを踏んだとき、ブレーキの効きを補うハイドロリックブレーキブーストが装備されています。
この機能が作動するとブレーキペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえる場合があります。

次ページに続く

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

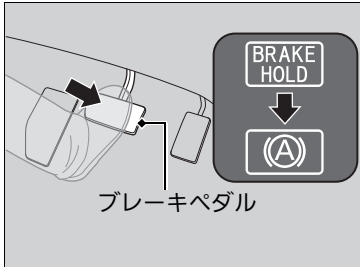
■機能を ON させるには



シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには



シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

▨オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

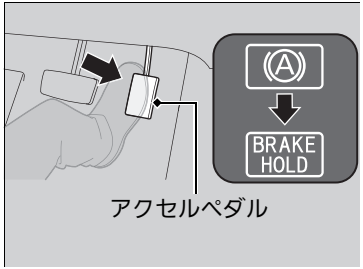
⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

■車両を発進させるには



シフトポジションがP N以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、自動でブレーキが解除されます。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションがPもしくはRで、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

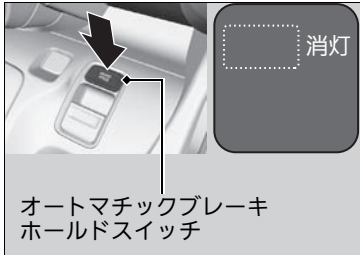
システムが作動していても通常と同じ手順でエンジンの停止が行えます。

➡ **駐停車操作** P.288

パワーモードを OFF にすると、システムは自動的に OFF になります。

次ページに続く

■機能を OFF させるには



機能がONのときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▨機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムがOFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

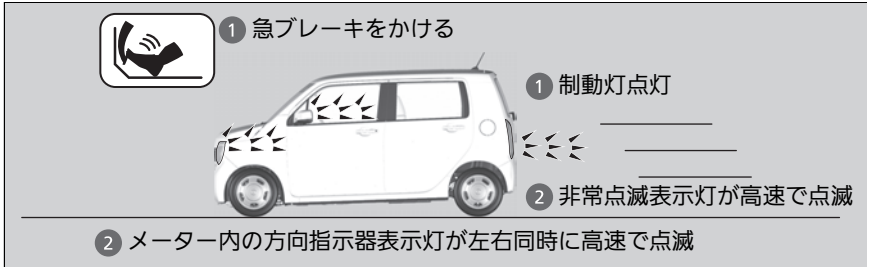
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.186

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

»エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABSが一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを[P]にする。
4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

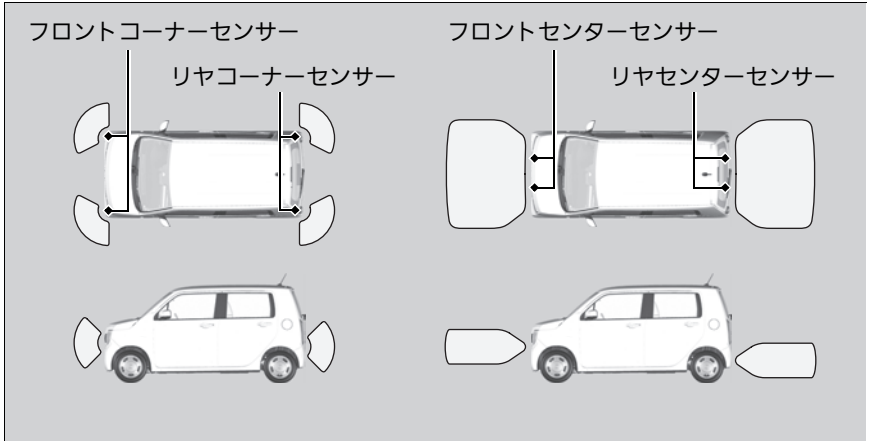
寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.276

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

■パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.74

➔ **安全支援情報** P.83

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 9km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P、R 以外で、車速が 9km/h 以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **設定項目** P.89

次ページに続く

■障害物を検知したときの作動状態

パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

N-WGN

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーション ディスプレイ
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント : 約 75-55 cm リヤ : 約 105-60 cm	点灯(イエロー)※	
短い	約 60-45 cm	フロント : 約 55-45 cm リヤ : 約 60-45 cm	点灯(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点灯(レッド)	

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

N-WGN CUSTOM

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーション ディスプレイ
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント : 約 75-60 cm リヤ : 約 105-60 cm	点灯(イエロー)※	
短い	フロント : 約 65-45 cm リヤ : 約 60-45 cm	フロント : 約 60-50 cm リヤ : 約 60-45 cm	点灯(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35 cm	フロント : 約 50-40 cm リヤ : 約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	フロント : 約 40 cm 以下 リヤ : 約 35 cm 以下	点灯(レッド)	

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

共通

警報音を一時的にOFFにするには、警報音がなっているときにレフトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

リアワイドカメラシステム

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

2WD 車 27 リットル
4WD 車 25 リットル

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
➔ **車内での施錠 / 解錠** P.112

次ページに続く

≫指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

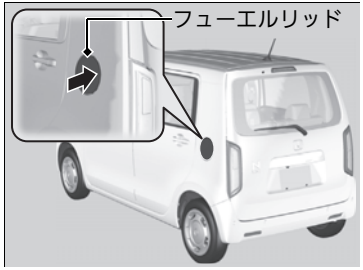
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

≫給油のしかた

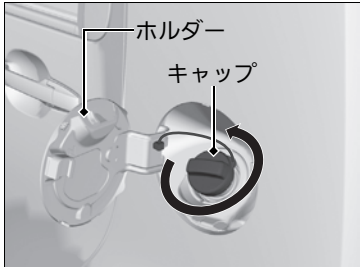
⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

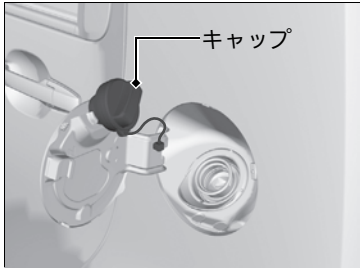
ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。



5. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

▩給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

8. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドの右端を「カチッ」という音がするまで押し、リッドを閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

ターボ車✤ について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**
- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分10万回転以上の高回転で回り、かつ700℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

▶ターボ車* について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。
➡ **オイルメンテナンス表示*** P.303
➡ **推奨エンジンオイル** P.311

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動するとマルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水温上昇中　急発進・急加速・高速走行を避けてください」または、「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示されることがありますが、機能的に問題はありません。
約1分間アイドリング運転を行うか、走行するとメッセージは消えます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に
- 点検整備について 300
- メンテナンスを安全に行うために 301
- メンテナンスに関する注意事項 302

オイルメンテナンス表示*
- オイルメンテナンス情報の表示 304

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 308
- ボンネットを開ける 310
- 推奨エンジンオイル 311
- ウィンドウォッシャー液の補給 313

電球の交換 314

ワイパーブレードラバーの点検と整備 320

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 325
- タイヤとホイールの交換 329
- タイヤのローテーション 330
- 冬期のタイヤ 331

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 332

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 335

清掃
- 車内の清掃 337
- 車外の清掃 340

アクセサリーと改造
- アクセサリー 343
- 改造や部品交換について 343

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

≫点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける
- ボンネット内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

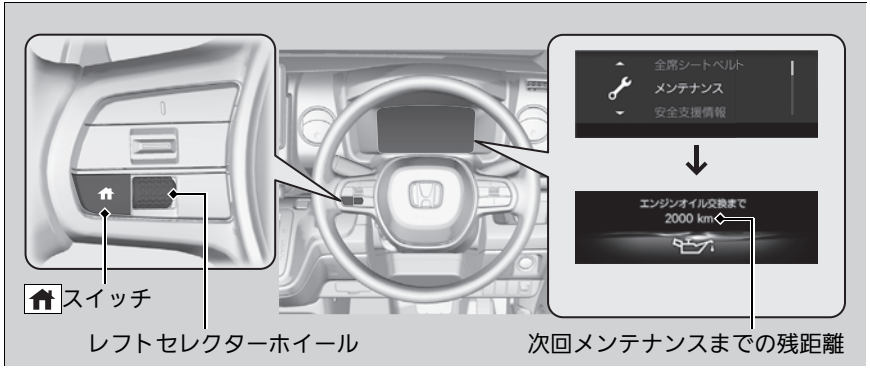
オイルメンテナンス表示*

オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。
メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda販売店でメンテナンスを受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オイルメンテナンス情報の表示

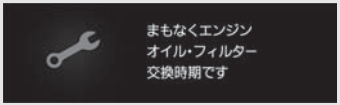
1. パワーモードを ON モードにする。
2. スイッチを押し、アイコンが表示されるまで、レフトセレクターホイールを回す。
3. レフトセレクターホイールを押す。
▶ マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されます。

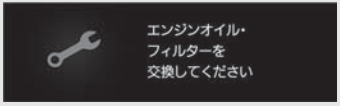
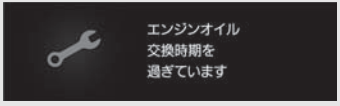
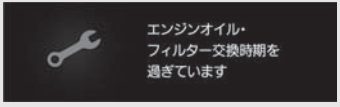


オイルメンテナンス情報の表示

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換からの経過時間に応じてメンテナンスが必要です。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

■マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージとオイルメンテナンス情報

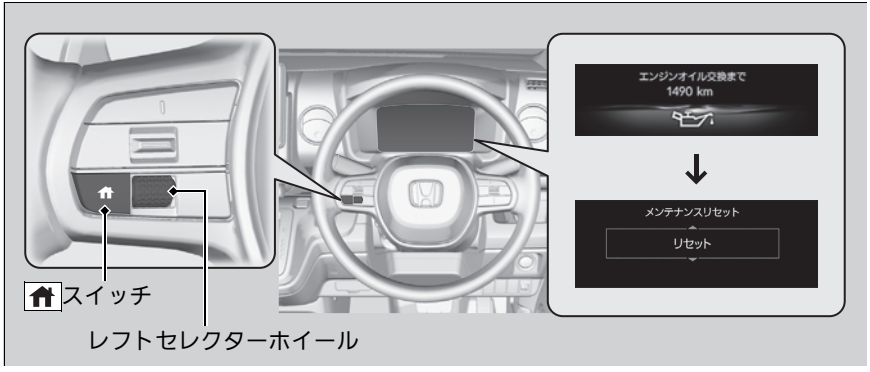
警告メッセージ	オイルメンテナンス情報	説明	情報
—	 	マルチインフォメーションディスプレイでオイルメンテナンス画面を選択するとメンテナンス時期までの走行距離が表示されます。	—
 	 	メンテナンス時期までの走行距離が 750km 未満になったとき表示されます。	メンテナンス時期が近くなっています。

警告メッセージ	オイルメンテナンス情報	説明	情報
		メンテナンス時期までの走行距離が 250km 未満になったとき表示されます。	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
			
		メンテナンス時期を過ぎているとき表示されます。	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルメンテナンスをリセットしてください。
			

オイルメンテナンス表示のリセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。

1. パワーモードを ON モードにする。
2. スイッチを押す。
3. アイコンが表示されるまでレフトセレクターホイールを回す。
4. 表示されたらレフトセレクターホイールを押す。
5. レフトセレクターホイールを約 10 秒間押し続けるとリセットモードになる。
6. レフトセレクターホイールを回し「リセット」を選択する。
7. リセットが選択された状態でレフトセレクターホイールを押すとリセットされる。



オイルメンテナンス表示のリセットのしかた

アドバイス

メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

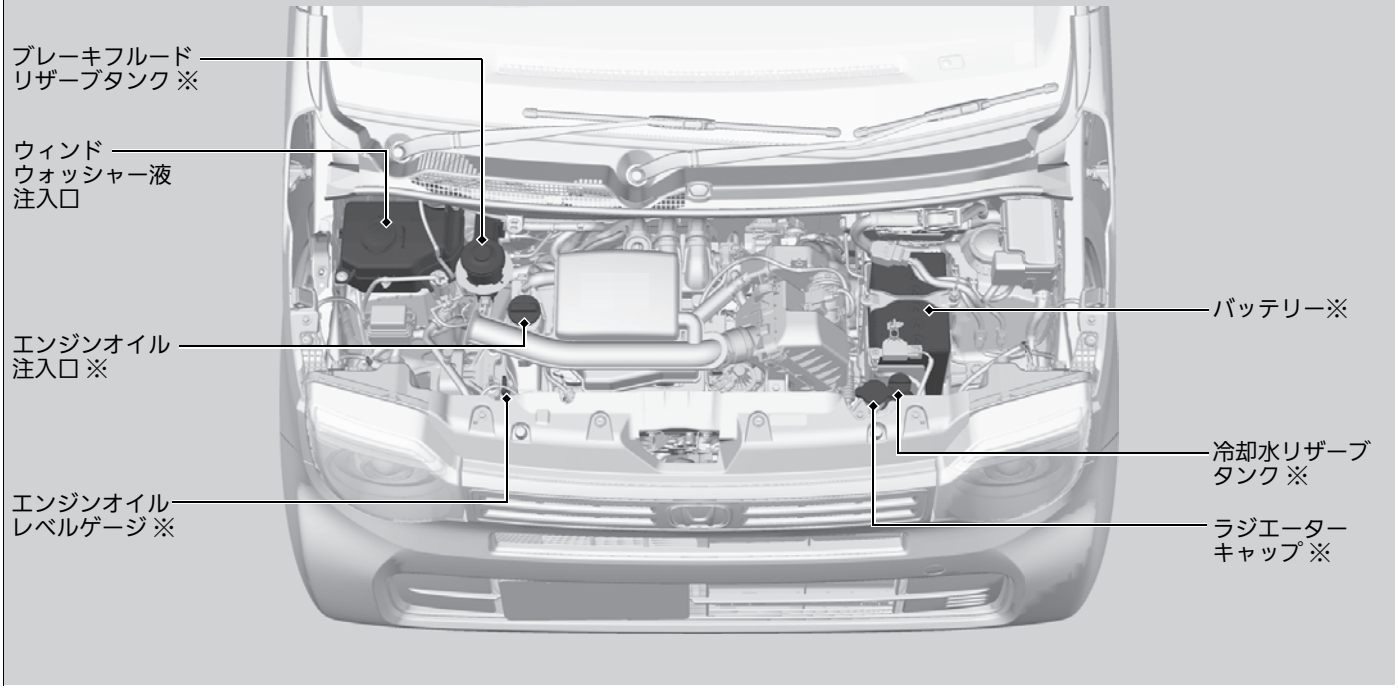
カスタマイズ機能でもオイルメンテナンスの表示をリセットできます。

時計*/ 車両設定 P.88

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

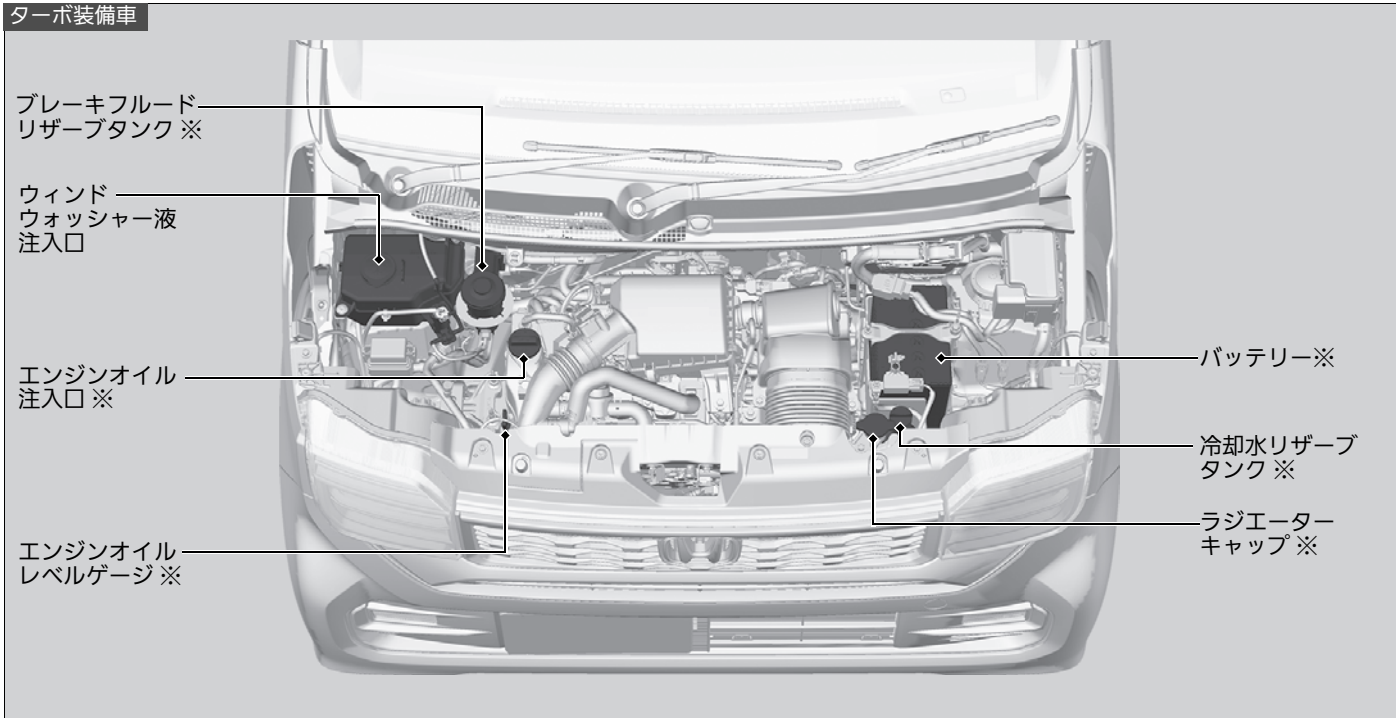
エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車



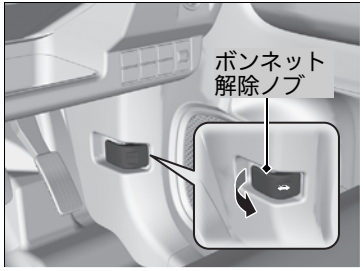
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ターボ装備車

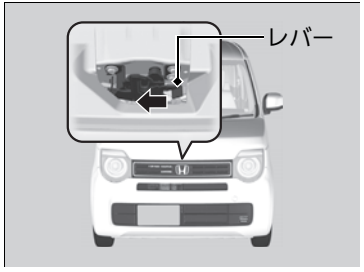


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

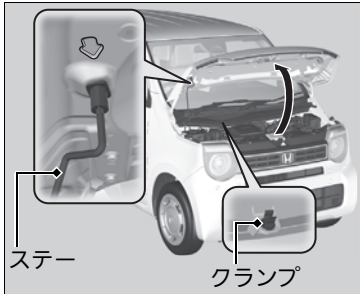
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを左に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. ステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

▶ボンネットを開ける

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。
やけどを負うおそれがあるので、冷めるまではステーの金属部分に触れないでください。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

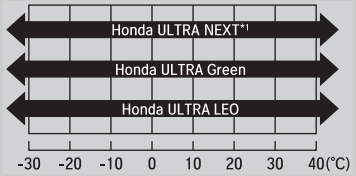
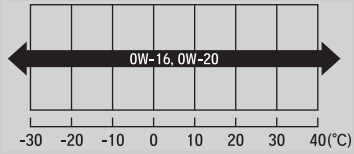
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

ターボ非装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA NEXT*1 • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
 外気温	 外気温

*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。

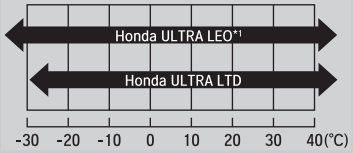
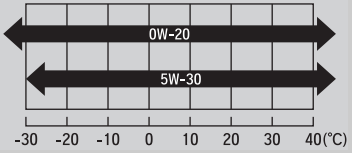


ターボ非装備車



次ページに続く

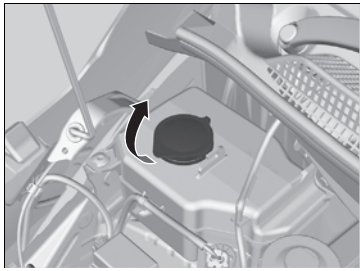
ターボ装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*1 • Honda ULTRA LTD	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
	

*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

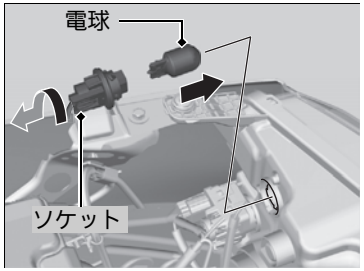
ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。
点検や交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W 橙色(WY21W)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

車幅灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

フォグライトはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

制動灯 / 尾灯電球

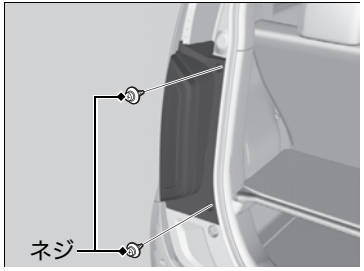
制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

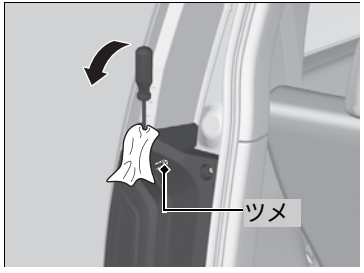
電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

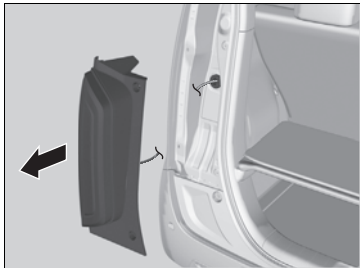
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V−21W 橙色(WY21W)
後退灯	: 12V−16W(W16W)



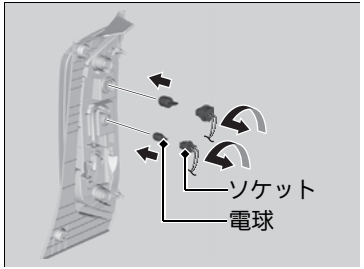
1. ネジを外す。



2. ドライバーを差し込み、矢印の方向に動かしてツメを外す。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



3. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



4. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯は LED を使用しています。
点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

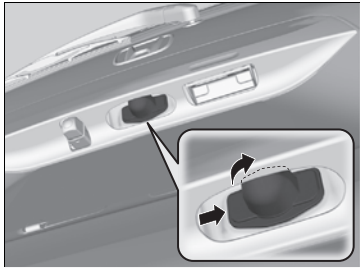
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLED を使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

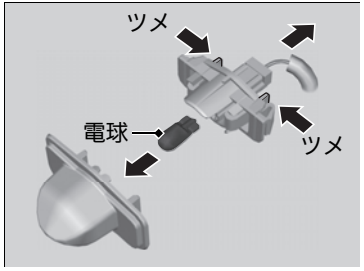
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V−5W(W5W)



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



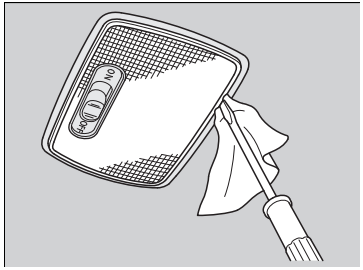
2. ツメを押してレンズを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

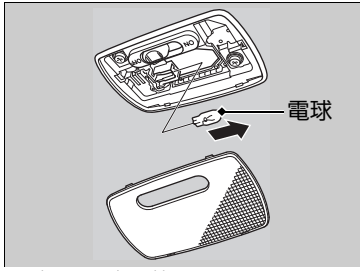
■室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯:12V−8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



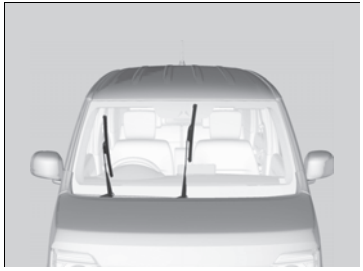
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

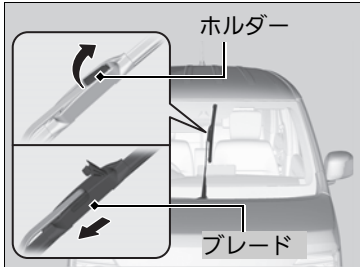
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ホルダーを起こす。
3. ブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す。

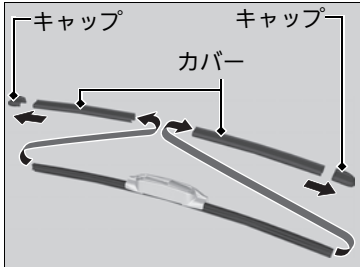
フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

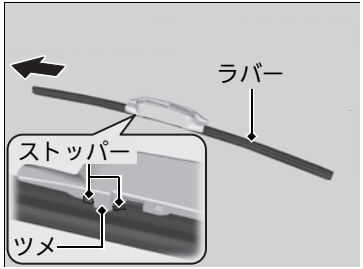
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

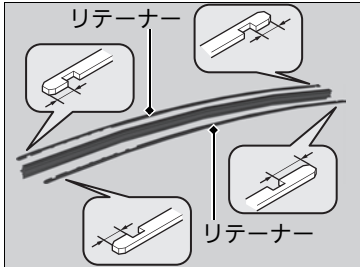
ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. ブレードの両端のキャップとカバーを取り外す。

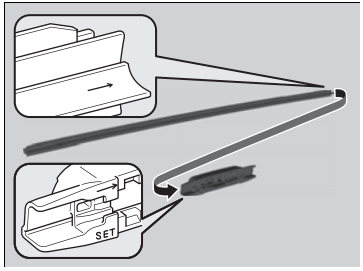


5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

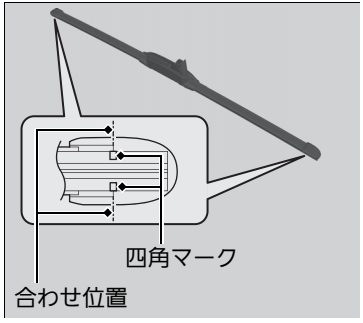


6. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーの切欠き部が、正しくラバーに取り付けられているか確認してください。

次ページに続く



7. ラバーをブレードの端から差し込む。
▶ 正しく固定されているか確認してください。

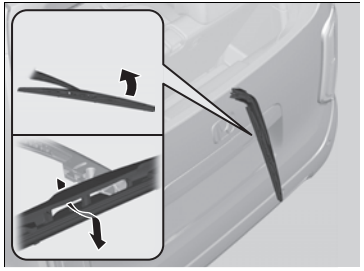


8. ブレードの両端のカバーとキャップを取り付ける。
▶ キャップの合わせ位置がラバーの四角マーク内に収まっているか確認してください。

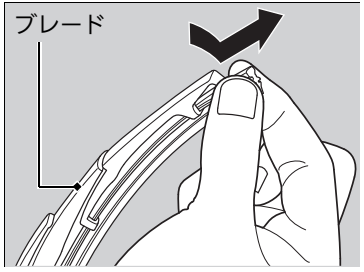
9. ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じる。

10. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

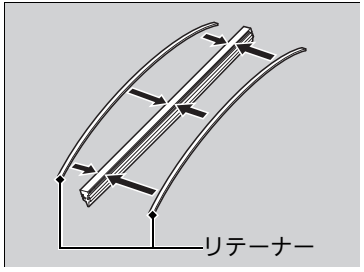
リヤワイパーブレードラバーの交換



1. ワイパーアームを起こす。
2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
   ▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

リヤワイパーブレードラバーの交換

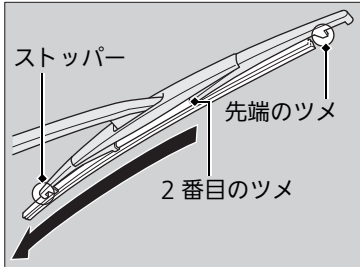
アドバイス

ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

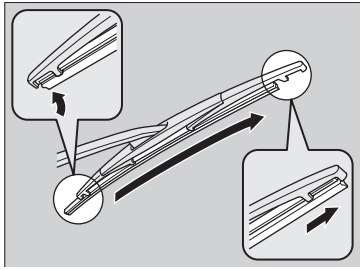
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



6. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。



7. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
8. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

≫タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

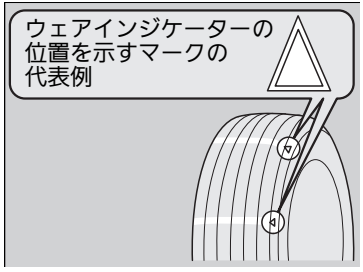
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ **仕様** P.387,389

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

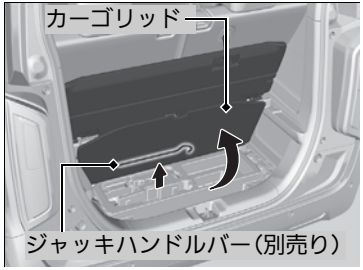
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

ホイールカバー装備車

■ホイールカバーの脱着方法



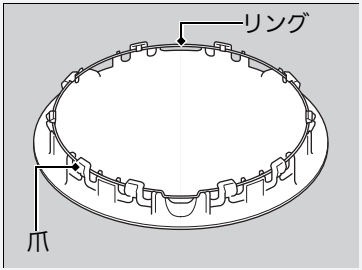
1. スライドボードとフロアボードを上げて、フロアボードを固定する。
➡ **フロアボード** P.151
2. カーゴリッドを開ける。
3. ツールボックスからジャッキハンドルバー(別売り)を取り出す。
▶ ジャッキハンドルバーは、ジャッキ(別売り)の下に収納されています。

≫ホイールカバーの脱着方法

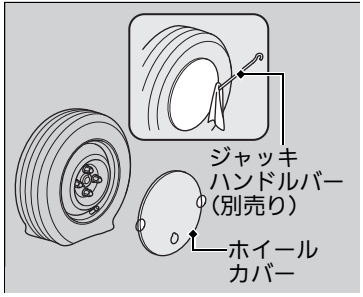
⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



次ページに続く

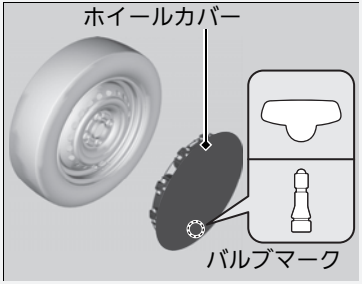


4. ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に 5 ～ 6cm 差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。

▶ 場所を変えて2カ所繰り返すと楽に外れます。

»ホイールカバーの脱着方法



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

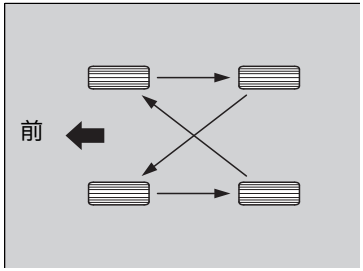
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

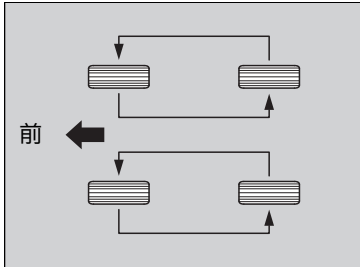
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

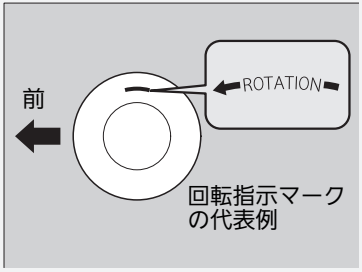
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

▶タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



ホイールナット締め付けトルク
108 N・m(11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

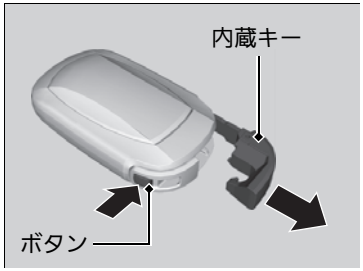
- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

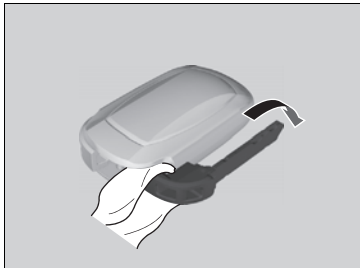
■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。
電池切れの場合、急アクセル抑制機能* が起動しない場合があります。



ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。



2. ボタンを下にしてカバーを外す。
- ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
- ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。

⩙電池交換のしかた

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

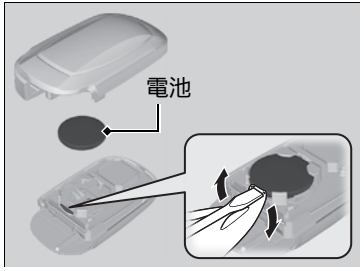
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く



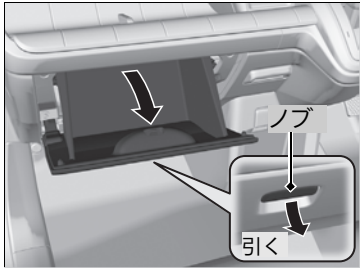
3. 電池を取り外す。
▶ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。
4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

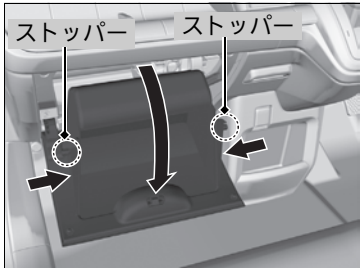
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。

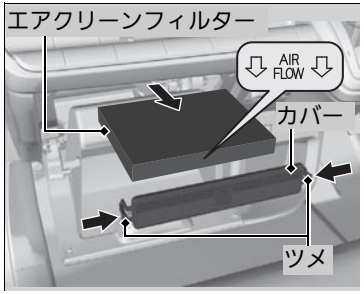


2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

» エアコンのお手入れ

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

次ページに続く



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
4. エアクリーンフィルターを引き出す。
5. 新品と交換する。
▶「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

»車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット /IR カットガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)、フロントコーナーガラスの車内側にUV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

フロントガラスやリヤガラスは、ガラスの内側にアンテナ線✤ や電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

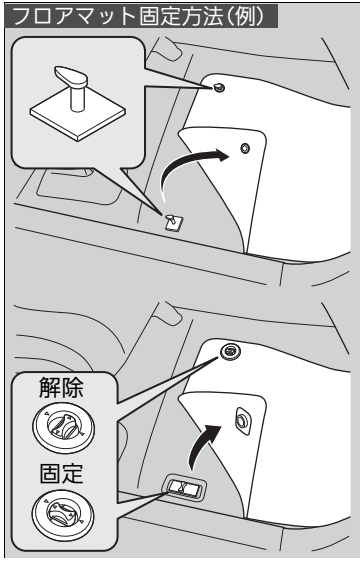
ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フロアマット



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

■本革* のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- マイクロアンテナ* を取り外す

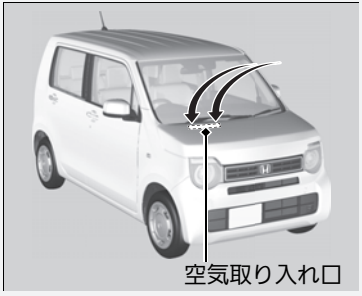
■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

▶洗車について

故意にエンジンルームや空気取り入れ口に水をかけないでください。

電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



洗車するときは、運転席ドア(フューエルリッド)を施錠してください。
フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。

ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

≫アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

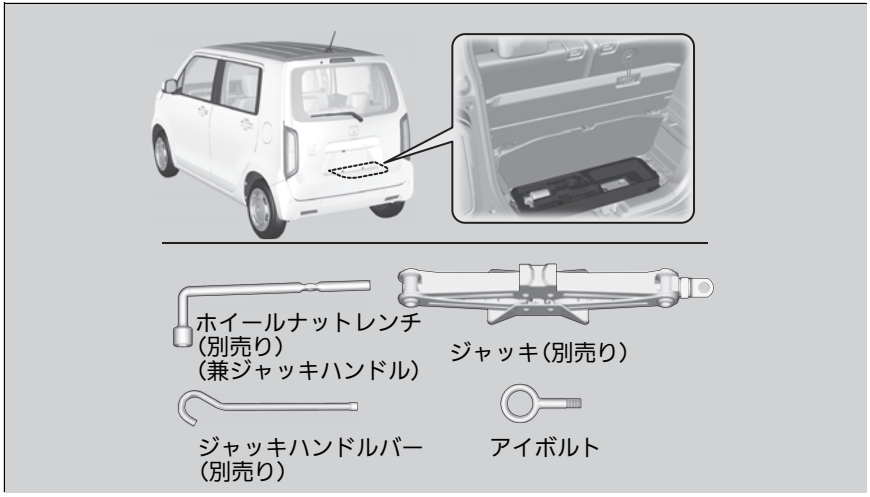
万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、発炎筒 345
パンクしたとき
パンクしたタイヤの応急修理 347
ジャッキの取り扱い
ジャッキのかけかた 359
エンジンが始動しない
エンジンの状態の確認 361
Honda スマートキーの電池が切れたとき 362
緊急時のエンジン始動方法 363
緊急時のエンジン停止方法 364
バッテリーがあがったとき 365
セレクトレバーが動かない 368
オーバーヒート 369
警告灯の点灯 / 点滅 371
ヒューズ
ヒューズの設置場所 375
ヒューズの点検と交換 379
けん引 380
フューエルリッドが解錠できないとき ... 383
テールゲートが開かないとき 384

工具の種類



≫工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

▶発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

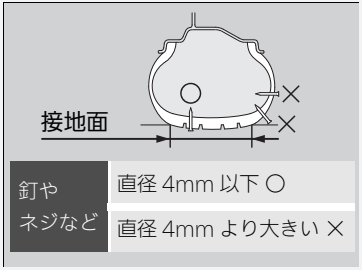
スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを P に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

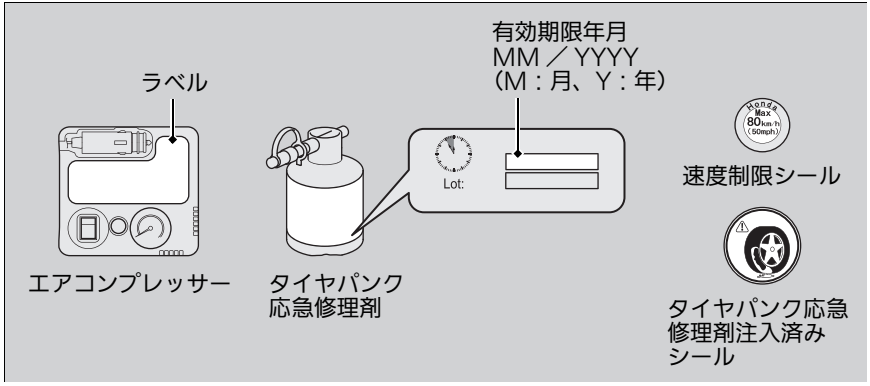


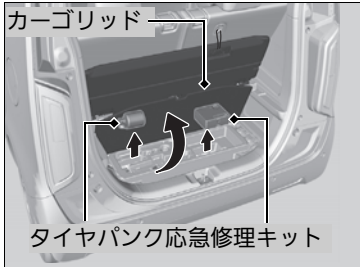
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

次ページに続く

■タイヤ応急修理の準備





1. スライドボードとフロアボードを上げて、フロアボードを固定する。
➡ **フロアボード** P.151

2. カーゴリッドを開けて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

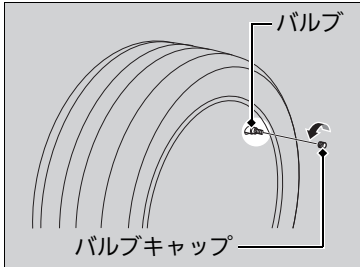
▶タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属のラベルをお読みください。

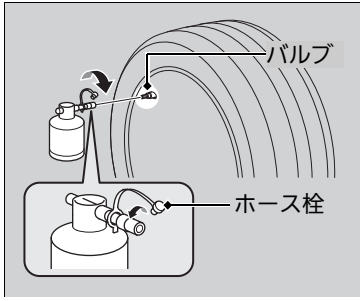
コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。

- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

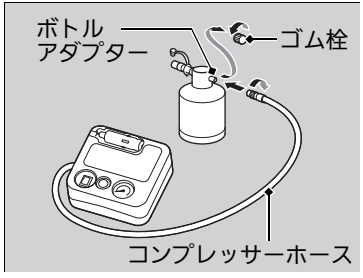
■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. ボトルホースからホース栓を外し、タイヤのバルブにボトルホースをきつく締め付ける。
▶ 応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。
5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

次ページに続く

≫応急修理剤とエアの注入

⚠警告

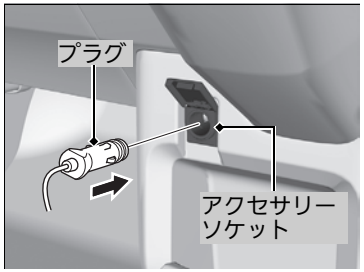
応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合、
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトルキャップとホース栓を外した後、ボトルを振らないでください。応急修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

コンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.156

7. エンジンを始動する。
➔ **一酸化炭素について** P.55

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

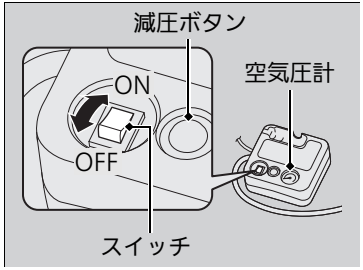
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえます。



8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
指定空気圧：

14 インチタイヤ装備車

前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)

15 インチタイヤ装備車

前輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
後輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)

▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
▶ 空気を入れすぎたときは減圧ボタンを押して空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

応急修理剤とエアの注入

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

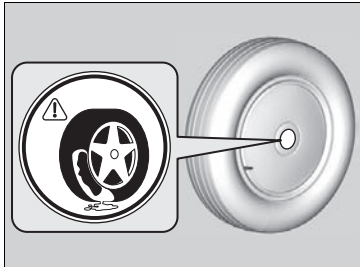
10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

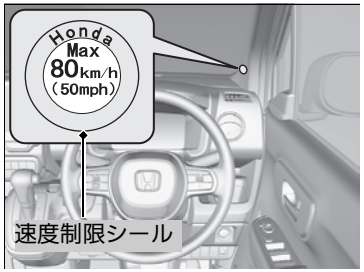
空きボトルはボトルキャップとホース栓を元通りつけて、元の位置に収納してください。
タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

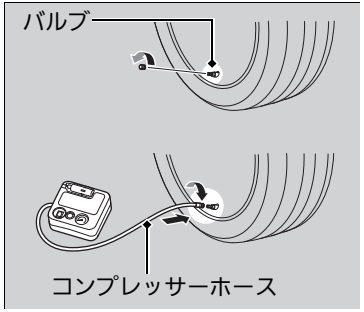
次ページに続く



10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。
11. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。
▶ ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
12. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0 kPa になるまで空気を抜く。
13. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。
▶ ホイールの平らな部分に貼ってください。
14. キットを車両に戻す。

■点検走行





1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5 km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. コンプレッサーホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

次ページに続く

5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
  指定空気圧：

  14 インチタイヤ装備車

  前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
  後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)

  15 インチタイヤ装備車

  前輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
  後輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)

点検走行

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

- 空気圧が130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、下記以下の場合：
  指定空気圧：
  14 インチタイヤ装備車
  前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
  後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)
  15 インチタイヤ装備車
  前輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
  後輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
  エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。

▶急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。

▶速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

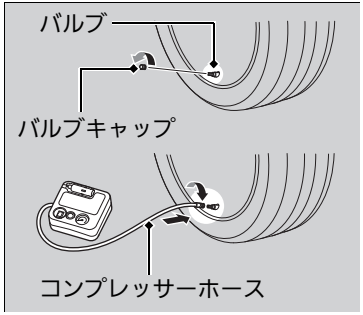
6. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

7. キットを車両に戻す。

次ページに続く

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にエアコンプレッサーを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. コンプレッサーホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

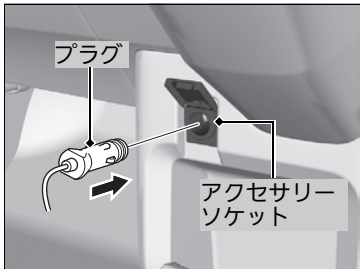
▶タイヤ空気圧の補充

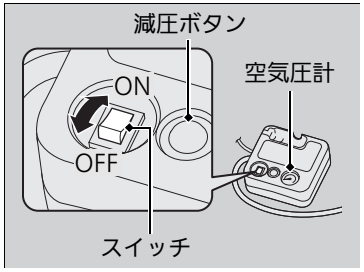
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえます。





5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➡ **アクセサリーソケット** P.156

6. エンジンを始動する。
➡ **一酸化炭素について** P.55

7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
指定空気圧：
14 インチタイヤ装備車
前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)
15 インチタイヤ装備車
前輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
後輪：210 kPa(2.1 kgf/cm²)
▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。

8. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 指定空気圧より高い場合は、減圧ボタンを押して減圧します。

タイヤ空気圧の補充

アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

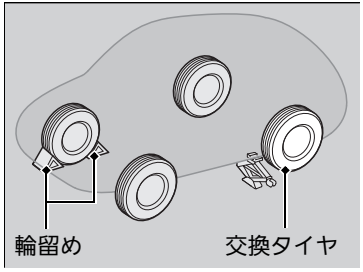
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

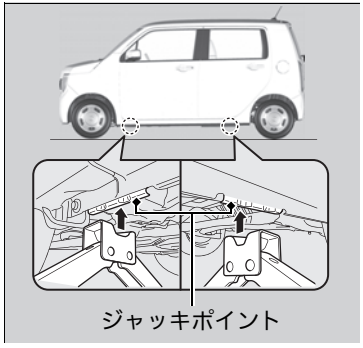
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

次ページに続く

9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。
10. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. エアコンプレッサーを車両に戻す。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを[P]に入れる。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。
6. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキ(別売り)を置く。

»ジャッキのかけかた

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

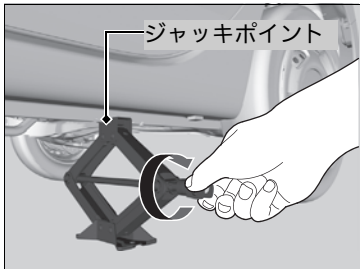
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

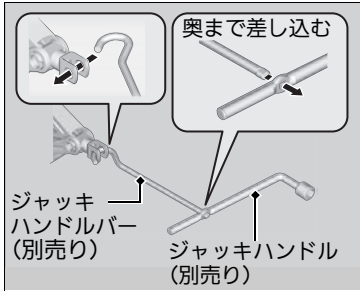
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

次ページに続く



7. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



8. ジャッキハンドル(別売り)とジャッキハンドルバー(別売り)を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する** 「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.362 • Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 ➡**ENGINE START/STOP スイッチ** P.121 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.362 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡**ヒューズの点検と交換** P.379
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡**エンジンの始動** P.169 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ **イモビライザーシステム** P.117 ➡ **イモビライザーシステム表示灯** P.67 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➡ **燃料計** P.71 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡**ヒューズの点検と交換** P.379

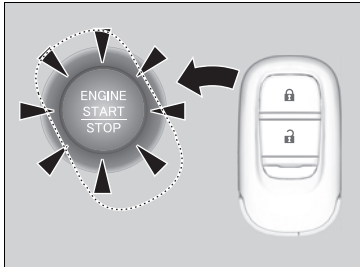
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
➡ **ジャンプスタートの方法** P.365

状況によっては、緊急時のエンジン始動方法を行うことで、一時的にエンジンを始動することができます。
➡ **緊急時のエンジン始動方法** P.363

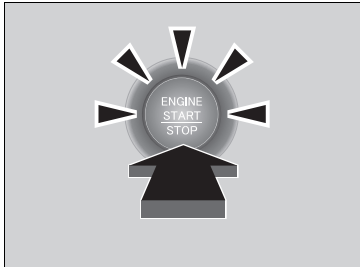
Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、
ENGINE START/STOP のインジケーターが点滅しているときは、エンジンの始動ができません。
以下の手順でエンジンを始動してください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
▶ ブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約30秒間点滅します。

2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ ブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
▶ エンジンが始動します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン始動方法

通常のエンジンの始動方法で、エンジンが始動しない場合は、次の操作でエンジンが始動する場合があります。
緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. シフトポジションがPであることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、ENGINE START/STOPを約15秒以上押し続ける。

上記の操作でエンジンが始動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

緊急時のエンジン始動方法

セレクトレバーが、Pの位置でロックされて動かなくなったら、下記を参照してください。
➡ **セレクトレバーが動かない** P.368

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. シフトポジションを P にする
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

緊急時のエンジン停止方法

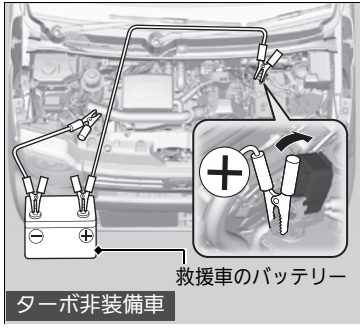
アドバイス

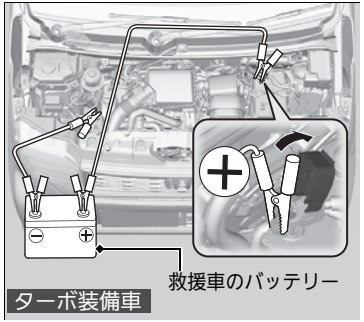
緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。
走行中に ENGINE START/STOP を押すとブザーが鳴ります。

ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。





1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   - ▶救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   - ▶自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

次ページに続く

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

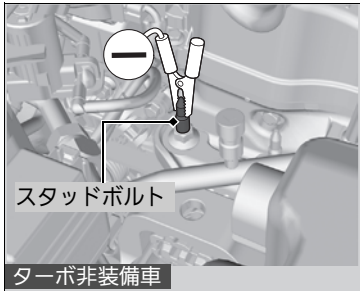
アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

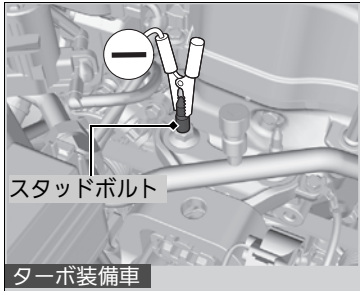
寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。



ターボ非装備車



ターボ装備車

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

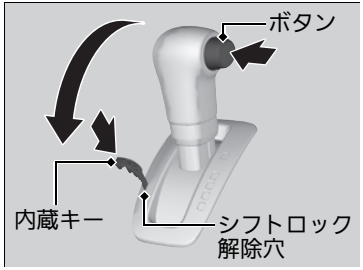
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、[P]の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. Honda スマートキーから内蔵キーを取り出す。
4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを[N]に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」と表示される
- エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P に入れる。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶ **蒸気が出ていない場合：**エンジンをかけたままボンネットを開ける。
▶ **蒸気が出ている場合：**エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

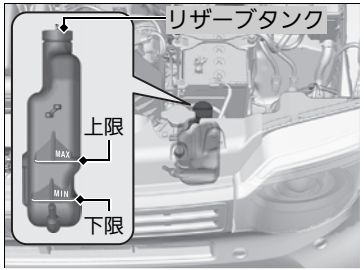
エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。

2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。

2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。

▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

3. エンジンを始動する。

▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：**運転を再開してください。

▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない：**エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

»「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

充電システムに異常があるときに点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。

エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した / 点滅した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した P.374

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)


(レッド)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.277

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、セレクトレバーを P にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示された場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

»ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

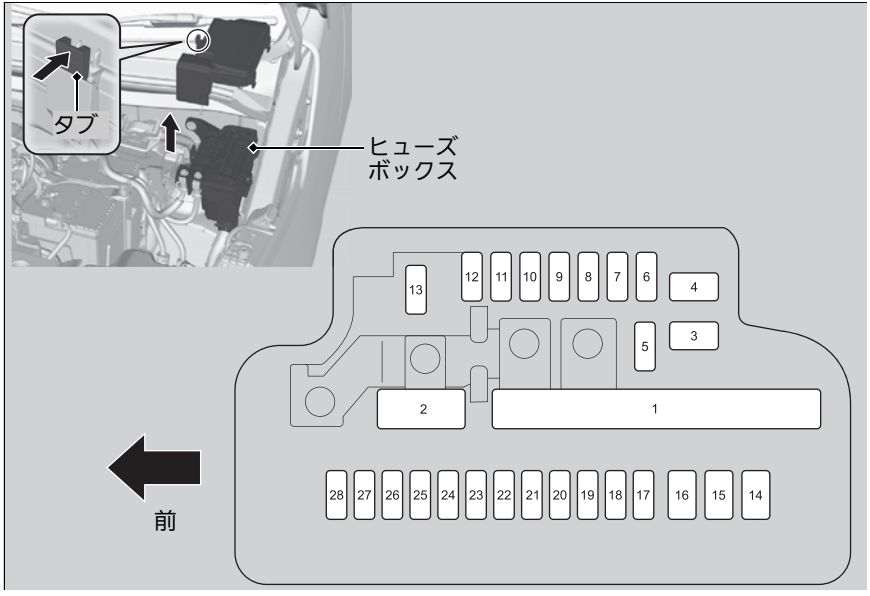
ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いているバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。
ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

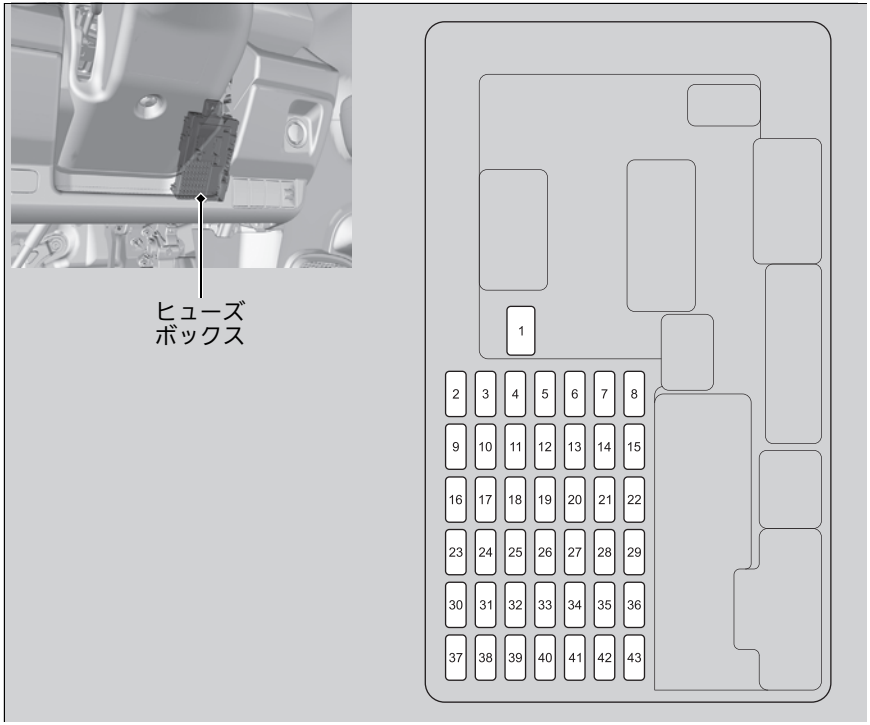
	装備	容量
1	ヒューズボックス メイン 2	40A
	DC/DC 2	30A
	ABS/VSA FSR	40A
	EPS	40A
	DC/DC 1	30A
	ABS/VSA モーター	40A
	MAIN	100A
2	IG MAIN	50A
	ヒューズボックス メイン 1	60A
3	—	—
4	—	—
5	ホーン・制動灯	10A
6	—	—
7	リレーモジュール 1	10A
8	フォグライト✤	(7.5A)
9	非常点滅表示灯	10A
10	リレーモジュール 2	10A
11	—	—
12	バックアップ	10A
13	バックアップ (VST)	15A
14	—	—
15	スターター	30A
16	冷却ファン	30A
17	ワイパー	20A
18	MG クラッチ	7.5A
19	VBACT✤	(10A)
20	LAF	7.5A
21	ライトコントロール モジュール L	10A
22	ライトコントロール モジュール R	10A
23	ドライブバイワイヤ	15A※1 20A※2
24	バッテリーセンサー	10A
25	イグニッションコイル	15A
26	IGP	15A
27	—	—
28	—	—

※1 ：ターボ非装備車
※2 ：ターボ装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■室内のヒューズボックス

インストルメントパネルの奥にあります。
▶ 下から確認できます。
ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



次ページに続く

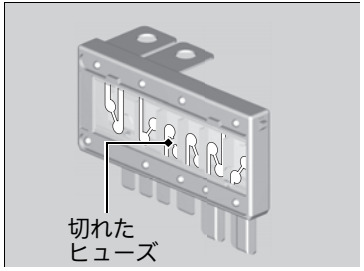
■各ヒューズの装備と容量

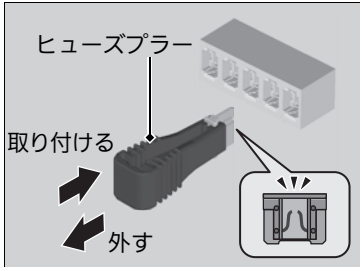
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	装備	容量
1	ヒーターモーター	30A
2	—	—
3	ウォッシャー	10A
4	SRS	10A
5	運転席側 リヤパワーウィンドー	15A
6	助手席側 リヤパワーウィンドー	15A
7	助手席 パワーウィンドー	15A
8	オーディオ (VST)	10A
9	USB チャージャー	7.5A
10	—	—
11	E-LATCH	7.5A
12	バックアップ 2	10A
13	VSA(VST)	5A
14	アクセサリーソケット	20A
15	アクセサリー	5A
16	Honda スマートキー システム	10A
17	IMG	7.5A
18	運転席 パワーウィンドー	20A
19	—	—
20	SRS エアバッグシステム	5A
21	リヤワイパー	10A
22	後退灯	5A
23	シートヒーター*	(10A)
24	オプション	7.5A
25	ヒーテッドドアミラー*	(10A)
26	—	—
27	電動ドアミラー	7.5A
28	エアコン	5A
29	RR DEF	20A
30	運転席側ドアロック モーター(アンロック)	10A
31	—	—
32	助手席側ドアロック モーター(アンロック)	15A
33	メーター(VST)	7.5A
34	ACC(VST)	5A
35	助手席側ドアロック モーター(ロック)	15A
36	運転席側ドアロック モーター(ロック)	10A
37	フューエルポンプ	15A
38	スターターカットコイル	5A
39	FI(EM)	10A
40	フロントワイパー	5A
41	メーター	7.5A
42	—	—
43	—	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

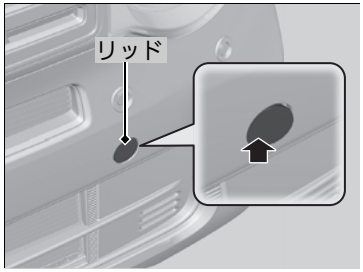
ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
各ヒューズの装備と容量 P.376, 378

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. リッドの左側を押し込んで外す。

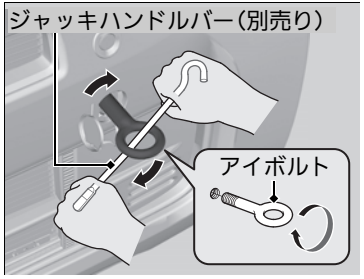
≫非常時のけん引

アドバイス

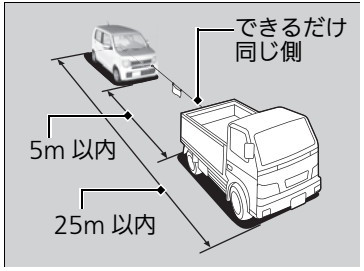
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。
➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.277



3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバー(別売り)や固い金属の棒などを使用し確実に締め付ける。



4. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

5. エンジンをかけてセレクトレバーを[D]にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにします。

6. セレクトレバーを[N]にする。

≫非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

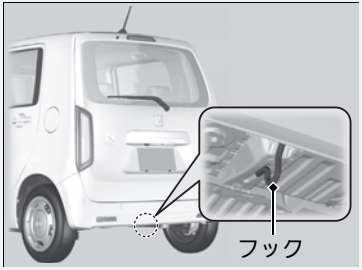
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

次ページに続く

7. パーキングブレーキを解除する。
8. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

非常時のけん引

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



フューエルリッドが解錠できないとき

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



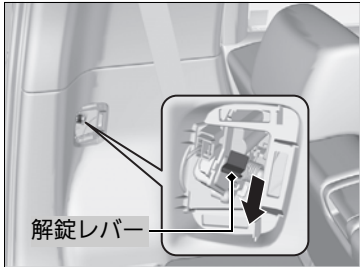
1. テールゲートを開ける。

2. リヤシートを前方いっぱいに動かす。

➡ **リヤシートの調節** P.140

3. ジャッキハンドルバー(別売り)または先端が平らな固い金属の棒の先でカーゴスペース助手席側にあるリッドを開ける。

▶ リッドが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒の先に布などを巻き付けてください。



4. 解錠レバーを下げる。

▶ 解錠レバーを下げるとフューエルリッドが解錠されます。

5. フューエルリッドを開ける。

➡ **給油のしかた** P.295

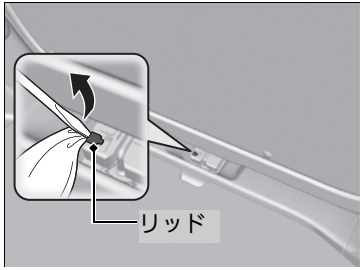
解錠できないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

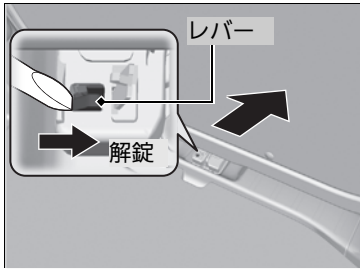
テールゲートが開かないとき

■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
▶リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

≫開かないときの対処方法

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様：N-WGN 386
仕様：N-WGN CUSTOM 388
オープンソースライセンス 390

仕様：N-WGN

■仕様

名称	N-WGN
排気量	658cm^3
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	4名

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.0-11.0mm
	床板とのすき間	130mm以上 {約196N(20kgf)の力}

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1 ： 2WD車
※2 ： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量/タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1 ： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ハイ/ロービーム)	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	12V-21W橙色 (WY21W)
車幅灯	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-21W橙色 (WY21W)
尾灯	LED
後退灯	12V-16W (W16W)
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W(W5W)
室内灯	12V-8W

■ディファレンシャルオイル 4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード 4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラDPSF-II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正ウルトラHCF-2
規定量	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1 ： 2WD車
※2 ： 4WD車

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN級以上0W-16, 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

仕様：N-WGN

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.79L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	240（2.4）
	後輪	230（2.3）
リムサイズ	14×4 1/2J	

仕様：N-WGN CUSTOM

■仕様

名称	N-WGN CUSTOM
排気量	658cm^3
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	4名

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1 ： ターボ非装備車
※2 ： ターボ装備車
点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.0-11.0mm
	床板とのすき間	130mm以上 {約196N(20kgf)の力}

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1 ： 2WD車
※2 ： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量/タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1 ： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
フォグライト	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯/尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W(W5W)
室内灯	12V-8W
前席フットランプ	LED
ドリンクホルダーランプ	LED
インパネトレーランプ	LED

■ディファレンシャルオイル 4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード 4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラDPSF-II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正ウルトラHCF-2
規定量	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1 ： 2WD車
※2 ： 4WD車

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN級以上 0W-16, 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SN級以上 0W-20, 5W-30	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.79L※1 (交換時：リザーブタンク 0.31L 含む) 2.78L※2 (交換時：リザーブタンク 0.31L 含む)

※1 ： ターボ非装備車
※2 ： ターボ装備車

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S※1	
	165/55R15 75V※2	
空気圧 kPa (kgf/cm²)	前輪	240 (2.4)※1
		210 (2.1)※2
	後輪	230 (2.3)※1
		210 (2.1)※2
リムサイズ	14×4 1/2J※1 15×4 1/2J※2	

※1 ： ターボ非装備車
※2 ： ターボ装備車

オープンソースライセンス

メーター オープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

数字

4WD(四輪駆動機構)..... 188
7速マニュアルシフトモード..... 178
シフトインジケーター/M（7速マニュアルシフトモード）表示灯..... 67, 177

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)..... 285
ABS警告灯..... 61, 285
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)
ACC警告灯(オレンジ)..... 63
ACC表示灯(ホワイト/グリーン)..... 69
A/C(エアコン)..... 159

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ)..... 192
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯（オレンジ）..... 63
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯（グレー）..... 69

E

ECONスイッチ..... 180
ENGINE START/STOPスイッチ..... 1, 121
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯..... 62, 374

H

Honda SENSING..... 13, 189
Hondaスマートキー..... 101, 103
ENGINE START/STOPスイッチ..... 1, 121
Hondaスマートキー持ち去り警告..... 123
緊急時のエンジン始動方法..... 363
緊急時のエンジン停止方法..... 364
電池交換のしかた..... 332

I

IRカットガラス..... 338
ISOFIX/i-Size..... 49

L

LKAS(車線維持支援システム)..... 252
車線維持支援システム(LKAS)警告灯（オレンジ）..... 63
車線維持支援システム(LKAS)表示灯（ホワイト/グリーン）..... 69

M

M(7速マニュアルシフトモード)表示灯..... 67, 177
MIST..... 132

P

PGM-FI警告灯..... 60, 372

S

SRSエアバッグ..... 32
エアバッグシステム警告灯..... 39, 61

U

USBジャック..... 157

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)..... 186
VSA OFF警告灯..... 62, 187
VSA警告灯..... 62, 186

W

W(ワット数)..... 386, 388

ア

アームレスト 148
フロントシート 148
アイドリングストップシステム 181
アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ） 62
アイドリングストップ表示灯（グリーン） 68, 181
アイボルト 345, 381
明るさ設定 85
アクセサリー 343
アクセサリーソケット 156, 350, 357
安全支援情報 83
安全支援情報警告灯（オレンジ） 64, 65
安全支援情報表示灯（グリーン/グレー） 70
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） 63
衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー） 69
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） 63
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 64
路外逸脱抑制機能表示灯（グレー） 69
安全なドライブのために 23
安全に関する表示 20
安全のための確認事項 23
アンチロックブレーキシステム（ABS） 285
ABS警告灯 61, 285
アンテナ
マイクロアンテナ 165

イ

一酸化炭素の危険性 55
イモビライザーシステム 117
イモビライザーシステム表示灯 67
インフォメーション表示灯 68

ウ

ウィンカースイッチ（方向指示器） 124
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 313
ウィンドウォッシャースイッチ 132
ウィンドーの開閉 119
ウェアインジケーター 326
運転
エンジンの始動 169
シフト操作 176
ブレーキ操作 277

エ

エアクリーナーエレメント 386, 388
エアコン 159
エアクリーンフィルター 335
エアコンの使いかた 160
デフロスター 162
窓の曇りや霜の取りかた 162
モード切り換えスイッチ 160
エアバッグ 32
SRSエアバッグ 32
エアバッグシステム警告灯 39, 61
エアバッグのお手入れ 40
サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37
エマージェンシーストップシグナル 287
エンジンオイル 311
推奨エンジンオイル 311, 386, 388
エンジンスイッチ 121
パワーモード警告ブザー 122
エンジンの始動 169
エンジンが始動しない 361
バッテリーがあがったとき 365
エンジンルーム内のメンテナンス 308, 309
ウィンドウォッシャー液の補給 313
エンジンルーム内のメンテナンス項目 308, 309
推奨エンジンオイル 311, 386, 388
ボンネットを開ける 310
冷却水の点検と補給 369
エンジン冷却水 370, 387, 389

オ

オイルメンテナンス表示 303
オイルメンテナンス表示のリセットのしかた 307
応急修理剤(タイヤパンク) 347
オーディオ 82
オーディオ装置 165
オートエアコン 160
オートハイビーム 129
　オートハイビーム表示灯 66
オートマチックブレーキホールド 282
　オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 68
　オートマチックブレーキホールド表示灯 68
オーバーヒート 369
オープンソースライセンス 390
オドメーター 71

カ

外気温表示 72
鍵(かぎ) 101
ガソリン 295, 386, 388
下部取付金具 49
カレンダー 85

キ

キー 101
　Hondaスマートキー 101, 103
　Hondaスマートキーの電池が切れたとき 362
　キー閉じ込み防止装置 111
　キーナンバータグ 102
　キーレスエントリー 109
　キーレスエントリーでドアが開かない 18
　後席ドアが開かない 17
　電池交換のしかた 333
　内蔵キー 102
キー閉じ込み防止装置 111
キーナンバータグ 102
キーレスエントリー 109
　電池交換のしかた 333
キックダウン 175
急アクセル抑制機能 208
給油 295
　給油のしかた 295
　指定燃料 295, 386, 388
　燃料計 71
　燃料残量警告灯(オレンジ) 61

ク

空気圧 387, 389
空気圧測定器による点検 326
グラブレール 3
クリープ現象 175
クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン) 69
車の改造 343
グローブボックス 150

ケ

経過時間表示 81
計器 56
警告灯 59
　ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 61, 285
　EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 62, 374
　PGM-FI警告灯 60, 372
　VSA OFF警告灯 62, 187
　VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 62, 186
　アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ) 62
　安全支援情報警告灯(オレンジ) 64, 65
　エアバッグシステム警告灯 39, 61
　シートベルト非着用警告灯 60

車線維持支援システム(LKAS)警告灯（オレンジ） 63
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ) ... 63
充電警告灯 60, 372
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯（オレンジ） 63
トランスミッション警告灯 61
燃料残量警告灯(オレンジ) 61
パーキングセンサー警告灯 63, 292
ブレーキ警告灯(レッド) 59, 373, 374
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 60, 374
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） 63
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 64
警告灯の点灯/点滅 371
警告メッセージ 87
けん引 380

コ

交換
後退灯電球 316
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 316
室内灯電球 319
車幅灯電球 315
制動灯/尾灯電球 316
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 314
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 315
ハイマウントストップランプ電球 318
番号灯電球 318
フォグライト電球 315
ヘッドライト電球 314
ワイパーブレードラバー 320, 323
工具 345
航続可能距離 79
航続距離/燃費/トリップメーター 77
後退灯 316
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 316
コンビニフック 155

サ

サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37
サンバイザー 3

シ

シートの調節 138
アームレスト 148
フロントシート 138
ヘッドレスト 146
リヤシート 140
シートヒーター 158
シートベルト 24
シートベルトのアンカーポイント 31
シートベルトの着用 28
シートベルトの点検 30
シートベルト非着用警告灯 60
シートベルトプリテンショナー 27
シートベルトリマインダー 25
全席シートベルト 82
妊娠中のかたのシートベルトの着用のしかた 30
リヤシートベルトリマインダー 26
時刻/日付の設定 97
室内装備品 149
室内灯 149
シフトインジケーター 177
シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯 67
シフトスイッチ 179
シフト操作 176
シフトポジション 176
シフトポジション表示灯 177
シフトポジション表示灯 67
車外の清掃 340
車線維持支援システム(LKAS) 252
車線維持支援システム(LKAS)警告灯（オレンジ） 63
車線維持支援システム(LKAS)表示灯（ホワイト/グリーン） 69

車速/経過時間/トリップメーター 80
ジャッキ 345, 359
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ） 345, 360
ジャッキハンドルバー 345, 360
車内の清掃 337
車幅灯 315
車両データの記録について 20
ジャンプスタート 365
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 230
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ) ... 63
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン) 69
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)表示 73
充電警告灯 60, 372
収納装備 150
瞬間燃費表示 78
仕様 386, 388
衝撃感知ドアロック解除システム 114
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 192
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯（オレンジ） 63
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯（グレー） 69
シンプル 76

ス

スイッチ操作
ECONスイッチ 180
ENGINE START/STOPスイッチ 121
オートマチックブレーキホールドスイッチ 282
ステアリング 135
パーキングブレーキスイッチ 277
ヘッドライトレベリングダイヤル 128
リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ 134
ワイパー/ウォッシャー 132
スーパーUVカットガラス 338
ステアリング 135
ステアリングスイッチ 190
スノータイヤ 331
スパークプラグ 386, 388
スピードメーター 71
スライドボード 140

セ

清掃 337
制動灯 316
セキュリティシステム 117
イモビライザーシステム 117
セキュリティアラームシステム 117
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない 368
セレクトレバーの操作 177
先行車発進お知らせ機能 263
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 314

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 315
ソナーセンサー 276

タ

ターボ車 298
タイヤ 325
ウェアインジケーター 326
指定空気圧 387, 389
タイヤ角度モニター 95
タイヤの点検 325
タイヤのローテーション 330
タイヤパンク応急修理キット 347
冬期のタイヤ 331
パンク 347
タイヤチェーン 331

チ

チェーン 331
チャイルドシート 42
ジュニアシート 53
乳児のチャイルドシート 43
幼児のチャイルドシート 44
チャイルドプルーフ 113
駐停車操作 288

テ

停止表示板入れ 155
低水温表示灯 66
データの取り扱いについて 20
テールゲートの開閉 115
テールゲートが開かないとき 384
デフロスター 162
リヤデフロスタースイッチ 134
点火プラグ 386, 388
電子制御パーキングブレーキ 277
電子制御ブレーキアシスト 286
電池交換 332
電話 82

ト

ドアの施錠と解錠 101
Hondaスマートキー 101, 103
解錠してもドアが開かない 18
キー閉じ込み防止装置 111
キーナンバータグ 102
キーレスエントリーシステム 109
後席ドアが開かない 17
車外でのドアの施錠/解錠 104
車内でのドアの施錠/解錠 112
チャイルドプルーフ 113
ドアミラー 136
冬期のタイヤ 331
スノータイヤ 331
タイヤチェーン 331
時計 73, 97
時計/車両設定 88
トップテザーストラップ 50
トップテザー取付金具 50
トラブルシューティング
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードからアクセサリーモードにならない 17
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードにならない 17
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 18
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 18
エンジンが始動しない 361
オーバーヒートした 369
解錠してもドアが開かない 18
警告灯が点灯/点滅した 371
けん引してもらいたい 380
後席ドアが開かない 17
セレクトレバーが動かない 368
走行するとブザーが鳴る 18
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 18
ハイオクガソリンは使える？ 19
バッテリーがあがったとき 365
パンクした 347
ヒューズが切れた 375
フューエルリッドが解錠できない 383
ブレーキを踏むと音がする 19
ブレーキを踏むと振動する 17
トランスミッション警告灯 61
トランスミッションフルード 386, 388
トリップメーター 78
ドリンクホルダー 153

ナ

内蔵キー 102
ナビゲーション 82

ネ

燃料 295, 386, 388
燃料計 71
燃料残量警告灯(オレンジ) 61

ハ

パーキングセンサーシステム 290
警告灯 292
排気ガスの危険性 55
ハイビーム 126
ハイビーム表示灯 66
ハイマウントストップランプ 318
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 2, 346
発進補助ブレーキ機能 185
バッテリー
充電警告灯 60, 372
バッテリーがあがったとき 365
容量/タイプ 386, 388
バッテリーがあがったとき 365
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉 119
パワーモード 121
パワーモードオートオフ機能 122
パワーモード警告ブザー 122
パワーモードの切り換えかた 121
パンク 347
番号灯 318
ハンドル 135
ハンドル位置調節レバー 135

ヒ

ヒーテッドドアミラースイッチ 134
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 316
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 376, 378
ヒューズの設置場所 375
ヒューズの点検と交換 379
標識認識機能 268
標識認識機能表示 72
表示灯 66
ECONモード表示灯 68
アイドリングストップ表示灯(グリーン) 68, 181
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) 70
イモビライザーシステム表示灯 67
インフォメーション表示灯 68
オートハイビーム表示灯 66
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 68
オートマチックブレーキホールド表示灯 68
急アクセル抑制機能表示灯 66
クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン) 69
シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯 177
シフトインジケーター/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯 67
シフトポジション表示灯 67, 177
車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/ グリーン) 69
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン) 69
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) 69
セキュリティアラームシステム作動表示灯 67
低水温表示灯 66
ハイビーム表示灯 66
フォグライト点灯表示灯 66
方向指示器/非常点滅表示灯 66
ライト点灯表示灯 66
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 69

フ

ブースターケーブル..... 365
フォグライト..... 126
　電球の交換..... 315
ブザー
　運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 18
　走行するとブザーが鳴る 18
踏み間違い衝突軽減システム..... 202
フューエルリッド
　フューエルリッドが解錠できないとき.... 383
　フューエルリッドの開けかた..... 295
ブレーキ警告灯(レッド)..... 59
ブレーキシステム..... 277
　ABS(アンチロックブレーキシステム).... 285
　アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない..... 18
　エマージェンシーストップシグナル 287
　オートマチックブレーキホールド..... 282
　電子制御パーキングブレーキ..... 277
　電子制御ブレーキアシスト 286
　パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 18
　フットブレーキ..... 281
　ブレーキ警告灯(レッド) 59, 373, 374
　ブレーキシステム警告灯（オレンジ）..... 60, 374
　ブレーキを踏むと音がする..... 19
　ブレーキを踏むと振動する..... 17
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 60, 374
ブレーキフルード..... 386, 388
　ブレーキ警告灯(レッド) 59, 373, 374
　ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 374
フロアボード..... 140
フロントシート..... 138
　フロントシートアームレスト 148
　フロントシートヘッドレスト 138, 146
フロントワイドビューカメラ..... 274

ヘ

平均車速表示..... 81
平均燃費表示..... 78
ヘッドライト
　オートハイビーム 129
　オートハイビーム表示灯 66
　ハイビーム表示灯 66
　ライト点灯表示灯 66
ヘッドライトレベリングダイヤル..... 128
ヘッドレスト
　フロントシート..... 138, 146
　リヤシート..... 147

ホ

ホイールカバー..... 327
ホイールサイズ..... 387, 389
ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル）..... 345, 360
方向指示器(ウィンカー)
　方向指示器/非常点滅表示灯..... 66
方向指示器(ウィンカースイッチ)..... 124
ホーンスイッチ..... 1
歩行者事故低減ステアリング..... 222

マ

マイクロアンテナ..... 165
マルチインフォメーションディスプレイ..... 74
　表示の切り換えかた..... 74

ミ

ミラー..... 136
　ドアミラー 136
　バニティミラー 3
　ルームミラー..... 136

ム

無段変速オートマチックトランスミッション..... 175

メ

メーター 71
アンビエントメーター 71
オドメーター 71
外気温表示 72
スピードメーター 71
燃料計 71
標識認識機能表示 72
マルチインフォメーション ディスプレイ 74
メーター表示設定 87
メンテナンス 299
Hondaスマートキー 332
エアコンのお手入れ 335
エンジンルーム内の メンテナンス項目 308, 309
オイルメンテナンス表示 303
清掃 337
タイヤの点検と整備 325
メンテナンスに関する注意事項 302
メンテナンスを安全に行うために 301
ライト類の点検と整備 314
ワイパーブレードラバーの点検と整備 320

モ

モード切り換え(エアコン) 160

ヨ

四輪駆動機構(4WD) 188

ラ

ライトスイッチ 125
オートハイビーム 129
ハイビーム表示灯 66
フォグライト点灯表示灯 66
ライト点灯表示灯 66
ライト類の点検と整備 314
後退灯電球 316
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球 316
室内灯電球 319
車幅灯電球 315
制動灯/尾灯電球 316
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球 314
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球 315
ハイマウントストップランプ電球 318
番号灯電球 318
フォグライト電球 315
ヘッドライト電球 314
ラジエーター 308, 309, 369

リ

リアシートリマインダー 143
リアワイドカメラシステム 294
リザーブタンク 308, 309, 370
リフレッシュモード 144
リムサイズ 387, 389
リヤシート 140
リヤシートヘッドレスト 147
リヤシートアンダートレイ 150
リヤシートベルトリマインダー 26
リヤデフロスタースイッチ/ ヒーテッドドアミラースイッチ 134

ル

ルームミラー 136

レ

冷却水 370, 387, 389
オーバーヒート 369
低水温表示灯 66
補給 370

ロ

路外逸脱抑制機能 213
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) 63
路外逸脱抑制機能操舵アシスト
一時停止警告灯 64
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 69

ワ

ワイパー/ウォッシャー 132
ワイパーブレードラバー 320

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名